

## 日本山岳会宮城支部設立 60 周年記念誌 (「宮城山岳」 第 23 号)



Miyagi Branch of The Japanese Alpine Club

次

玉山と仙台カゴをつなぐ平澤家・・・・・・・・・千石 に随筆編「この一〇年 思い出の山・思い出のできごと」	六〇周年記念講演会・・・・・・・・・・・・・・・遠藤 知六〇周年記念祝賀登山「太白山」・・・・・・・・ 佐藤 昭六〇周年記念祝賀会・・・・・・・・・・・・ 佐藤 昭六〇周年記念海外登山「玉山」・・・・・・・・ 草野 送宮城支部設立六〇周年記念事業編	3 宮城支部以外の日本山岳会行事参加記録・・・・・ 記念誌毎2 山行以外の宮城支部行事記録・・・・・・・・・・ 記念誌毎第九代 富塚支部長時代(二〇一七年度~)・・・・・ 記念誌毎第七代 千石支部長時代(二〇一二~二〇一二年度)・・ 店橋 二第七代 千石支部長時代(二〇一一年度)・・・・・ 記念誌毎1 月例山行記録・・・・・・・・・・ 記念誌毎1 月例山行記録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	巻頭言―還暦を迎えた宮城支部―・・・・・・・支部長 冨塚 和
信	銀昭和洋	編編編 和昭二信 集集集 衛次義夫	和
夫	朗次衛一・郎・・		衛
•	· db · ·	部 部 部 ・ 郎 ・ ・ 会 会 会 ・ ・ ・・	•
•			
• 上	六六六六	五四一 一九六四	_
七	スススス 九七五〇		
四		ka Tr Tr —	

題字:(故)伊達篤郎会員

表紙カット:宮城の名山「オポコンベ」(イラスト:三宅 泰会員) 裏表紙カット:輪かんじき(イラスト:高橋 功会員)

登山の技術2・・・・・・・・・・・・・・・遠藤	登山の知識2・・・・・・・・・・・・・・佐藤	登山の知識と技術シリーズⅡ	追悼・林田健治さんとの山々―忘年登山を中心にヿ・・・柴崎	橋元一さんを偲ぶ・・・・・・・・・・・・木	山の先達 吉野禎造さん・・・・・・・・・・・・柴崎	藤邦慶さんを偲んで・・・・・・・・・・・高	佐々木郁男さんの想い出・・・・・・・・・・木皿	郁男さんの海外登山・・・・・・・・・・柴	追悼編「忘れえぬ山の仲間」	山ガール日記―雑談編―・・・・・・・・・・川嶋	槍ヶ岳の思い出・・・・・・・・・・・・・・津田	この十年の思い出の山と出来事・・・・・・・・・鳥田	熊野古道を行く~伊勢路と峠越え~・・・・・・・・冨塚	槇有恒と仙台(訂正版)・・・・・・・・・・・ 千葉	この十年 私の山との付き合い・・・・・・・・遠藤	この十年 私の思い出の山・・・・・・・・・・鳥田	山は素晴らしい!!・・・・・・・・・・・・・富塚	アルプス雲ノ平、高天ヶ原・・・・・・・・・・草	平成を辿る・・・・・・・・・・・・・・・木皿	おもいでー震災前後の山・・・・・・・・・・三字
			川可			僴	Ш	呵		嶋						田				七
銀	昭		徹	謙	徹	<u>二</u> 羊	謙	徹			久			正				洋	謙	泰
朗	次邮		•	•	•	義	•	•		十	-	志・				美		_	•	•
•	郎		•		•	•	•	•		•	1	:	•	•			7	•	•	•
•			•					•								•		•	•	•
					•					•										
	_			_	_		_										Л	Л	+	+
=	八				0	0	0													

編集後記・訂正記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	日本山岳会宮城支部資料編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	登山指導者の育成法1・・・・・・・・・・・・
・記念誌編集部会・・一三七	宮城支部事務局・・一二八	・髙橋 二義・・・・一二五

# -還暦を迎えた宮城支部-

# 公益社団法人日本山岳会 宮城支部長 富塚 和衛

支部も生まれたころに還り、周年事業を中心に振り返ってみたいと思います。 に還る(赤ちゃんに還る)」と言う意味で「還曆」と呼ぶようになったそうです。そこで、設立六○周年を迎えた宮城 類にもおよび、人間が生まれてから六○年経つと干支が一巡することになります。この事から「生まれた時と同じ暦 し)と十干(じっかん)を組み合わせた干支(えと)が関係しているそうです。十二支と十干の組み合わせは六○種 たちの宮城支部も人間でいえば還暦を迎えました。 ご案内のとおり還暦と言う言葉の意味は、 十二支 (じゅうに

動を続けて来ました。二〇一二年四月には公益社団法人となり、その活動も、 社会に貢献するにふさわしい活動が求められるようになりました。 日本山岳会宮城支部は一九五八年 和二二年)、山 形支部 (昭和二五年)に続き三男坊として産声を上げました。 (昭三三年五月一九日)に全国で十四番目の支部として、 文化活動や自然保護・環境保全活動等、 以来、 半世紀を過ぎる長きに渡り活 東北地域では福島支部

《宮城支部発足時(一九五八年);赤ちゃん時代》

立記念山行が行われています。 の活力として連綿と引き継がれてきたのではないでしょうか。また、 文言が見られます。 のメンバーに瀬戸輝武(会員番号四七三二)と言う方がおりました。 城支部の設立総会は仙台市公会堂で開催され、起草した支部規約が承認されました。 支部創生に携わった諸先輩の迸るほどの意気込みが感じ取られます。 更に、 蔵王に関する講演や講和が東北大山岳部などと連携して開 設立記念事業として蔵王丸 実は、この方は私が勤めていた職場で直属 この推 規約 には 田沢において支部設 催されています。 進力こそが宮城支部 推 進力」 と言う 創

かみ がちに話すお姿を懐かしく思い出 司でした。 その当時は、 スキー の お話を聞いたことはありましたが登山 ました。 のお話を聞 61 た記憶がありませ はに

# 《一〇周年 (一九六八年);小学生時代》

心的存在として活躍していたことが伺えます。 蔵王と松島 ح の 年、 周年記念行事としてのものか定かではありませんが、 で行われています。また、冬山遭難対策訓練なども実施されており、 宮城支部 が大きく成長している時代かもし 蔡景璋を団 長とする台湾山 会員数三四名をもっ れ ません。 岳協会が来仙 7 県 山 L 交換会が 岳界の中

# 《二〇周年 (一九七八年);成人式》

活動 年代~八〇年代は海外遠征が行われた時 特に、この年の周年記念事業は見当たりません が目立ちます。 また、 平澤亀一郎会員を隊長とした北海道 代でもあるようです。 が、 この 頃、 船 支部と合同 形 山 Щ 塊昆 で 虫調 の 台湾 査や南 王 Щ 登山 蔵 王 『が行 生 態 系調 わ れ . T 査など学 ιĮ ・ます。 術 的な

# 《三〇周年(一九八八年);青年時代》

この年も、 など、 今も実施している月例山 に 周年事業は見当たりません 行や行事が定着してきた時代ではなかったでしょうか。 が、 元旦登山、 冬山 Щ 行、 厳冬期 Ш 行、 早春山行、 そしてビー ル ーテ

# 《四〇周年 (一九九八年);アラフォー時代》

ます。 太白山登山が実施され (不老不死の神 仙台市中心部の南西に太白山があります。 個々人が自立旺盛な時代だったの 苮 仙 人 ています。また、 が実在する考え) 佐々木まさ子会員 かもしれません この太白 なるものがあるそうです。 Щ は が御 中 -国泰嶺 :嶽山 山脈 を最後に深田 がの太白 この年、 Щ 久弥の百名山を完登した年でもあり 支部設立 韓国 太白 四〇周年年事業とし Ш と関係をもつ て韓国 仙 思想

# 《五〇周年 (二〇〇八年);壮年時代》

設立五〇周年記 宮城支部 走、 開聞 :もこの年で産声を上げてから半世 念誌 岳登 Щ 「宮城山 ③ ∃ ] 岳 口 の発刊の三つの記念事業が行われました。 ッ パ アルプスト 「紀になります。 レッキン グ、 これを記念して、 ④モンブラン登山)、 将に、 記念山石 この時代までは、 祝賀会及び 行 1 屋 久島、 祝賀登山 壮年期らしく充 宮之浦 そして支部 岳 ( 永 田

実した支部活動が行われてきたのではないでしょうか。 るように、 壮年期を過ぎるころから支部の体力も徐々に落ちてくるのが自明となります。 会員数も六二名を数えていました。 会員の減少が見られるよう しかし、 人間がそうであ

《六〇周年 (二〇一八年);還曆》

になったのです。

した。 いられている方々も多くおられます。震災廃棄物処理に関わった一人として心が痛みます。そんな中ではありますが、 の出来事もありました。 六○周年記念事業を、 支部設立五○周年から一○年、この間に日本山岳会の公益法人化(二○一二年)や二○一一年三月の東 小林会長を始めとする東北・北海道支部長の皆様のご協力を賜り滞りなく実施する事が出来ま 大地震は東北太平洋沿岸に甚大な被害をもたらし、その傷跡は癒えず、 未だに避難生活を強 日 本大震災

多ければよいと言うものでもないかもしれませんが、 ました。この問題を解決する妙薬は無いとは思いますが、何か行動を起こさなければ、 少の一途をたどるのは想像に容易い事です。 しかし、 宮城支部は将来に向かって順風満帆ではありません。 残念ながら全国の支部でも最小の会員数の部類となってしまい 一〇年前に比べると会員が激減 会員の高齢 してい 化とも相俟って益々 います。 会員が

に考え共に行動して行く事が求められます。 宮城支部は二〇二八年に古希を迎えます。これまでの間 青年時代~壮年時代のような活力のある支部を目指して。 に、 会員増に向けた取り組みを会員同士が力を合わせて共

# 記録編

# - この一○年の日本山岳会宮城支部の歩み

# 第七代 千石支部長時代 (~二〇〇八年度)

### 千石 信夫

員、高橋功会員所蔵の東北各地の珍しいワカンジキも展示し、来場てきた支部設立五○周年記念事業のまさに本番の年となった。事業できた支部設立五○周年記念事業のまさに本番の年となった。事業できた支部設立五○周年記念事業のまさに本番の年となった。事業ではいり一○月一八日にホテル仙台プラザを会場に開催された。記念講演会では第6回秩父宮記念山岳賞を受賞、英国王立地理学会フェローを務め、『ヒマラヤの東』など多くの踏査記録を出版された中村保会員(後の名誉会員)にお願いした。会員は勿論会員外のた中村保会員(後の名誉会員)にお願いした。会員は勿論会員外のた中村保会員(後の名誉会員)にお願いした。書演会場には柴崎徹会一般の方も聴講され好評のうちに終了した。講演会場には柴崎徹会一般の方も聴講され好評のうちに終了した。講演会場には柴崎徹会

者は逸品ぞろいの展示に魅了されていた。

記念式典では宮下秀樹会長、神崎副会長、吉永常務理事をはじめ、 東北・北海道地区の各支部長そして首都圏、遠くは関西からのご参 東北・北海道地区の各支部長そして首都圏、遠くは関西からのご参 東北・北海道地区の各支部長そして首都圏、遠くは関西からのご参 東北・北海道地区の各支部長そして首都圏、遠くは関西からのご参 東北・北海道地区の各支部長そして首都圏、遠くは関西からのご参 東北・北海道地区の各支部長そして当からかまり山に因んだエー でステラ。による「蔵王のうた」の合唱から始まり山に因んだエー デルワイスなどそして、歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」の 間奏曲などクラシック音楽も楽しんでいただいた。参加者は総勢一 間奏曲などクラシック音楽も楽しんでいただいた。参加者は総勢一

の対応で見事に無事滞りなく終了し解散した。青葉城址、仙台市博物館など見学した。支部会員総動員(三七名)がある泉ヶ岳とし泉ヶ岳から北泉ヶ岳を回り下山、そして観光班はがある泉ヶ岳とし泉ヶ岳から北泉ヶ岳を回り下山、そして観光班は翌日一○月一九日には記念登山班は名誉会員槇有恒元会長に縁

助」)一五名参加した。 一一月五日には五〇周年記念事業打上会を催し(牛たん焼鳥「焼

担当:宇都宮昭義で二○○八年度は終了した。キー山行(山形蔵王) 担当:高橋功、三月二九日(日)早春山行担当:宇都宮昭義、佐藤昭次郎、二月二一日(土)~二三日(日)スその後、通常の行事となり、二月二日(月)冬山山行(大東岳)

私の支部長時代は、就任して三年後には五○周年が迫っていた時期でした。私はできるだけ早く準備に取り掛かりたいとの思いでこません。そして記念事業の推進には様々な問題に対応していただいません。そして記念事業の推進には様々な問題に対応していただいた担当の皆さま団結して対応できたことに感謝しております。あれた担当の皆さま団結して対応できたことに感謝しております。あれた田当の皆さま団結して対応できたことに感謝しております。あれた田当の遠さをことさらに感じております。そして新たな一○年に前はできるだけ早く準備に取り掛かりたいとの思いでこ期でした。私はできるだけ早く準備に取り掛かりたいとの思いでこ前でした。



宮城支部設立五十周年記念講演会・祝賀会記念写真

# 第八代 高橋支部長時代 (二〇〇九~二〇一二年度)

### **過橋** 二義

私の支部長就任総会時に話題になったのは若手が就くべきだという議論でした。そこで選出されたのが若手で元気に活動していた佐藤昭次郎さんでした、しかし、彼はその選出を受け入れずに他にやるべき人がいるとの主張でした。大分もたつきましたが、結局本人の話で髙橋二義の名があげられて収まりました。それは一度も名前がでした。全く突然の事で大いに戸惑いました。それは一度も名前が挙がらなかったのに総会が選出したのではなく、昭次郎さんが選出した人を出席者が黙認した形で決まったのです。私自身は何かもやもやが胸に残りすっきりした気持ちになれませんでした。こんな形で選ばれたのでしたが引受けることにしたのでやるしかありませんでした。

始の働きかけなどでした。開催、二期に亘る公募登山の開催、山岳地帯空間放射線量の測定開知、東日本大震災時の対応、震災の年に開かれた全国支部懇談会の任期期間中に進めたことは、記念事業の分水嶺縦走、公益化の周

決められた時期でした。宮城支部と山形支部は、花山峠から板谷峠大分水嶺縦走計画が本部で決まり、各支部に縦走区間の割り振りがこの時期日本山岳会は創立百周年の記念事業として、日本列島の

までの区間設定になりました。計画を具体化する前に山形支部とどまでの区間設定になりました。計画を具体化する前に山形支部ととまでの区間が確定し進められたのです。 までの区間が確定し進められたのです。 と区間が確定し進められたのです。 と区間が確定し進められたのです。 と区間が確定し進められたのです。 と区間が確定し進められたのです。

々しく開催され大いに懇親を深めました。
になり、今度は山形支部の肝入りで、月山麓の志津温泉集落にて賑あまり違いはありませんでした。よって共同で打ち上げを行うこと山丘第十六号に詳しく報告されております。終了時期も山形支部と山丘第十六号に詳しく報告されておりますし、支部として宮城

途上でラジオの報じていた津波警報に驚きました。十mを越えると驚き、まず一人暮らしの義姉の安否を確認しに向かいました。運転然の激しい揺れに見舞われました。体験した事のない激しい揺れに火に震災対応ですが、当時自宅でパソコン作業をしていた時に突

日後に本部に会員は全員無事の連絡を入れたのでした。その後被害 ませんでした。もうだめかと思いつつ自宅に戻りました。数日過ぎ まざまざと認識させられました。親戚はどうなったのかと、とても ました。深沼の集落はそのほとんどが流失しており被害の大きさを 解させられました。更に深沼まで足をのばし途中から歩いて向かい 第二波以降を心配して引き返しました。二日後に再度行き一軒目は がわかり若林区の親戚に向かいました。既に津波が来ており、東部 ネパールから来ている友人宅が心配でそこに行きましたが、不在で 四mくらいに生活している親戚が心配になりました。しかし、先に 報じてましたが、いつもは津波注意報の放送が普通でしたので標高 出来ないか考えましたがうまくまとまりませんでした。そして、数 石巻の二人は二階で生活しているとの情報もいただき、何か支援が だき会員本人は全員無事であることが解り安堵いたしました。当時 していた三上さんに確認をお願い致しました。数日して連絡をいた て、ヘドロが二〇㎝くらいたまっている中を建物を一廻りして確認 家は無事でしたが流れてきた外車が入り口を塞いでおりそれを越え した。歩こうかとも考えましたがここまで波が来たと云うことは、 道路の東側に大量の松の木が漂着し、道を塞いでおり進めませんで したので更に近くの避難所に向かいました。そこで無事であること て会員の事が気になり調べ始めましたがなかなか大変で、当時在仙 心配でたが避難所であった筈の学校もやられており探す当てが有り しました。およそ一m弱の高さまで壁が汚れており津波の高さを理

がその支援を受けたのでした。の甚大さに本部から見舞金のお話が有りまして宮城支部では一六名

次に全国支部懇談会の事です。震災事故が発生し、本部では被災 次に全国支部懇談会の事です。震災事故が発生し、本部では被災 東駒山の紅葉を全国の方々に見ていただきたいとの思いが有りました。本部の再三の指導としては、準備は無理しないで町の中で開催してもよろしいとの言葉を何度かいただきました。宮城の役員会として協議しましたが、場所期間を変更することなく開催する事が確して協議しましたが、場所期間を変更することなく開催する事が確して協議しましたが、場所期間を変更することなく開催する事が確して協議しましたが、場所期間を変更することなく開催する事が確して協議しましたが、場所期間を変更することなく開催する事が確して協議しましたが、場所期間を変更することなく開催する事が確していただきました。宮城の役員会とれず、紅葉も過ぎてしまい期待した景色は見せられないまま終了したのが残念なことでした。

を手作りした記憶は未だに消えない物となりました。たが、急遽、東日本大震災の内容も盛り込んでいただき、講演資料たの、急遽、東日本大震災の内容も盛り込んでいただき、講演資料

惑を掛けました。できないでおり、会計の処理が今までとは大きく異なるという事でできないでおり、会計の処理が今までとは大きく異なるという事でが強化の周知につきましては、何がどう変わるのか私自身が理解

山岳地域の空間放射線量測定の必要性については何度か役員会で

て代変わりとなりました。として代変わりとなりました。とととは紫崎先生であることを確信し経過を静かに見守ることとしな説明できずに測定機を買う事もうやむやになってしまい手にする事が出来ませんでした。県の方にも連絡しましたが現在学者先生とは紫崎先生であることを確信し経過を静かに見守ることをうま活し合いましたがうまくまとめる事が出来ず、まず支部で測定機のて代変わりとなりました。

公募登山については以前から支部として一般の方々を対象に開催公募登山については以前から支部として一般の方々を対象に開催した。とで社会的意義も理解されることによる入会者は増えませんでしる。しかし、初回の雁戸山企画では事前学習会を実施して山名の由た。しかし、初回の雁戸山企画では事前学習会を実施して山名の由来や装備のお話をしていただき、出だしは順調でしたが、結局会場事のなりました。会場費を参加費に加えて費用をいただくことも検討さなりました。会場費を参加費に加えて費用をいただくことも検討さなりました。会場費を参加費に加えて費用をいただくことも検討さなりましたが参加希望者全員が事前学習に出られるとは限らず、会費の中に加算するのは役員の賛同を受けられませんでした。やがて支の中に加算するのは役員の賛同を受けられませんでした。やがて支の中に加算するのは役員の賛同を受けられませんでした。やがて支い時が対象に関係といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に開催といる方々を対象に関係といる方々を対象に関係といる方々を対象に関係といる方々を対象に関係といる方々を対象に関係といる方々を対象に関係といる方々を対象に対象が表した。

この期間本部でも話題になったのが最年少会員の山岳会加入でし

りました。三上勝宣さんの娘さんでした。私はお父さんにもしこれからもた。三上勝宣さんの娘さんでした。家族で相談してから返事をいただきれ入会者代表挨拶をしたことは、今でも忘れられない出来ごとになれ入会者代表挨拶をしたことは、今でも忘れられない出来ごとになれ入会者代表挨拶をしたことは、今でも忘れられない出来ごとになれ入会者代表挨拶をしたことは、今でも忘れられない出来ごとにない。三上勝宣さんの娘さんでした。私はお父さんにもしこれからも

最後に一言記します。宮城支部の慣例として支部長は二期四年出までとの慣習が有ります。支部運営の新鮮さと長期支部長での会理営の停滞感発生の苦い経験を防止するために考えられました。続ける場合でも一期止めて再度次期総会で任命を受ける事としておりますが規約には入っておりませんでした。支部長の成り手不足の時代でもあり、支部運営公費と合わせて見直す時期に来ているように思します。宮城支部の慣例として支部長は二期四年います。

# 第九代 佐藤支部長時代 (二〇一三~二〇一七年度)

### 佐藤 昭次郎

二〇一三年(平成二五)四月にKKR仙台で開催された支部総会に 二〇一三年(平成二五)四月にKKR仙台で開催された支部総会に 諸いて支部長に任命され、会員五二名の舵取り役を任されました。 音齢化と活性化の課題や「山の日」の法制化の取り組み等を知る事ができ理解していただけに、復興真っ只中の被災支部としては、趣ができ理解していただけに、復興真っ只中の被災支部としては、趣ができ理解していただけに、復興真っ只中の被災支部としては、趣ができ理解していただけに、復興真っ只中の被災支部としては、趣が変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に大変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に、大変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に、大変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に、大変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に、大変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に、大変な時期の任務であることを自覚し、事務局長に須藤幸蔵氏に、

求められる内容が発信されるなど、事が急務であり当支部もその対は来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞こえる中、前年(二○一二年四月)に本山岳会が出来ない等の声が聞きない。

応で忙しい年となりました。

宮城支部友制度新設への理解を求めてきました。てきた経緯で、この年は戸神山や西大森山など公募剤を山を企画し、てきた経緯で、この年は戸神山や西大森山など公募剤を山を企画し、宮城支部は活性化策として、支部友制度について前年から検討し

また、当時原発事故後の除染など、特に隣接する福島県の除染活動が日々報道される時期に、当宮城のホームグラウンドの現状はどうなのか?と言う素直な疑問が支部全体にあり、調査の術を県に打らなのか?と言う素直な疑問が支部全体にあり、調査の術を県に打らなのか?と言う素直な疑問が支部全体にあり、調査の術を県に打らなのか?と言う素直な疑問が支部全体にあり、調査の術を県に打きしたところ、県としても県内主要五山の登山道緑量調査を当支部に依頼したいとの合意に至り、六月から九月まで計測機器の貸与を受け多くの支部会員の協力を得て調査しました。その結果は県から広報され、委託事業は無事終了いたしました。支部はこの事案の為、「宮城山岳連信」に代えて会費を抑えながら会員への情報発信手段として年度内に一、二号を発行しました。

# 二〇一四年度(平成三六)

審山での総会から始まり、公益法人としてガバナンスやコンプラを、会員増第一主義には違和感を覚えながらも、それに向け努力しど、会員増第一主義には違和感を覚えながらも、それに向け努力しど、会員増第一主義には違和感を覚えながらも、それに向け努力しど、会員増第一主義には違和感を覚えながらも、それに向け努力しど、会員増第一主義には違和感を覚えながらも、それに向け努力してまいりました。

大部友会の新設が総会で認められ、この年度より支部友会が発足、支部友会の新設が総会で認められ、この年度より支部友会が発足、支部友会の新設が総会で認められ、この年度より支部友会が発足、

ました。 してもらい、富塚会員がその補佐を務める事で会運営をしてまいり をお掛けする事となりましたが、当該年度は継続して頂く事を了承 局長が辞意を表明するなど、一時期事務局不在になり会員にご迷惑 前年度後半からの線量計測に端を発した問題で、任期途中で事務

「宮城山岳連信」三、四号の発行

# 二〇一五~二〇一六年度(平成二七~二八)

ました。

ました。

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでは、

ないのでのでは、

ないでのでは、

ないでは、

ないでは、
はいでは、
はいでは、

ないでは、

ないでは、

ないでは、

ないでは、
はいでは、
はいでは、
はいでは、

ないでは、
はいでは、
はいでは、
はいでは、
はいではいは、
はいではいはは、
はいではいは、
はいではは、
はいではいは、
はいではいは、
はいではいいでは、
はいではいは、
はいではいは、
はいではいはは、
はいでは、

支部会費を徴収しない宮城支部としては、活動そのものが縮小す支部会費を徴収しない宮城支部としては、活動そのものが縮小す支部会費を徴収しない宮城支部としては、活動そのものが縮小す支部との交流を分水嶺が走る最上町で開催し禿岳記念登山をして施行されると、山岳団体としてその主体的行動が求められ、支部として施行されると、山岳団体としてその主体的行動が求められ、支部として隣県山形支部との交流を分水嶺が走る最上町で開催し禿岳記念登山をし「山の部との交流を分水嶺が走る最上町で開催し禿岳記念登山をし「山の部との交流を分水嶺が走る最上町で開催し禿岳記念登山をし「山の神の交流を分水嶺が走る最上町で開催し禿岳記念登山をしている事が懸念される。

識した事柄でありました。宮城支部として平澤氏を顕彰するレリー宮城県庁から宮城支部の名誉会員であることを我々支部会員をはじめ山岳会としても再認にの間い合わせがあり、氏が台湾(中華民国)にて、生涯をかけて取ての問い合わせがあり、氏が台湾(中華民国)にて、生涯をかけて取ての問い合わせがあり、氏が台湾(中華民国)にて、生涯をかけて取ての問い合わせがあり、氏が台湾(中華民国)にて、生涯をかけて取ら名誉会員である(故)平澤亀一郎氏につい宮城県庁から宮城支部の名誉会員である(故)平澤亀一郎氏につい宮城県庁から宮城支部の名誉会員である(故)平澤亀一郎氏につい宮城県庁から宮城支部の名誉会員である(故)平澤亀一郎氏につい

11

ことにしました。 数回整備するとともに月例山行や公益事業山行の対象山域にとする フを岩場に設置してある仙台カゴについては、それ以降に登山道を

を支部友会員と共に味わい歓喜に浸る事が出来ました。 域から抜け出し、後立山(白馬岳)を企画し、本来の登山が持つ魅力 更に愛好家との交流の場を広げました。共益事業山行としては東北 対応し、公募登山教室を五月に黒伏山、九月に不忘山などで行い、 山や登山教室などを企画するにあたり月例山行と併せた事業として 公益的事業が益々求められる中、実働会員が減少する中、親子登

「宮城山岳連信」五、六号発刊

# 二〇一七年に(平成三九)

新たな時代を感じながら、今後は支部を取り巻く愛好者と共に前進 して行ければ・・と、期待をして任期最後の年度の任に当たりまし 仙台市作並地区の鎌倉山で支部友を交えた初めての移動総会で、

決定し、会員友会員など多くの賛同者でしたが、当日の雨で延期と れ、また決定された各支部の行事が報告される等、 れるなどで、この祝日の盛り上げ浸透の事業が本部より提案提唱さ がこの年から施行となり、それに関する事業のアンケート調査がさ 山丘界が要望して成立した国民の祝日、八月一一日の「山の日」 宮城は周知広報活動と市民、 県民の山(泉ヶ岳)清掃登山を 圧迫感を抱きな

> れました。 好会ではなく、山丘界をリードできる人材育成に力を注ぐために、 なりました。また年間の事業計画に平澤亀一郎翁のレリーフのある いながら、前へ進もうという本部の姿勢を感じる事業も取り入れら を含む講習会を初めて行い、東北の各支部の絆意識を高め補完し合 安全登山講習会を(本部主催 支部主管)宮城秋保の地で開催し、実技 玉山とし、相互交流を現在も続けております。さらに将来の「山の れが縁で宮城支部六〇周年記念事業の記念登山(二〇一八年)を台湾 い、回を重ねた公募登山教室を五月「仙台カゴ」にて開催しました。 「仙台カゴ」は、支部としても大切な山と位置づけ登山道整備を行 郎翁ゆかりの「仙台カゴ」への案内などで親交を深め、その後こ 「山の日」を付した事業が続きました。また日本山岳会が単なる愛 七月急遽来仙した中華民国山岳協会員との交流が持たれ、平澤亀 事業と目論んだ山形支部交流は摩耶山で開催されるなど、冠に

「宮城山岳通信」七、

間ご協力を頂き誠に有難うございました。 事次期冨塚支部長に引き継いで頂いて胸をなでおろしました。長い この様な改革期の舵取り役を終え任期四年を、皆様の協力得て無

# 

### **逼**塚和衛

平成二九年度は役員改選の年度。四月八日の一七名参加の総会に 下三名。 一下した。 事務所は仙台市宮城野区岩切字畑中九ー一二の冨塚会員 でいて新支部長に冨塚和衛、新副支部長に遠藤銀朗、会計担当中条 おいて新支部長に冨塚和衛、新副支部長に遠藤銀朗、会計担当中条 おいて新支部長に冨塚和衛、新副支部長に遠藤銀朗、会計担当中条 が三名。

> 帰りは村上敏郎支部友会会員の案内で仙人沢を下る。途中秋の味覚 想があった。参加者は二六名。八月二七日の沢登山行は禿岳火の沢、 柴崎徹会員著「宮城の名山」で白沢南側丘陵上にある五つ森の名称 において、四月、八月、一二月を除く九回開催した。 あけら山、一一名の参加。また、役員会を仙台市シルバーセンター 日の厳冬期山行は南面白山、五名の参加。三月二五日の早春山行は ヶ岳登山。一月二一日の冬山登山は大東岳、四名の参加。二月一一 で紹介されている白沢五山、一三名の参加。元旦には有志による泉 全登山に関し、簡単な講義があった。一二月一〇日の冬山山行は、 五日の第五回登山教室は三方倉山、下山後、中条・太田会員から安 員が育てた野菜たっぷりの芋煮会を楽しむ。一八名の参加。一一月 薬莱山、加美町教育委員会の後援を頂き実施、下山後には、 キノコをゲットする参加者も。 一〇月八日の第四回親子登山教室は 四名の参加。九月一〇日の初秋山行は仙台神室岳、一八名の参加。 参加者からは山行は叶わなかったが有意義な時間を過ごせた等の感 下、昨今の日本山岳会を取り巻く諸問題・課題について懇談した。 を余儀なくされた。合同山行に変えて佐藤山行集会委員長の進行の を蔵王山域で行った。残念ながら登山日は朝から風に見舞われ中止 三年目になる「山の日」記念事業を兼ねた宮城・山形支部合同山行 の下降遊びは子供たちに大いに喜ばれた。八月一一日~一二日には

二五名の参加。一二月一七日には支部晩餐会七一七名参加)を行っ

他に、支部の親睦を目的に、七月三〇日にはビールパーティー

13

# 二〇一八年度(平成三〇年度

友会会員一七名の計六三名。各会員の体制でスタートした。会員数は四一名、準会員五名、支部計担当に中条俊一から富塚眞味子に交代、事務局長富塚和衛(兼務)平成三○年度の執行部は支部長富塚和衛、副支部長遠藤銀朗、会

の記念講演会・祝賀会・祝賀登山、記念誌(宮城山岳第二十三号)業は、一○月九日~一五日の台湾玉山登山、一一月一七日~一八日年記念事業などの事業計画が承認された。支部設立六○周年記念事生出森八幡神社で一五名が参加し総会が開催され、支部設立六○周年出念事平成三○年度の支部行事は、四月二八日の春山山行を兼ね太白山

委員会が中心になって企画・実施する事とした。発刊の三事業を遠藤銀朗会員を委員長とする五○周年記念事業特別

催、月例山行等を行った。 前年と同様に、総会で承認された事業計画に従い定例役員会の開

からも九名が参加、登山終了後、福島支部会員所有の山小屋でコー 泉ヶ岳登山。一月二〇日、冬山山行は鷹ノ巣山で実施、 風景を指呼の間に臨みながら連なる岩稜の逍遥を満喫した。「プ・モ 霊を弔い、併せて登山の安全を祈願した。参加者は、宮城支部一四 リ」のカレーも絶品だった。九月三○日の達居森で予定していた第 後立山の山々を背後にする黒部湖、 加者は三〇名。八月三日~五日の夏山山行は立山縦走、九名の参加。 七月八日の第五回親子登山教室は昨年度と同様に戸神山で実施、参 時に被災を乗り越えて再び可能になった登山の魅力を再発見できた。 が図られると共に地震災害のような天災の恐ろしさの再認識と、同 名、岩手支部八名、秋田支部九名の計三一名。三支部の交流・親善 い山行を行い、栗駒山山頂で死者・行方不明者二三名の犠牲者の御 六月一七日には岩手宮城内陸地震一○周年メモリアル登山・兼露扒 補水量の講義があり、コシアブラ等の山菜が萌える春山を楽しんだ。 六回親子登山教室は台風接近のため中止とした。 一月元旦は恒例の 五月二〇日の第六回登山教室は北面白山、千葉会員の登山時必要 二月一一日の厳冬期山行は三方倉山で実施、 一四日の早春山行は福島県の霊山で、参加者は一六名。 北の剣丘等日本を代表する山岳 参加者は五名。三 参加者は八

四回東北・北海道地区集会には四名が参加した。
四回東北・北海道地区集会には四名が参加した。
四回東北・北海道地区集会には四名が参加した。



2018年夏山山行(立山縦走)



岩手宮城内陸地震十周年メモリアル三支部合同山行

# 日本山岳会宮城支部この十年の活動記録

# 1 月例山行の記録

二〇〇八年度の月例山行記録

(1) 春山山行

• 実施日:二〇〇八年五月二五日

•山 域:船形山(|五〇〇E)

千田早苗、中條俊一、細川光一、三上勝宣、・参加者:(会員) 宇都宮昭義、佐藤昭次郎、鈴木晃三、高橋功、

付山ゼ

(一般) 細川栄子、三上早穂子、三上マリモ

(計士三名)

# (2) 支部設立五〇周年記念国内登山

• 実施日:五月二七日~六月一日

# (3) 地筍山行

• 実施日:二〇〇八年六月一五日

•山 域:股窪沢(刈田郡蔵王町)

千葉正道、中條俊一、細川光一、三宅泰・参加者:(会員)鈴木晃三、千石信夫、高橋功、千田早苗:

(計八名)

# (4) 支部設立五〇周年記念国外登山

• 実施日:二〇〇八年七月一七日~二七日

・山(域:スイスアルプス(ベルナーオーバーラント・

ツェルマット・シュワルツゼー)・モンブラン (フラン

ス) (四八 二 m)

千田早苗、鳥田笑美、木皿謙、千葉正道、細川光一・参加者:(会員)宇都宮昭義、高橋功、佐藤昭次郎、鈴木晃三、

(一般)宇都宮令子、鈴木宏明、鈴木千恵子、鳥田伊志、

( 計十三名) (モンブラン登山は千葉正道会員と

・山 域: 宮之浦岳 (一九三六 E)・永田岳縦走 (鹿児島県

屋久島)・開聞岳(鹿児島県)(九二二m)

参加者: (会員) 阿部光太郎、宇都宮昭義、佐藤昭次郎、高橋

功、高橋二義、千田早苗、鳥田笑美

(計七名)

## 細川光一会員

# (5) 福祉サポート登山

• 実施日:二〇〇八年八月二日~四日

• 山 域:後烏帽子岳(一六八一m)

・参加者:(会員)佐藤昭次郎、鈴木晃三、千石信夫、高橋二義・ 高橋功、千田早苗、千葉正道、細川光一、

(計九名)

# (6) 支部設立五〇周年記念祝賀山行

• 実施日:二〇〇八年一〇月一九日

・山 域:泉ケ岳(一一七二E)北泉ケ岳(一二五三E)

参加者:(会員)宇都宮昭義、遠藤銀朗、太田正、

徹、庄司駒男、鈴木晃三、須藤幸蔵、千石信夫、高橋功、高 熊谷美奈子、佐々木國雄、佐々木まさ子、佐藤昭次郎、柴崎

橋二義、高橋洋夫、田代侃、千田早苗、

千葉正道、中里政信、中條俊一、中谷寶悦郎、

東野良、細川光一、幕田光明、三宅泰、

横山哲、

西郡光昭、

(登山以外の仙台市内観光係) 木皿謙、林田健治

本郷佐千子、

(一般) 細川栄子

(計宮城支部会員三〇名、他関係者合計六六名)

### (7) 晚秋山行

• 実施日:二〇〇八年一一月一六日

·山 域:三方倉山(九七一m)

参加者:(宮城支部会員)宇都宮昭義、佐藤昭次郎、

柴崎徹、千石信夫、高橋功、千田早苗、中條俊一、

三上勝宣、三宅泰

(他支部会員) 中川武、田村典子(以上首都圏)松田和弘( 松田好子、高橋タイ子(以上岩手)高橋毅、中村勉、 加藤安志郎、加藤陽子(以上青森)

(一般)三上早穂子、三上マリモ

(計一〇名)

### (8) 元 登山

• 実施日:二〇〇九年一月一日

山 域:泉ケ岳(ーー七二m)

参加者:(会員)宇都宮昭義、鈴木晃三、千石信夫、

高橋功

(一般) 千石寛正

(計八名)

### (9) 厳冬期山行

• 実施日:二〇〇九年二月二日

•山 域:大東岳(一三六五m)

•参加者:(会員) 宇都宮昭義、佐藤昭次郎

(計 名)

# (10) スキー山行

• 実施日:二〇〇九年三月八日~九日

・山(域:山形蔵王スキ―場(山形市蔵王温泉)

参加者:(会員)宇都宮昭義、木皿謙、鈴木晃三、高橋功、 高橋二義、千田早苗、千葉正道、鳥田笑美、並木亮、

細川光一、三上勝宣、吉中登

(一般)三上早穂子、三上マリモ

(計一四名)

### (11) 早春山行

•実施日:二〇〇八年三月一五日(日)

山 域:名号峰(一四九一 E)(宮城県柴田郡川崎町・

山形県山形市)

参加者:(会員)宇都宮昭義、佐藤昭次郎、細川光一、

三上勝宣、(計四名)

# (1) 春山山行

二〇〇九年度の月例山行記録

• 実施日:二〇〇九年五月二四日

•山 域:定義山松沢山(二七二m) 参加者:(会員)宇都宮昭義、佐藤昭次郎、鈴木晃三、

高橋功、高橋二義、千田早苗、中條俊一、三上勝耳

三宅泰、横山哲、

(一般) 林氏

(計十一名)

## (2) 地筍山行

• 実施日:二〇〇九年六月二一日

•山 域:月山(一九八四m)

· 参加者:(会員) 宇都宮昭義、鈴木晃三、高橋功、 高橋洋夫、千田早苗、細川光一、三上勝宣、三宅泰

(計八名)

## (3) 第一回福祉サポート登山

• 実施日:二〇〇九年七月一八日

• 山 域:阿武隈山地 深山(二八七m)(亘理郡山元町)

・参加者:(会員)宇都宮昭義、木皿謙、千石信夫、高橋功、

高橋洋夫、田代侃、三宅泰、

(団塊世代活動センター四名)(東北福祉大学一名)

(軽度発達障害児(高校生)九名)

計二名

# (4) 福祉サポート登山下見山行

• 実施日:二〇〇九年九月六日

· 山 域:船形山 (一五〇〇E)

・参加者:(会員)千石信夫、高橋二義、細川光一

計三名

# (5) 第2回福祉サポート登山

• 実施日:二〇〇九年九月二〇日

山 域:船形山(一五〇〇m)

参加者:(会員)佐藤昭次郎、千石信夫、高橋二義

高橋洋夫、細川光一

(塊世代活動センター五名)

(東北福祉大学二名)

、軽度発達障害児(高校生)七名)

(計一九名)

# (6) 沢登山行

• 実施日:二〇〇九年九月二二日~二三日

• 山 域:船形山大倉川笹木沢

• 参加者:(会員) 佐藤昭次郎、高橋二義、細川光

(計三名)

# (7) 秋山山行

•実施日:二〇〇九年一〇月一一日

•山 域:翁倉山(五三二m)(石巻市雄勝町)

· 参加者:(会員)須藤幸蔵、千石信夫、高橋二義:

千田早苗

(一般) 千石裕子、並木亮

(計六名)

## (8) 晚秋山行

• 実施日:二〇〇九年一一月一五日

・山 域:オボコンベ(五九五m)と桐の目山(七一一m)(柴

田郡川崎町

·参加者:(会員) 宇都宮昭義、柴崎徹、須藤幸蔵、

千石信夫、高橋功、千田早苗、千葉正道、細川光一、

三上勝宣、三宅泰

ューコンパーコン・パートーン(他支部会員)加藤陽子、高橋タイ子、田村典子、中川(武、

中村勉、松田和宏、松田好子、

(一般)並木亮、細川栄子、三上早穂子、三上マリモ

(計二名)

### (9) 元長登山

•実施日:二〇一〇年一月一日

山域:泉ケ岳(ニー七二E)

参加者:(会員)宇都宮昭義、佐藤昭次郎、鈴木晃三、

千石信夫、高橋功、千田早苗、細川光一、三上勝宣

(一般) 千石寛正、三上早穂子、三上マリモ

(計十一名)

### 

• 実施日:二〇一〇年二月六日~七日

•山 域:面白山(一二六四m)

·参加者:(会員)佐藤昭次郎、細川光一、三上勝宣

計三名

# 

•実施日:二〇一〇年二月二〇日~二一日

•山 域:山形蔵王

・参加者:(会員)宇都宮昭義、木皿謙、鈴木晃三、

千石信夫、高橋功、高橋二義、千田早苗

(計七名)

## (12) 早春山行

• 実施日:二〇一〇年三月二三日

・山(域:大東岳(一三六六m)~面白山(一二六四m)

縦走

・参加者:(会員)宇都宮昭義、佐藤昭次郎、千葉正道、

中條俊一、細川光一

(計五名)

# 二〇一〇年度の月例山行記録

### (1) 春山山行

・実施日:二〇一〇年五月九日

•山 域:金華山(四四五m)

• 参加者:(会員) 宇都宮昭義、今野俊一、高橋二義、

高橋功、

細川光一、三上勝宣、横山哲、(一般)並木・亮、

# 細川夫人三上早穂子、三上マリモ

(計一一名)

### (2) 地筍山行

• 実施日:二〇一〇年六月一九日~二〇日

•山 域:蔵王、後烏帽子岳(一六八九m)

中条夋一、細川光一、三上券宣、三宅泰・参加者:(会員)宇都宮昭義、今野俊一、鈴木晃三、

中條俊一、細川光一、三上勝宣、三宅泰

(計七名)

# (3) 福祉サポート登山下見山行

• 実施日:二〇一〇年七月一一日

・山 域:栗駒山(一六二八m)

• 参加者:千石信夫、他

# 4 第一回公義登山

• 実施日:二〇一〇年七月一九日

山域:船形山(一五〇〇E)

• 参加者:佐藤昭次郎、他

# (5) 福祉サポート登山

· 実施日:二〇一〇年九月五日

(6) 秋山山行

• 参加者:千石信夫、他

•山 域:栗駒山(一六二八m)

• 実施日:二〇一〇年一〇月一七日

• 山 域:田東山(五一二m)(本吉郡南三陸町)

参加者:須藤幸蔵、他

### (7) 晚秋山行

•実施日:二〇一〇年一一月一四日

・山 域:山形県 二ツ森 (六九五 E)

千石信夫、高橋功、千田早苗、細川光一、三上勝宣、参加者:(会員) 宇都宮昭義、太田正、柴崎徹、

(一般) 三上早穂子、三上マリモ

(計一名)

### (8) 元量登山

•実施日:二〇一一年一月一日

山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

参加者:(会員)佐藤昭次郎、千石信夫、高橋功、

高橋二義、千田早苗、千葉正道、細川光一、三上勝宣

# (一般)三上早穂子、三上マリモ

### (計一〇名)

# (9) 厳冬期山行

• 実施日:二〇一一年二月六日

・山(域:奥檜ノ蔵山(仙台市青葉区作並)

·参加者:(会員) 宇都宮昭義、今野俊一、佐藤昭次郎、

高橋二義、高橋功、千田早苗、千葉正道、中條俊一、

細川光一、三上勝宣

計一名

# (10) スキーよう

• 実施日:二〇一一年二月二六日~二七日

・山 域:山形蔵王スキ―場

・参加者:(会員)宇都宮昭義、太田正、千石信夫、

高橋二義、千田早苗、細川光一

(計六名)

# 二〇一一年度の月例山行記録

### (1) 春日山行

• 実施日:二〇一一年五月一五日

・山 域:大土ヶ森(五八〇m)

参加者:(会員) 高橋二義、三上勝宣

(一般)三上早穂子、三上マリモ

(計四名)

## (2) 地筍山行

•実施日:二〇一一年六月二五日~二六日

•山 域:蔵王後烏帽子岳股窪沢

参加者:(会員)鈴木晃三、鳥田笑美、三上勝宣

(一般)田辺尚代夫妻、鳥田伊志

### (計六名)

# (3) 第二回公募登山

• 実施日:二〇一一年七月二四日

・山域:蔵王雁戸山(一四八五m)

参加者:(会員)宇都宮昭義、太田正、今野俊一、

佐藤昭次郎、三上勝宣

(一般) 三上早穂子、三上マリモ、

(応募参加者) 八名

### 計一五名)

# (4) 沢登り山行

・山 域:ムジナ森沢(川崎町笹谷)・実施日:二〇一一年八月三一日

•参加者:〈会員〉宇都宮昭義、佐藤昭次郎、京

計三名

# (5) 全国支部黎談会下見山行

・実施日:二〇一一年十月一日

•山 域:栗駒山(一六二八m)

- 左秦召欠収、柴奇敦、頁泰を載、Fコミヒ、高喬力参加者:(会員)宇都宮昭義、木皿謙、佐々木まさ子、

高橋二義、千田早苗、千葉正道、中條俊一、林田健冶、佐藤昭次郎、柴崎徹、須藤幸蔵、千石信夫、高橋功、

細川光一、松田照男

(計一五名)

⑥ 全国支部器談会兼東北地区集会

• 実施日:二〇一一年十月十五日~十六日

· 山 域 : 栗駒山 (一六二八 E)

•参加者:(会員) 宇都宮昭義、木皿謙、熊谷美奈子、

佐々木まさ子、佐藤昭次郎、柴崎徹、庄司駒男、

(7) 第三回公募登山

•実施日:二〇一一年一一月一三日

•山 域:糸岳(|二三八m)

細川光一、三上勝宣

(応募参加者) 一五名

計二名

### (8) 元量登山

• 実施日:二〇一二年一月一日

・山(域:泉ヶ岳(一一七二m)

· 参加者:(会員)佐藤昭次郎、鈴木晃三、千石信夫、

三上マリモ高橋の功、千田早苗、細川光一、三上勝宣、

(一般)千石夫人、千石子息、三上早穂子、菅原

(計二名)

(計二二名)※集会参加者は各支部総計一七三名松田照夫、三上勝宣、三上マリモ、三宅泰、横山哲千葉正道、中條俊一、並木亮、林田健治、細川光一、須藤幸蔵、千石信夫、高橋功、高橋二義、千田早苗、

# (9) 厳冬期登山

• 実施日:二〇一二年一月二九日

・山 域:北泉ヶ岳 (一二五三 E)

·参加者:(会員) 宇都宮昭義、佐藤昭次郎、鈴木晃三、 高橋功、細川光一、三上勝宣、三上マリモ

(計七名)

# (10) 第四回公募登山

•山 域:南面白山 (一二三五 E)

参加者:(会員)宇都宮昭義、佐藤昭次郎、高橋 功

(応募参加者) 五名

計二名

• 実施日:二〇一二年二月一九日

高橋二義、中條俊一、細川光一、三上勝宣

• 実施日:二〇一二年二月二五日~二六日

川子上岩

・山 域:山形蔵王スキ―場

参加者:(会員)宇都宮昭義、太田正、千田早苗、

三上勝宜、三上マリモ

### (1) 早春山行

• 実施日:二〇一二年四月七日~八日

•山 域:関山峠~北面白山(一二六四m)

·参加者:(会員)佐藤昭次郎、柴崎徹、千葉正道、

中條俊一、中條俊一、細川光一、松田照夫、

三上マリモ

(計八名)

## (2) 春山山行

• 実施日:二〇一二年五月二〇日

・山 域:荒雄岳(九八四m)

参加者:(会員)佐藤昭次郎、三上勝宣、三上マリモ

(一般) 三上早穂子

(計四名)

# 二〇一二年度の月例山行記録

### (3) 地筍山行

• 実施日:二〇一二年六月二三日~二四日

•山 域:大鳥谷山(五三八m)

・参加者:(会員)宇都宮昭義、今野俊一、鈴木晃三、

中條俊一、三上勝宣

(計五名)

# 4 沢登り山行

•実施日:二〇一二年八月一二日

山域:小阿寺沢

・参加者:(会員)佐藤昭次郎、千葉正道、細川光

計三名

### (5) 晚秋山行

•実施日:二〇一二年一一月一一日

•山 域:南面白山(二二三五m) 参加者:(会員))太田正、川名久子、中條俊一、

三上勝宣、三上マリモ、三宅泰

(一般) 山中秀美

(計七名)

• 実施日:二〇一三年一月一日

・山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

参加者:(会員)川名久子、佐藤昭次郎、須藤幸蔵、 高橋功、千葉正道、冨塚和衛、冨塚真味子、細川光一、

三上勝宣、三上マリモ

(一般) 三上早穂子

(計一一名)

# (7) 厳冬期山行

•実施日:二〇一三年二月三日

•山 域:高倉山(八五三m)

参加者:(会員)宇都宮昭義、

太田正、高橋功、細川光一、

三上勝宜、三上マリモ

(計六名)

# (8) スキー山行

• 実施日:二〇一三年三月九日~一〇日

・山 域:山形蔵王スキ―場

· 参加者:(会員) 宇都宮昭義、太田正、高橋功、千田早苗

# 【公益事業山行】

# (1) 第五回公募登山

• 実施日:二〇一二年七月一六日

· 山 域:月山(一九八〇E)

・参加者:(会員)太田正、川名久子、今野俊一、

三上マリモ

佐藤昭次郎、柴崎徹、高橋功、千田早苗、三上勝宣、

(応募参加者)池田千秋、伊藤常夫、今村淑子、大槻澄子、 蔭山美緒子、佐藤邦子、佐藤重邦、菅原幸寿、

白田昭一、高橋チエ子、中井博史、針生紀子、

村井洋子、村上敏郎、吉田照男、山中秀美

(計二五名)

# (2) 第六回公募登山

• 実施日:二〇一二年一〇月二八日

•山 域:保呂羽山(三七二m)

•参加者:(会員)太田正、川名久子、今野俊一、

佐藤昭次郎、柴崎徹、須藤幸蔵、千葉正道、鳥田笑美

中條俊一、細川光一、三上勝宣

三上マリモ、三宅泰

(応募参加者) 今村俊子、佐藤ナツ子、高橋チエ子、針生紀子、 平井喜久枝、村井洋子、山田ふき子、山中秀美

(計二名)

# (3) 第七回公募登山

•実施日:二〇一三年三月三日

域:南面白山(|二三五m)

· 参加者:(会員) 宇都宮昭義、川名久子、佐藤昭次郎

千葉正道、中條俊一、細川光一、三上勝宣

(応募参加者)菅原幸寿、村井洋子、山田ふき子、吉田照男

(計一一名)

# 二〇一三年度の月例山行記録

# **【共益事業山行】**

# (1) 春山山行 (兼故佐々木郁男会員追悼登山)

• 実施日:二〇一三年五月一八日

•山 域:戸神山(五〇四m)

コース:新田登山ロ―白沢峠―女戸神山―男戸神山―

白沢峠—新田登山口

参加者:(会員)宇都宮昭義、太田正、木皿謙

富塚和衛、冨塚真味子、細川光一、三上勝宣、三宅泰、 佐藤昭次郎、柴崎徹、須藤幸蔵、高橋功、千田早苗、

(一般)赤間敏子、永田逸生、蔭山美緒子、赤坂恵子、

針生紀子、佐藤ナツ子、今村淑子、川嶋郁子、 長谷川のり子、村井洋子、福田光子、山中秀美、

(計二八名)

白田昭一、仲居康央、津田久美子

(2) 放射線量測定山行

• 実施日:二〇一三年六月二三日

山域:泉ヶ岳(一一七二E)

・参加者・柴崎徹、外八名

(計九名)

(3) 沢登り山行

• 実施日:二〇一三年八月四日

•山 域:柳小屋沢

4 三百名山取材山行

• 参加者:高橋二義、外四名

(計五名)

• 実施日:二〇一三年八月八日

• 山 域:船形山 (一五〇〇E)

参加者:柴崎徹、外三名

(計四名)

(5) 夏山山行 (兼放射線量測定山行、三百名山取材山行)

• 実施日:二〇一三年八月一八日

・山 域:蔵王山(一八四一m)

・コース:赤石パーキング―遠刈田温泉―大黒天―刈田岳 -熊野岳―ワサ小屋跡―イロハ沼―樹氷高原駅―

蔵王山麓駅―赤石パーキング(二班に分かれ熊野岳

参加者:(会員)太田正、川名久子、佐藤昭次郎、柴崎徹 鈴木晃三、須藤幸蔵、千田早苗、高橋功、細川光一、

三宅泰

(計一〇名)

(6) 初秋山行 (兼放射線量測定山行)

• 実施日:二〇一三年九月二二日

・山 域:阿武隈山地 深山(二八七m)

•参加者:千石信夫、外七名

(計八名)

# (7) 秋山山行(兼放射線量測定山行、三百名山取材山行)

• 実施日:二〇一三年一〇月一五日

山 域: 栗駒山

・コース:イワカガミ平―東栗駒山―栗駒山―イワカガミ平

参加者:(会員)川名久子、佐藤昭次郎、須藤幸蔵、

細川光一

(計五名)

(8) 元量登山

山域:泉ヶ岳(一一七一m)

• 参加者:高橋功、外一二名

(計一三名)

【公益事業山行】

• 実施日:二〇一四年一月一日

• 実施日:二〇一三年一一月一〇日

•山 域:北面白山 (一二六四m)

· 参加者:中條俊一、外一五名

(計一六名)

# (3) 第十回公募登山

• 実施日:二〇一三年一一月二四日

山 域:西大森山

# (1) 第八回公募登山(兼山の日記念山行)

• 実施日:二〇一三年六月二日

・山 域:文字三山 大土ヶ森(五八〇m)他

コース:大土ヶ森―中ノ森―櫃ヶ森

参加者:(会員)川名久子、今野俊一、佐藤昭次郎、

柴崎徹、須藤幸蔵、高橋功、千葉正道、冨塚和衛、

(応募参加者)赤坂恵子、今村淑子、蔭山美緒子、佐藤ナツ子、 中條俊一、細川光一、三上勝宣、三上マリモ、三宅泰

北原惣年、斎藤仁

白田昭一、針生紀子、村井洋子、山中秀美、赤坂勝雄、

(計二四名)

• 参加者:太田正、外一七名

(計一八名)

# (4) 第十一回公募登山 (兼冬山山行)

• 実施日:二〇一四年二月二三日

•山 域:南面白山(二二三五m)

・コース:JR面白山高原駅―スキーリフト終点―

参加者:(会員)宇都宮昭義、太田正、川名久子、北原惣年、

1

佐藤昭次郎

(応募参加者)庄司房江、菅原幸寿、堀江真紀子、吉田照男

(計一七名)

# (2) 沢登り山行

• 実施日:二〇一四年八月二四日

•山 域:名取川水系 柳小屋沢

· 参加者:(会員) 太田 正、川名久子、佐藤昭次郎、

高橋二義、細川光一

(計五名)

# **【共益事業山行】**

二〇一四年度の月例山行記録

# (1) 春山山行兼支部友歓迎山行

### (3) 秋山山行

• 実施日:二〇一四年九月二一日

•山 域:阿武隈山地 影倉山(大森山)(三一五m)

・コース: 馬船峠―疣石山(大沢山)―高瀬峠 | 影倉山―

• 実施日: 二〇一四年四月二〇日

•山 域:達居森(二六三m)

・コース:吉田登山口ー達居森—牛野ダム登山口

・参加者:(台雪)川名久子、木皿兼、左藤乃欠郎、柴舎(二班に分かれ牛野ダムキャンプ場で合流)

須藤幸蔵、高橋功、千田早苗、細川光一、松田照男、参加者:(会員)川名久子、木皿謙、佐藤昭次郎、柴崎徹、

蔭山美緒子、赤間敏子、村井洋子、川島邦子(支部友会会員) 白田昭一、村上敏郎、針生紀子、

三宅泰

·参加者:(会員)太田正、千石信夫、高橋功

(支部友会会員) 菅原幸寿、平田氏

(計五名)

### 4 晚秋山行

• 実施日:二〇一四年一一月二三日

•山 域:三方倉山(九七一m)

• 参加者:(会員) 今野俊一、外七名

(支部友会会員) 四名

(計二二名)

### (5) 元[登山

•実施日:二〇|五年|月|日

・山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

・参加者・記録なし

### (6) 冬山山行

• 実施日:二〇一五年一月二五日

•山 域:蔵王 雁戸山(一四八五m)

・参加者:(会員)太田正、佐藤昭次郎、中條俊 ・コース:駐車場―ニセ雁戸山―雁戸山

(支部友会会員)遠藤幸寿、山田ふき子

(計五名)

# (7) 厳冬期山行

• 実施日:二〇一五年二月一五日

・山 域:南面白山(一二三五m)

参加者:(会員)太田正、川名久子、佐藤昭次郎、高橋功

(支部友会会員) 菅原幸寿、針生紀子、山田ふき子

(一般) 相原政稔

(計八名)

### (8) 星春山行

• 実施日:二〇一五年三月二二日

•山 域:水引入道山(一六五六m)

コース:白石スキー場―水引入道(往復) 参加者:(会員)高橋功、千葉正道、細川光一

(支部友会会員)山田ふき子

(計五名)

# 【公益事業山行】

# (1) 第十二回公募登山

• 実施日:二〇一四年五月二五日

•山 域:水引入道山(一六五六m)

• 参加者:(会員) 大田正、外六名

(支部友会会員) 五名

(公募) 四名

(計一六名)

# (2) 第十三回公募登山

• 実施日:二〇一四年七月二六日~二七日

•山 域:八幡平裹岩手縦走 八幡平(一六一四m) 他

参加者:(会員)大田正、外四名

(支部友会会員) 四名、

(公募) 四名

(その他)一名、

(計一四名)

# (3) 山の日記念清掃登山

• 実施日:二〇一四年八月一七日

・山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

•参加者:(会員)佐藤昭次郎、外四名

(支部友会会員) 一名

(計六名)

# 4 第十四回公募登山

• 実施日: 二〇一四年一〇月二六日

山 域:陸前高田市 氷上山(八七五m)

コース:仙台―本吉―中央コース登山口―避難小屋―

氷上山—避難小屋—本杉—玉野

参加者:(会員)大田正、木皿謙、須藤幸蔵、高橋功、

千葉正道

(支部友会会員) 津田久美子、津田栄幸、針生紀子

木村捷、相原政稔、坂本進一 (応募参加者) 蜂谷武夫、角田信夫、沼倉キミ江、村上 健、

(計一五名)

# 二〇一五年度の月例山行記録

# 【共益事業山行】

# (1) 梅雨払い山行

• 実施日:二〇一五年六月一四日

•山 域:大倉山(九八四m)

・コース:泉ヶ岳駐車場―大倉山登山口―氾濫原― 林道登山口

参加者:(会員) 宇都宮昭義、北原惣年、佐藤昭次郎、

高橋功、千田早苗、鳥田笑美、富塚和衛、

|冨塚真味子、 三宅泰

(支部友会会員)白田昭一、針生紀子、山田ふき子

(一般) 鳥田伊志、平井喜久枝

(計一四名)

### (2) 夏山山行

• 実施日:二〇一五年七月二一日~二二日

•山 域:白馬三山 白馬岳(二九三二m)

杓子岳 (二八一二 E)

鑓ヶ岳(二九〇九m)

コース:仙台―村営猿倉荘―白馬尻山荘(泊)― 白馬大雪渓—白馬岳—白馬山荘(泊)—村営白馬岳

山頂上宿舎―杓子岳―鑓ヶ岳―白馬鑓温泉小屋(泊)

—村営猿倉壮—仙台

参加者:(会員)北原惣年、佐藤昭次郎、冨塚和衛、

**冨塚真味子、三上マリモ** 

(支部友会会員) 針生紀子、村井洋子

(計七名)

### (3) 秋山山行

•実施日:二〇一五年一〇月一八日

域:山形県 葉山(一四六二m)

コース:葉山市民駐車場―見晴らし台―お花畑―葉山―

奥ノ院 (往復)

参加者:(会員)太田正、北原惣年、木皿謙、佐藤昭次郎、 高橋功、鳥田笑美、中條俊一、松田照男、三上マリモ、

三宅泰

(支部友会会員) 赤間敏子、蔭山美緒子、菅原幸寿、

針生紀子、村井洋子、山田ふき子

(一般) 鳥田伊志、永浜洋光

(計一八名)

### (4) 元 登山

• 実施日:二〇一六年一月一日

・山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

•参加者:一〇名

### (5) 冬山山行

• 実施日:二〇一六年月一〇日

• 山 域:南蔵王 不忘山(一七〇五m)

・コース:南蔵王白石スキ―場―白石女子高山小屋跡―

弘法清水―不忘の碑―不忘山 (往復)

中條俊一、細川光一、三上マリモ参加者:(会員)佐藤昭次郎、千石信夫、高橋功、

(支部友会会員)山田ふき子

(計七名)

# 6) 厳冬期山行

• 実施日:二〇一六年二月七日

•山 域:南面白山 (IIII五E)

・コース:JR面白山高原駅―スキー場跡―南面白山

(往復)

参加者:(会員)大田正、今野俊一、佐藤昭次郎、高橋功、

永浜洋光、三上マリモ

(支部友会会員) 針生紀子、山田ふき子

(計八名)

(7) 早春山山行

• 実施日:二〇一六年三月二七日

・山 域:薬莱山(五五三m)

・コース:表登山口―姥地蔵―薬莱山(往復)

高橋功、高橋二義、鳥田笑美、冨塚和衛、冨塚真味子、参加者:(会員)木皿謙、北原惣年、鈴木晃三、須藤幸蔵

永浜洋光、三上勝宣、三上マリモ、三宅泰

針生紀子、村井洋子、村上敏郎、山田ふき子(支部友会会員)赤間敏子、白田昭一、津久井宏、

(一般) 三上早穂子、遠藤幸寿、遠藤久美子

(計三名)

【公益事業山行】

# (1) 第一回登山教室

• 実施日:二〇一五年五月二四日

・山 域:黒伏高原 黒伏山(一二二七m)

コース:遅沢林道口—黒伏山(往復)

千石信夫、高橋功、冨塚和衛、冨塚真味子、中條俊一、参加者:(会員)川名久子、今野俊一、佐藤昭次郎、

三宅泰

吉田勝就(応募参加者) 家坂昭宏、佐藤邦子、高橋チエ子、百足 恵、津田久美子、村井洋子、村上敏郎、山田ふき子津田久美子、村井洋子、村上敏郎、山田ふき子(支部友会会員) 赤間敏子、川嶋郁子、白田昭一、

(計二名)

### (2) 第一回親子登山教室

• 実施日: 二〇一五年八月日~二日

・山 域: 二ロキャンプ場 戸神山(五〇四 E)

・コース:白沢峠登山ロ―女戸神山―男戸神山―分岐―

白沢峠登山口

高橋二義、鳥田笑美、中條俊一、三宅泰、横山哲・参加者:(会員)太田正、川名久子、佐藤昭次郎、高橋功、

(支部友) 山田ふき子 (一般) 鳥田伊志

相馬香乃、相馬由乃、川名さやか、峰岸学、峰岸未来(応募参加者) 水井直樹、水井こずえ、水井幹太、相馬誠

(計二〇名)

## (3) 「山の日」記念宮城山形支部交流登山

• 実施日:二〇一五年八月二二日~二三日

・山 域:山形側 禿岳(一二六二m)

・コース:大堀温泉―銚子登山口―禿岳―花立峠―

大堀温泉

千田早苗、中條俊一、細川光一、三宅泰・参加者:(宮城支部)太田正、佐藤昭次郎、高橋二義、

(山形支部)伊藤友七、粕谷俊矩、木村喜代志、長岡伸恭(支部友会会員)針生紀子、村上敏郎、山田ふき子

### 4)第二回登山教室

(計一四名)

• 実施日:二〇一五年九月二〇日

・山 域:南蔵王 不忘山(一七〇五m)

不忘の碑―不忘山 (往復)

• 参加者:(会員)太田正、高橋功、冨塚和衛、冨塚真味子、

松田照男、三宅泰

(支部友会会員) 赤間敏子、川嶋郁子、蔭山美緒子、

白田昭一、津田久美子、針生紀子、村井洋子、

村上敏郎

佐藤ナツ子、木村捷、永浜洋光、新井静男、新井美代子、(応募参加者)吉田勝就、津久井(宏、山口靖子、家坂昭宏、

菅原豊、菅原博子、山口哲、磯川京子、

村上厅

(山形支部) 伊藤友七 (計二九名)

## 二〇一六年度の月例山行記録

### 【共益事業山行】

#### (1) 梅雨払い山行

• 実施日:二〇一六年六月一二日

•山 域:大鳥谷山(五三八m)

コース:遠刈田温泉蔵王エコ―ライン入口鳥居前駐車場

—大鳥谷山(往復)

参加者:(会員)北原惣年、佐藤昭次郎、鈴木晃三、

松田照男、三宅泰須藤幸蔵、高橋功、冨塚和衛、永浜洋光、中條俊一、

(支部友会会員) 赤間敏子、蔭山美緒子、白田昭一、

針生紀子、村上敏郎

(計一五名)

#### (2) 夏山山行

• 実施日:二〇一六年七月二一日~二四日

・山 域:甲斐駒ケ岳(二九六六m)、仙丈岳(三〇三三m)

# ③ 特別山行(第二回親子登山教室中止に伴う)

• 実施日:二〇一六年八月七日

・山 域:トンガリ山(一二四一 E)、

仙台神室岳(一三五三m)

・参加者:(会員) 佐藤昭次郎、千葉正道、三宅泰、横山哲

(支部友会会員) 針生紀子

(計五名)

#### (4) 沢登り山行

• 実施日:二〇一六年八月二八日

・山 域:蔵王 振子沢

・コース:遠刈田温泉—賽の河原 | 振子沢 | 五色岳—濁沢—

北沢峠(こもれび山荘)―仙流荘―仙台―小仙丈岳―仙丈岳―馬の背ヒュッテ―大滝頭――小仙丈岳―駒津峰―双児山―北沢峠(こもれび山荘)コース:仙台―仙流荘―北沢峠「仙水小屋―駒津峰―

•参加者:(会員) 冨塚和衛、冨塚真味子

計三名

(支部友会会員) 村上敏郎

### 大黒天—遠刈田温泉

・参加者:(会員)太田正、佐藤昭次郎、千葉正道

計三名

#### (5) 元 (登山

• 実施日:二〇一七年一月一日

・山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

•参加者:一〇名

#### (6) 冬山山行

• 実施日:二〇一七年一月一五日

• 山域:南面白山(一二三五 E))

・コース:面白山高原駅(仙山線)―かもしかコース―

面白山山頂往復

参加者:(会員)佐藤昭次郎、太田正、宇都宮昭義

松田照夫、草野洋一

(支部友会会員) 山田ふき子

(計七名) (一般)相原政稔、佐々木祐

#### (7)厳冬期山行

•実施日:二〇一七年二月一八日

8早春山行

•実施日:二〇一七年三月二六日

・山域:四方山(二六三m)

ですで、一コートで、『ボース・コース・図行山入口―鴻ノ巣峠―閑居山(二〇四m)―

夜討坂—月山神社分岐—黒森山(二五五m)—四方山

高橋功、三宅泰、遠藤銀朗、千石信夫、松田照夫参加者:(支部会員)佐藤昭次郎、冨塚和衛、冨塚真味子、

津田久美子、赤間敏子、白田昭一、村上敏郎(支部友会会員)山田ふきこ、川島郁子、村上せつ子、

(一般)遠藤幸寿

(計一六名

### 【公益事業山行】

•山域:刈田岳(一七五八 E)

コース:澄川スノーパーク―大黒天―刈田岳山頂(往復)

参加者:(支部会員)佐藤昭次郎、太田正

(支部友会会員)山田ふきこ

(一般)遠藤幸寿

(計四名)

#### (1) 第二回登山教室

• 実施日:二〇一六年五月二二日

・山 域:黒伏高原 仙台カゴ(一二七〇m)

レリ―フ岩場―仙台カゴ(往復)

参加者:(会員)遠藤銀朗、木皿謙、須藤幸蔵、高橋功、 高橋二義、千田早苗、冨塚真味子、鳥田笑美、

永浜洋光、三宅泰

(支部友会会員) 赤間敏子、 蔭山美緒子、白田昭一、 吉田勝就 津久井宏、針生紀子、村上敏郎、山田ふき子、

(応募参加者) 萩野綾子、木村捷、 石鍋享子、鈴木七雄、鈴木桂子、 小山敏男、柴田健一、鳥田伊志、村上匠、森山日出男 (計三一名) 川村聡 加藤武夫、樋掛町子、

### (2) 「山の日」記念宮城山形支部交流登山

• 実施日:二〇一六年六月一八日~一九日

山域:山形県摩耶山(IOIOE)

・コース:越沢登山口―小浜の茶屋跡―クセ穴大森林―

追分—避難小屋—摩耶山(往復)

参加者:(会員)太田 正、北原惣年、佐藤昭次郎

須藤幸蔵、高橋、功、千田早苗、冨塚和衛、中條俊一、

永浜洋光、三宅泰、横山哲

(応募参加者)安部寿広、家坂昭広、工藤千鶴子、斎藤みい子、

佐藤洋子、田中真理子、中鉢一彦

(計一八名)

#### (3) 第二回親子登山教室

• 実施日:二〇一六年十一月六日

・山 域:七ツ森 笹倉山 (五〇七 E)

・コース:七ツ森湖畔公園管理事務所—御門杉登山口—亀の子石

—笹倉山(往復)

参加者:(会員)太田正、遠藤銀朗、細川光一、佐藤昭次郎;

川名久子、千葉正道、三宅泰、

(支部友会会員)山田ふき子、川嶋郁子

(応募参加者)番場翼、同しのぶ、同 葉奈、同

同 葉純、大坪嘉行、同 和香子、同 美乃里

(計十七名)

### 第四回登山教室

•実施日:二〇一六年十一月二七日

域:オボコンベ (五九五m)

・コース:尾根コース登山口―オボコンベ―マンモス岩―分岐― 36

沢コース登山口―尾根コース登山口

勝又正昭、曳地孝志、黒沢孝悦、畑岡尚美、安孫子奈美後藤裕恵、水鳥京子、土海隆義、家坂昭弘、柴田健一、付上せつ子、赤間敏子、山田ふき子、「支部友会会員)津久井宏、川嶋郁子、津田久美子、(支部友会会員)佐藤昭次郎、太田正、高橋功、三宅泰、・参加者:(会員)佐藤昭次郎、太田正、高橋功、三宅泰、

## 二〇一七年度の月例山行記録

**【共益事業山行】** 

### (1) 春山山行

• 実施日:二〇一七年四月三〇日

•山 域:戸神山(五〇四 8)

男戸神山―鞍部―表コース―白沢峠登山口・コース:白沢峠登山口―女戸神山―裏コース―鞍部―

川嶋郁子(支部友会会員)村上敏郎、赤間敏子、津田久美子、(支部友会会員)村上敏郎、赤間敏子、津田久美子、冨塚和衛、冨塚真味子、三宅泰、千葉正道、松田照夫・参加者:(会員)横山哲、太田正、遠藤銀朗、佐藤昭次郎、

(計十五名) 住々木裕一(一般参加) 相原政稔、佐々木裕一

### (2) 梅雨払い山行

(計二四名)

•実施日:二〇一七年六月一八日

•山 域:雁戸山(一四八五m)

太田正、鳥田笑美、草野洋一、松田照夫・参加者:(会員)(富塚和衛、遠藤銀朗、佐藤昭次郎)

(準会員) 新井田祐治

(支部友会会員) 針生紀子、蔭山美穂子、赤間敏子

(一般参加) 相原政稔、佐々木祐一

(計十三名)

#### (3) 夏山遠征登山

• 実施日:二〇一七年七月二二日~二四日

山 域:上高地焼山(二四四四m)

焼岳北峰―下堀沢出合―(新中の湯ル―ト)――中の湯・計画コ―ス:上高地・山研―焼岳登山口―焼岳小屋―

妌 ―中の湯バス停―上高地バスタ―ミナル―上高地 (ただし、風雨により上高地―横尾の往復トレッキン

グに予定を変更して実施

参加者:(会員)草野洋一、鳥田笑美、遠藤銀朗、太田正、 名久子、冨塚和衛、冨塚眞味子 , ||[

(準会員) 新井田祐治

(支部友会会員) 蔭山美緒子、針生紀子、赤間敏子、

津久井宏

(一般参加) 鳥田伊志

(計十三名)

#### (4) 沢登り山行

• 実施日:二〇一七年八月二七日

・山 域:禿岳山域 大崎市江合川支流「火ノ沢」遡行

• 参加者:(会員) 佐藤昭次郎、太田正、中條俊

(準会員)山田ふき子

(計四名)

#### (5) 初秋山行

• 実施日:二〇一七年九月一〇日

•山 域:仙台神室岳(一三五六m)

・コース:笹谷峠大駐車場―マグリ山―トンガリ山―山形

滝分岐—仙人大滝入口登山口 神室岳―ダンゴ平―仙台神室岳―ダンゴ平―仙人大

参加者:(会員)遠藤銀朗、三宅泰、川名久子、

**冨塚眞味子、冨塚和衛** 

(準会員) 山田ふきこ

(支部友会会員) 蔭山美緒子、針生紀子、赤間敏子、

村上敏郎、白田昭一

(計十一名)

#### (6) 初冬山行(白沢五山

•実施日:二〇一七年一二月一〇日

• 山 域:白沢五山(仙台市青葉区上愛子)

・コース:白沢峠登山口―二輪山(三六九m)― 五郎山

(三七〇m) ―前山・函倉山分岐―三方別れ―

函倉山(三四九・五m)―前山(三四六m)―

岩垂山(三四八m)—小塚山(三四五m)—大森山 (三六四m)

-白沢峠登山口

参加者:(支部会員)草野洋一、三宅泰、遠藤銀朗

中條俊一、千葉正道、太田正

(支部友会会員) 村上敏郎、津久井宏、白田昭一、

針生紀子、土海孝義

(一般参加者) 多田幸徳、佐藤富士子

#### (計十三名)

#### 

•実施日:二〇一七年一月一日 ·山 域:泉ヶ岳(一一七二m)

参加者: 一〇名

#### (8) 冬山山行

• 実施日:二〇一八年一月二一日

•山 域:大東岳(一三六五m)

コース:秋保ビジターセンター・本小屋登山ロー 裏コースを五○○m入る―表コースと裏コースの間の尾根筋

立石岩を観賞―表コース・立石沢―小行沢―本小屋登山口 標高点標識一〇二七m (実際の標高一〇一九m)昼食 ―

参加者:(会員)佐藤昭次郎、千葉正道、今野俊一、中條俊 (計四名)

### (10) 早春山行

• 実施日:二〇一八年三月二五日

・山 域:あけら山 (八一〇m)、青麻 (山七九九m)

コース:集合場所―移動~―下別当登山口(林道から)

―青麻山―あけら山―同ル―ト下山

参加者:(会員) 冨塚和衛、冨塚眞味子、佐藤昭次郎 三宅 泰、草野洋一、川名久子、千石信夫

(準会員) 山田ふき子

(支部友会会員) 村上敏郎、針生紀子、白田昭一、

蔭山美緒子

(計士三名)

## 【公益事業山行】

(9) 厳冬期山行

#### (1) 第四回登山教室

• 実施日:二〇一七年六月四日

・コース:面白山高原駅—旧面白山スキー場上部— 南面白山―旧面白山スキ―場上部―面白山高駅

・山 域:南面白山(一二三五m) • 実施日:二〇一八年二月一一日

· 参加者:(会員)今野俊一、中條俊一、松田照夫、

草野洋一、宇都宮昭義

(計五名)

. 山 域:仙台カゴ(一二七〇m)

・コース:仙台—山形東根市—ジャングル・ジャングルスキー場 -柳沢小屋―林道終点駐車場―粟畑―仙台カゴ分岐―平澤

翁レリ―フ前―山頂 (往復)

参加者:(会員)佐藤昭次郎、三宅泰、遠藤銀朗、 高橋二義

横山哲、川名久子、

(準会員)新井田祐治、榧野光永、山田ふき子

(支部友会会員) 蔭山美緒子、針生紀子、津久井宏

菅原幸寿、赤間敏子

(応募参加者)小山敏男、佐藤ナツ子、菊池しづ子、川嶋民子、 鷲見登紀子、森宮子、田中真理子、高瀬邦雄: 工藤千鶴子、斎藤みい子、佐藤洋子、白幡典子、

高瀬英子、山田孝司

(計二八名)

#### (2) 第三回親子登山教室

• 実施日:二〇一七年八月六日

•山 域:戸神山(五〇四m)

・コース:仙台市広瀬文化センター (集合) —戸神山登山口—表・ 裏登山道分岐点―裏コース―女戸神山山頂―鞍部―男戸神山

山頂表コース―表・裏登山道分岐点―戸神山登山口―

仙台市広瀬文化センター(解散)

参加者:(会員)富塚和衛、佐藤昭次郎、草野洋一、三宅泰、 **冨塚真味子、遠藤銀朗** 

(応募参加者) 六家族(保護者八名、小学生十三名)

(計二七名)

③ 「山の日」 記念 宮城支部・山形支部合同公募山行

•実施日:二〇一七年 八月一一日~一二日

域:蔵王町遠刈田、南蔵王縦走

参加者:(宮城支部会員)富塚和衛、遠藤銀朗 佐藤昭次郎、草野洋一、高橋功、千田早苗、千葉正道、

(山形支部会員)野堀嘉裕、武田幹男、佐藤一広、 鳥田笑美、永浜洋光、松田照夫、三宅泰、横山哲

曾田茂雄、粕谷俊矩、木村喜代志、鈴木理夫;

田邊信行

(本部会員) 平井 喜久枝

(支部友会会員) 津久井宏

(一般)後藤達雄、鳥田伊志、 村上健、吉田照夫

(計二六名)

### (4) 第四回親子登山教室

• 実施日:二〇一七年一〇月八日

•山 域:薬薬山(五五三m)

薬萊山頂―姥地蔵―やくらいガーデン登山口コース:やくらいガーデン登山口―南峰―姥地蔵―

•参加者:(会員)富塚和衛、冨塚真味子、千葉正、松田照夫、

三宅泰、佐藤昭次郎

(支部友会会員) 白田昭一、針生紀子

(応募参加者)仙台市高橋秀一ご家族、大崎市千葉栄寿

(計一八名)

ご家族、他の計一○名参加

### (5) 第五回登山教室

• 実施日:二〇一七年十一月五日

·山 域:三方倉山(九七一 E)

登山口─秋保ビジターセンター-ス→―三方倉山(九七一m)―シロヤシオコース―三方倉山(九七一m)―シロヤシオコース―三方倉山・コース:秋保ビジターセンター―三方倉山登山口→―ブナ平コ

参加者:(会員)富塚和衛、太田正、草野洋一、中條俊一、

佐藤昭次郎

(支部友会会員) 津田久美子、白田昭一、針生紀子

(応募参加者)(永野仁・孝子、山口千賀子、

土海隆義、植松恵美、相原政稔、佐々木祐

(計一五名)

## 二〇一八年度の月例山行記録

### **【共益事業山行】**

#### (1) 春山山行

• 実施日:二〇一八年四月二八日

•山 域:太白山 (IIIII E)

太白山山頂――自然観察の森駐車場

参加者:(会員)草野洋一、鳥田笑美、遠藤銀朗、

冨塚眞味子、冨塚和衛、佐藤昭次郎、横山哲、

木皿謙

三宅泰、千石信夫、永浜洋光

(準会員) 新井田祐治、

(支部友会会員) 植松恵美、津久井宏

(計一五名)

# ② 岩手・宮城内陸地震一〇周年メモリアル三支部合同山行兼露払い

#### 山行

• 実施日:二〇一八年六月一七日

•山 域:栗駒山(一六二七m)

山頂―中央コース―イワカガミ平登山口・コース:(往路)イワカガミ平登山口―東栗駒コース―

参加者:(会員)富塚和衛、富塚眞味子、草野洋一、

遠藤銀朗、佐藤昭次郎、横山哲、千葉正道、加藤知宏、

松田照夫

(準会員) 新井田祐治

(支部友会員) 岩淵利秋、白田昭一、針生紀子

(一般) 佐々木義郎 (栗原市会議員)

(宮城支部関係者計一四名)

(岩手支部会員八名、秋田支部会員九名)

(宮城支部・岩手支部・秋田支部合計三十一名))

## ③ 夏山遠征登山 兼 「山の日」記念山行

• 実施日:二〇一八年八月三日~五日

• 山 域:立山連峰

(宿泊)—雄山(三〇〇三m)—大汝山(三〇一五m)—富士・コース:室堂ターミナル—浄土山(二八三一m)——の越山荘

ノ折立 (二九九九 E) ―真砂岳―別山―剣御前小舎―雷鳥沢ヒ

ユッテ(宿泊)―室堂ターミナル

(支部友会会員)蔭山美緒子、佐藤富士子、多田孝徳、・参加者:(会員)草野洋一、遠藤銀朗、冨塚眞味子、冨塚和衛

針生紀子

(一般)齋藤みち子

(計九名)

## (4) 支部設立六〇周年記念国外登山(玉山)

• 実施日: 二〇一八年一〇月九日~一五日

山 域:台湾·玉山 (三九五二E)

千石信夫、冨塚眞味子、

(支部友会会員) 岩淵利秋、津久井宏、鳥田伊志

参加者:(会員)富塚和衛(リーダー)、遠藤銀朗、

草野洋一、

山田孝司、

(一般) 佐藤田鶴子

(計一〇名)

## (5) 支部設立六〇周年記念祝賀登山

•実施日:二〇一八年十一月一八日

· 山 域 : 太白山 (三三一 E)

・コース:宿泊地(茂庭荘)―市ガス局茂庭給油所前―

生出森八幡神社鳥居(入山)——八幡神社社殿—山頂登路を下

加者:冨塚和衛、遠藤銀出――宿泊地へ

草野洋一、松田照夫、太田 正、千田早苗、髙橋二義、参加者:冨塚和衛、遠藤銀朗、千石信夫、宇都宮昭義、

42

中村 勉(青森支部)、中屋重直(岩手支部)、佐藤昭次郎、中山茂樹(本部)、西山泰正(北海道支部)、多田孝徳、蔭山美緒子、佐藤富士子、津久井宏、千葉正道、横山 哲、冨塚眞味子、山田孝司、岩渕利秋、千葉正道、横山 哲、冨塚眞味子、山田孝司、岩渕利秋、

佐藤一夫(福島支部)、大島康弘(静岡支部)、

渡邊雄二(栃木支部・招待)

表者他七名、計二六名)(宮城支部会員十三名、支部友会員六名、本部及び各支部代

#### (6) 正餐出

• 実施日:二〇一九年一月一日

・山 域:泉ヶ岳

参加者: 六名

#### (7) 冬山山行

•実施日:二〇一九年一月二四日

・山域:鷹の巣山(七〇五E)(仙台市太白区・

柴田郡川崎町)

山頂―東尾根――枝尾根―大滝駐車場着―解散コース:秋保大滝駐車場―(車道)―登山口――主尾根―

参加者:(会員)加藤知宏、草野洋一、佐藤昭次郎

千葉正道、冨塚和衛、鳥田笑美

(連会員) 遠藤幸寿

(支部友会会員) 鳥田伊志

(計八名)

#### (8) 厳冬期山行

•実施日:二〇一九年二月二四日

·山 域:三方倉山(七〇四·八E)(仙台市太白区·

柴田郡川崎町)

車道)―登山口―主尾根―山頂―ビジターセンター・コース:秋保二ロビジターセンター駐車場→―(

駐車場着-解散

•参加者:(会員)太田正、加藤知宏、佐藤昭次郎

(準会員) 遠藤幸寿

(支部友会会員) 鳥田伊志

(計五名)

#### (9) 早春山行

• 実施日:二〇一九年三月二三日

・山域:霊山(八二五 E)(福島県伊達市)

日暮岩入り口―国司沢―天狗の相撲場―護摩壇入りコース:霊山登山口(駐車場)―鍜冶小屋岩―宝寿台―

ロ―護摩壇―霊山城跡(WC あり)―東物見岩(頂上)

弁天岩入りロ―日暮岩入りロ―登山口(駐車場) -学問岩-蟻の戸渡り-望洋台-弘法の突貫岩-

参加者:(会員)草野洋一、千石信夫、富塚和衛、 **冨塚眞味子、鳥田笑美、横山哲** 

(準会員) 遠藤幸寿

(支部友会会員) 蔭山美緒子、川島郁子、白田昭一、 津田久美子、鳥田伊志、村上せつ子、村上敏郎

(一般) 遠藤久美子、千石裕子

(以上宮城支部関係者 計一六名)

(上記以外に福島支部関係者 計十一名参加)

### 【公益事業山行】

### (1) 第六回登山教室

• 実施日:二〇一八年五月二〇日

・山域:北面白山(一二六四m) 山形県 (天童市側から入下山)

コース 集合場所―(移動) ―天童市―天童高原登山口― 三沢山―北面白山山頂―(登路下山) ―天童高原にて

・参加者:(会員)富塚和衛、冨塚眞味子、草野洋一、佐藤昭次郎、

(支部友会会員)村上敏郎、多田孝徳、佐藤富士子、 土海隆義、白田昭一 遠藤銀朗、三宅泰、千葉正道

(応募参加者)相沢まき子、後藤達雄、 遠藤恵理子、中井康史、横山義三、横野考貴 後藤裕恵、

計一〇名

### (2) 第五回親子登山教室

• 実施日:二〇一八年七月八日

山 域:、戸神山(五〇四m)

コース:仙台市広瀬文化センター(集合)— 文化センター(解散) 表·裹登山道分岐点——戸神山登山口——仙台市広瀬 女戸神山山頂―鞍部―男戸神山山頂―表コース― 戸神山登山口―表・裏登山道分岐点―裏コース―

参加者:(会員)富塚和衛、佐藤昭次郎、 **冨塚真味子、遠藤銀朗、横山哲** 草野洋一、

(支部友会会員) 針生紀子、鳥田伊志、白田昭 (応募参加者)七家族二一名(親および祖父母一〇名 子供および孫一一名)

(計二九名)

# 2 山行以外の宮城支部行事記録

# 二〇〇八年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇〇八年度総会の開催

いて移動総会として開催された。参加者は二八名(委任状を除く)。二〇〇八年度の総会は、四月二七日に亘理郡山元町の深山にお

### (2) 支部役員会の開催

の日程で開催した。エル・パーク仙台・仙台メディアパークの各会議室において下記エル・パーク仙台・仙台メディアパークの各会議室において下記二〇〇八年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンター・

日、一〇月一五日、一月二八日、三月四日五月一七日、七月三〇日、八月二七日、九月一九日、一〇月七

# ③ 会報「宮城山岳」支部設立五〇周年記念誌の発行

念誌が発行された。 二〇〇八年一〇月一八日に、「宮城山岳」支部設立五〇周年記

## (4) 二〇〇八年度支部ビールパーティー

大学「郷」において開催された。参加者は一五名。 宮城支部ビールパーティーが、二〇〇八年八月八日に東北福祉

## (5) 支部設立五〇周年記念登山打合せ会

五〇周年記念登山打合せ会を開催した。参加者は十一名。 二〇〇八年一〇月一三日に仙台市の「そうそう」にて支部設立

## (6) 日本山岳会宮城支部設立五〇周年祝賀会

〇三名。
〇三名。
〇三名。
一〇〇八年一〇月一八日に、日本山岳会宮城支部設立五〇周年二〇〇八年一〇月一八日に、日本山岳会宮城支部設立五〇周年

## (7) 支部設立五〇周年記念事業打上会

設立五〇周年記念事業打上会が開催された。参加者は十五名。二〇〇八年一一月五日に、牛タン焼き鳥「焼助」において支部

## 8 二〇〇八年度支部年次晩餐会

ト仙台において開催された。参加者は二二名。二〇〇八年度の年次晩餐会が、一二月一〇日にホテルサンルー

#### (9) 役員新年会

部役員新年会が開催された。参加者は一六名。 二〇〇九年一月二八日に仙台キリンビアフェスタにおいて支

# 二〇〇九年度の山行以外の宮城支部行事記録

### 1) 二〇〇九年度総会の開催

仙台において開催された。参加者は二四名(委任状を除く)。二〇〇九年度の総会は、四月一八日にホテルリッチフィールド

### (2) 支部役員会の開催

七月六日、九月三日、二月二三日て下記の日程で開催した。―・エル・パーク仙台・仙台メディアパークの各会議室におい二〇〇九年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンタ

## ③ 会報「宮城山岳」第十七号の発行

支部会報「宮城山岳」第十七号を二○一○年一月二五日に発行

## (4) 二〇〇九年度支部ビールパーティー

台プラザにおいて開催された。参加者は十四名。 宮城支部ビールパーティーが、二〇〇九年八月八日にホテル仙

## 5 二〇〇九年度支部年次晩餐会

仙台において開催された。 参加者は二一名。 エ〇〇九年度の年次晩餐会が、一二月八日にホテルサンルート

#### (6) 役員新年会

部役員新年会が開催された。参加者は一六名。 二〇一〇年一月十二日に仙台キリンビアフェスタにおいて支

# 二〇一〇年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇〇九年度総会の開催

除く)。において移動総会として開催された。参加者は一七名(委任状を二〇一〇年度の総会は、四月二二日に鎌倉山(伊具郡丸森町)

### (2) 支部役員会の開催

二〇一〇年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンター・ 46

下下記の日程で開催した。仙台メディアパーク・仙台市戦災復興記念館の各会議室において

七月六日、九月一日、二月二四日

## (3) 会報「宮城山岳」第十八号の発行

>、レ゚。 | 支部会報 「宮城山岳」 第十八号を二〇一一年三月三一日に発行

## 4 二〇一〇年度支部ビールパーティー

サンルート仙台において開催された。参加は二名。 宮城支部ビールパーティーが、二〇一〇年七月二九日にホテル

## 5 二〇一〇年度支部年次晩餐会

仙台において開催された。参加者は一七名。二〇一〇年度の年次晩餐会が、一二月八日にホテルサンルート

#### (6) 役員新年会

支部役員新年会が開催された。参加者は一五名。二〇一一年一月一三日に仙台キリンビアフェスタにおいて

# 二〇一一年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一一年度総会の開催

て開催された。参加者は一五名(委任状を除く)。 二〇一一年度の総会は、四月二八日にKKRホテル仙台におい

### (2) 支部役員会の開催

日程で開催した。プラザ(アエル)・エル・パーク仙台の各会議室において下記のプラザ(アエル)・エル・パーク仙台の各会議室において下記の二〇一一年度の支部定例役員会を、仙台市「飛梅」・情報産業

九月六日、一〇月五日、一月一二日、二月一五日四月八日、五月三〇日、六月二一日、七月八日,八月二三日、

## (3) 会報「宮城山岳」第十九号の発行

された。
支部会報「宮城山岳」第十九号が二〇一二年三月三一日に発行

## 4 第三回一般公募登山事前研修会

報産業プラザ(アエル)において開催された。参加者は九名。第三回一般公募登山事前研修会が、二〇一一年七月一九日に情

## 5 二〇一一年度支部ビールパーティー

メトロポリタン仙台において開催された。 参加者は一四名。宮城支部ビールパーティーが、二〇一一年七月二八日にホテル

## 6 第四回一般公募登山事前研修会

報産業プラザ(アエル)において開催された。参加者は九名。第四回一般公募登山事前研修会が、二〇一一年一一月七日に情

### (7) 二〇一一年度支部年次晩餐会

リタン仙台において開催された。参加者は一五名。二〇一一年度の年次晩餐会が、十二月一五日にホテルメトロポ

#### (8) 役員新年会

部役員新年会が開催された。参加者は一六名。 二〇一二年一月一二日に仙台キリンビアフェスタにおいて支

# 二〇一二年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一二年度総会の開催

二〇一二年度の総会は、四月二一日にKKRホテル仙台におい

て開催された。参加者は一三名(委任状を除く)。

### (2) 支部役員会の開催

おいて下記の日程で開催した。二〇一二年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンターに

## (3) 会報「宮城山岳」第二十号の発行

された。
支部会報「宮城山岳」第二十号が二〇一二年一二月六日に発行

## 4 第五回一般公募登山事前研修会

台市シルバーセンターにおいて開催された。参加者は二五名。第五回一般公募登山事前研修会が、二〇一二年七月一〇日に仙

## 5 二〇一二年度支部ビールパーティー

ルメトロポリタン仙台において開催された。参加者は一三名。二〇一二年度の宮城支部ビールパーティーが、八月一日にホテ

## 6 第六回一般公募登山事前研修会

第六回一般公募登山事前研修会が、二〇一二年一〇月七日に情 48

報産業プラザ (アエル) において開催された。参加者は九名。

### (7) 二〇一二年度支部年次晚餐会

タン仙台において開催された。参加者は一八名。 二〇一二年度の年次晩餐会が、十二月七日にホテルメトロポリ

#### (8) 役員新年会

部役員新年会が開催された。参加者は一六名。 二〇一三年一月一二日に仙台キリンビアフェスタにおいて支

#### (9) 「宮城山岳」第二〇号の発行

二〇一二年一二月六日に「宮城山岳」第二〇号が発行された。

# 二〇一三年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一三年度総会の開催

開催された。参加者は一二名(委任状を除く)。 二〇一三年度の総会は、四月六日にKKRホテル仙台において

### (2) 支部役員会の開催

おいて下記の日程で開催した。 二〇一三年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンターに 49

日、九月二〇日、一〇月一八日、一一月九日、一二月一五日、一 二月二〇日、一月一七日、二月二一日、三月四日、三月二〇日 四月一八日、五月一七日、六月二一日、七月一九日、八月二三

#### (3) 「宮城山岳通信」の発行

二〇一三年五月二七日に、第二号を一二月一日に発行した。 支部会報(ニュースレター)として「宮城山岳通信」創刊号を

## (4) 二〇一三年度支部ビールパーティー

ルJALシティー仙台において開催された。参加者は一二名。 二〇一三年度の宮城支部ビールパーティーが、八月一日にホテ

### (5) 宮城支部心年会兼二〇一三年度支部年次晩餐会

に仙台市太白区の『茂庭荘』において開催された。参加者は二一 宮城支部忘年会兼二〇一三年度支部年次晩餐会が、一二月一日

# 二〇一四年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一四年度総会の開催

いて移動総会として開催された。参加者は一六名(委任状を除く)。二〇一四年度の総会は、四月五日に蕃山(仙台市青葉区)にお

### (2) 支部役員会の開催

おいて下記の日程で開催した。 二〇一四年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンターに

四月二一日、一二月一九日、一月一六日、二月二〇日、三月二十日,八月二二日、九月一九日、一〇月一七日、一〇月二二日、一四月一八日、五月一二日、五月一六日、六月二〇日、七月一七四月一八日、五月一二日、五月一六日、六月二〇日、七月一七

## ③ 会報「宮城山岳」第二十一号の発行

### 4 「宮城山岳通信」の発行

を二〇一四年六月三〇日に、第四号を一二月二六日に発行した。支部会報(ニュースレター)として、「宮城山岳通信」第三号

## 5 二〇一四年度支部ビールパーティー

テルJALシティー仙台において開催された。参加者は一四名。二〇一四年度の宮城支部ビールパーティーが、七月三一日にホ

### (6) 世界谷地保全事業

界谷地において開催された。参加者は五名。 宮城県が主催する世界谷地保全事業が、八月一日に栗駒山麓世

# (7) 宮城支部忘年会兼二〇一四年度支部年次晩餐会

五名。 日に仙台市太白区の『茂庭荘』において開催された。参加者は一宮城支部忘年会兼二〇一四年度支部年次晩餐会が、一二月一三

# 二〇一五年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一五年度総会の開催

において開催された。参加者は一三名(委任状を除く)。二〇一五年度の総会は、四月一五日に仙台市シルバーセンター

### (2) 支部役員会の開催

おいて下記の日程で開催した。二〇一五年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンターに

月一六日日、一一月一一日、一月二〇日、二月一一日、三日、一〇月二二日、一一月一一日、一月二〇日、二月一一日、三五月二〇日、六月一〇日、七月一五日、八月一九日、九月一六

### ③「宮城山岳通信」の発行

を二〇一五年六月三〇日に、第六号を一二月に発行した。 支部会報(ニュースレター)として、「宮城山岳通信」第五号

## 4 二〇一五年度支部ビールパーティー

テルJALシティー仙台において開催された。参加者は一三名。二〇一五年度の宮城支部ビールパーティーが、七月二九日にホ

### (5) 二〇一五年度支部年次晩餐会

日に「シェルブール仙台」において開催された。参加者は二四名。宮城支部忘年会兼二〇一五年度支部年次晩餐会が、一二月一三

# 二〇一六年度の山行以外の宮城支部行事記録

## (1) 二〇一四年度総会の開催

状を除く)。 並)において移動総会として開催された。参加者は二〇名(委任並)において移動総会は、四月二四日に鎌倉山(仙台市青葉区作

### (2) 支部役員会の開催

おいて下記の日程で開催した。二〇一六年度の支部定例役員会を、仙台市シルバーセンターに

二月一五日、三月一五日日、一〇月二六日、一一月一八日、一月二〇日、九月二〇日、七月一三日,八月一七日、九月一四

### ③ 「宮城山岳通信」の発行

を二〇一六年六月三〇日に、第七号を一〇月三一日に発行した。支部会報(ニュースレター)として、「宮城山岳通信」第五号

# 4 中華民国山岳協会顧問張玉龍氏一行来仙歓迎行事

来仙し、松島観光、蔵王、仙台カゴ登山、月山登山の案内等の歓七月二一日~二七日に、中華民国山岳協会顧問張玉龍氏一行が

### 迎行事を行なった。

## ⑤ 二〇一六年度支部ビールパーティー

国山岳協会会員および宮城県国際交流課職員を含め二五名。テルJALシティー仙台において開催された。参加者は、中華民二〇一六年度の宮城支部ビールパーティーが、七月二七日にホ

# (6) 宮城支部忘年会兼二〇一四年度支部年次晚餐会

543。日に仙台市太白区の『茂庭荘』において開催された。参加者は一日に仙台市太白区の『茂庭荘』において開催された。参加者は一宮城支部忘年会兼二〇一四年度支部年次晩餐会が、一二月一三

# 二〇一七年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一七年度総会の開催

階会議室において開催された。参加者は一七名(委任状を除く)。 二〇一七年度の総会は、 四月八日に仙台市シルバーセンター五

### (2) 支部役員会の開催

下記の日程で、いずれも仙台市シルバーセンター五階会議室に

〇日、十一月一六日、一月一七日、二月二一日、三月二一日、五月一七日、六月一四日、七月一二日、九月一二日、一〇月一おいて二〇一七年度の支部定例役員会を開催した。

### ③ 「宮城山岳通信」の発行

の通り四回発行した。 支部会報(ニュースレター)として「宮城山岳通信」を、下記

第十号 (十月六日発行)、第十一号 (二〇一八年一月一〇日発行) 第八号 (二〇一七年四月七日発行)、第九号 (七月七日発行)、

## 4 二〇一七年度支部ビールパーティー

ルJALシティ仙台において開催された。参加者は一五名。二〇一七年度のビールパーティが、七月三〇日にホテ

## (5) 二〇一七年度支部年次晚餐会

参加者は一七名。 ェルブール仙台」において開催された。 二〇一七年度の支部年次晩餐会は、十二月一七日一番町の「シ

# 二〇一八年度の山行以外の宮城支部行事記録

### (1) 二〇一八年度総会の開催

口の生出森八幡神社境内で移動総会として開催された。参加者は 一五名(委任状を除く)。 二〇一八年度の総会は、四月二八日に仙台市太白区太白山登山

#### (2) 支部役員会の開催

四日、一一月二八日、一月一六日、二月二〇日、三月二〇日 市シルバーセンター五階会議室において開催した。 五月一八日、六月一四日、七月一七日、九月二九日、一〇月二 二〇一八年度の支部定例役員会を下記の日程で、いずれも仙台

## ③ 会報「宮城山岳」第二十二号の発行

行された。 支部会報「宮城山岳」第二十二号が二〇一八年六月一〇日に発

#### (4) 「宮城山岳通信」の発行

り四回発行した。 支部会報(ニュースレター)として「宮城山岳通信」を、下記の通

第十二号(二〇一八年四月十二日発行)、第十三号(七月十二

日発行)、第十四号(一〇月一二日発行)、第十五号(二〇一九年 53 |月||〇日発行)

## 5 二〇一八年度支部ビールパーティー

JALシティー仙台で開催された。参加者は一三名。 宮城支部ビールパーティーが、二〇一八年七月二九日にホテル

### ⑥ 二〇一八年度支部年次晚餐会

「シェルブール仙台」で開催された。参加者は一五名 二〇一八年度の支部年次晩餐会は、一二月一六日に一番町の

### 3 宮城支部以外の日本山岳会行事

#### 参加記録

# 二〇〇八年度の宮城支部以外の行事参加記録

## (1) 日本山岳会支部長会議および総会

および総会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇〇八年五月十七日に、東京において日本山岳会支部長会議

#### (2) 日本山岳会支部長会議

会支部長会議が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇〇八年九月十三日~十四に、山岳研究所において日本山岳

## ③ 日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

および年次晩餐会が開催され、宮城支部からは五名が参加した。 二〇〇八年十二月六日に、東京において日本山岳会支部長会議

#### (4) 日本山丘会全国支部事務局会議

いて支部事務局会議が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇〇九年二月七日~八日に、日本山岳会ルーム(東京)にお

# 二〇〇九年度の宮城支部以外の行事参加記録

#### (1) 日本山岳会支部長会議および総会

および総会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇〇九年五月二三日に、東京において日本山岳会支部長会議

## (2) 日本山岳会自然保護全国集会

した。 山岳会自然保護全国集会が開催され、宮城支部からは二名が参加 二〇〇九年六月二〇日~二一日に、秋田県太平山において日本

### (3) 日本山岳会支部長会議

会支部長会議が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇〇九年九月一二日~一三日に、名古屋市において日本山岳

#### (4) 全国支部黎談会兼東北地区集会

において全国支部懇談会兼東北地区集が開催され、宮城支部から 二〇〇九年一〇月二五日~二六日に、福島県のリステル猪苗代

(5)

日本山岳会秋田支部設立五〇周年記念行事

部からは二名が参加した。 て日本山岳会秋田支部設立五〇周年記念行事が開催され、宮城支 二〇〇九年一一月二八日に、秋田県乳頭温泉「山の家」 におい

### (6)日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

議よび年次晩餐会が開催され、宮城支部からは三名が参加した。 二〇〇九年一二月五日に、東京において日本山岳会支部長会会

## (7) 日本山岳会全国支部事務局会議

した。 において支部事務局会議が開催され、宮城支部からは一名が参加 二〇一〇年一月三〇日~三一日に、日本山岳会ルーム(東京)

# 二〇一一年度の宮城支部以外の行事参加記録

#### (1) 全国支部黎談会兼東北地区集会

二〇一一年一〇月一五日~一六日に、宮城県の「ハイルザーム

部からは二十二名が参加した。 栗駒」において全国支部懇談会兼東北地区集が開催され、宮城支 55

## (2) 日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

および年次晩餐会が開催され、宮城支部からは三名が参加した。 二〇一一年一二月四日に、東京において日本山岳会支部長会議

#### (3) 日本山岳会全国支部事務局会議

いて支部事務局会議が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇一一月二一日~二三日に、日本山岳会ルーム(東京)にお

# 二〇一二年度の宮城支部以外の行事参加記録

### (1) 日本山岳会全国支部事務局会議

した。 において支部事務局会議が開催され、宮城支部からは三名が参加 二〇一三年一月二六日~二七日に、日本山岳会ルーム(東京)

# 二〇一三年度の宮城支部以外の行事参加記録

### (1) 日本山岳会自然保護全国集会

自然保護全国集会が開催され、宮城支部からは三名が参加した。二〇一三年七月六日~七日に、富山県立山において日本山岳会

## (2) 日本山岳会支部長会および年次晩餐会

よび年次晩餐会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。二〇一三年一二月七日に、東京において日本山岳会支部長会お

### (3) 全国支部懸談会

らは三名が参加した。アソシエ静岡」において全国支部懇談会が開催され、宮城支部かて)二〇一三年一〇月二〇日~二一日に、静岡県日本平の「ホテル

## 4 日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

は一名が参加した。日本山岳会支部長会および年次晩餐会が開催され、宮城支部から日本山岳会支部長会および年次晩餐会が開催され、宮城支部から二〇一三年一二月七日に、東京の品川プリンスホテルにおいて

## (5) 日本山岳会全国支部事務局会議

した。 において支部事務局会議が開催され、宮城支部からは一名が参加二〇一四年二月二五日~二六日に、 日本山岳会ル―ム (東京)

# 二〇一四年度の宮城支部以外の行事参加記録

## (1) 日本山岳岳会東北北海道地区集会

した。 岳会東北北海道地区集会が開催され、宮城支部からは三名が参加 二〇一四年七月六日~七日に、福島県猪苗代町において日本山

### (2) 日本山岳会支部長会議

た。日本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは二名が参加し日本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは二名が参加し二〇一四年九月二〇日~二一日に、東京の山岳会本部において

## ③ 日本山岳会自然保護全国集会

会自然保護全国集会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇一四年一一月二二日~二三日に、広島市において日本山岳

# 4 日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

および年次晩餐会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。二〇一四年一二月六日に、東京において日本山岳会支部長会議

## (5) 日本山岳会全国支部事務局会議

)ょ。 において支部事務局会議が開催され、宮城支部からは一名が参加二〇一五年一月二一日~二二日に、 日本山岳会ルーム(東京)

### (3) 日本山岳会支部長会議

本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは二名が参加した。二〇一五年九月二六日~二七日に、東京・プラザエフおいて日

# 7-5

# (4) 日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

は六名が参加した。 本山岳会支部長会議および年次晩餐会が開催され、宮城支部から二〇一五年一二月五日に、東京・京王プラザホテルにおいて日

# 二〇一五年度の宮城支部以外の行事参加記録

### (1) 日本山岳会自然保護全国集会

然保護全国集会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。二〇一五年七月一六日~一七に、青梅市において日本山岳会自

## (2) 日本山岳会東北北海道地区集会

加した。
「〇一五年九月一二日~一三日に、北海道定山渓において日本二〇一五年九月一二日~一三日に、北海道定山渓において日本

# 二〇一六年度の宮城支部以外の行事参加記録

### (1) 日本山岳会自然保護全国集会

自然保護全国集会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。二〇一六年七月一六日~一六日に、高知市において日本山岳会

## (2) 日本山岳会東北北海道地区集会

一名が参加した。 て日本山岳会東北北海道地区集会が開催され、宮城支部からは一二〇一六年七月三〇日~三一日に、北秋田市(森吉山)におい

#### (3)日本山岳会支部長会議

本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは二名が参加した。 二〇一六年九月二四日~二五日に、東京・プラザエフおいて日

## 4 日本山岳会登山指導者養成議習会

され、宮城支部からは三〇名が参加した。 ホテル」において第四回日本山岳会登山指導者養成講習会が開催 二〇一六年一〇月一五日~一六日に、仙台市秋保温泉「岩沼屋

## (5) 日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

は六名が参加した。 本山岳会支部長会議および年次晩餐会が開催され、宮城支部から 二〇一六年一二月五日に、東京・京王プラザホテルにおいて日

# 二〇一七年度の宮城支部以外の行事参加記録

#### (1)日本山岳会東北北海道地区集会

日本山岳会東北北海道地区集会が開催され、宮城支部からは五名 二〇一七年五月二七日~二八日に、遠野市において第三十三回

#### が参加した。

### (2) 日本山岳会平成二九年度通常総会

した。 会平成二九年度通常総会が開催され。宮城支部からは六名が参加 二〇一七年六月二四日に、東京・プラザエフにおいて日本山岳

#### (3)日本山丘会自然保護全国集会

然保護全国集会が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇一七年七月九日~一〇日に、岐阜市において日本山岳会自

### 4 日本山岳会全国支部合同会議

本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは一名が参加した。 二〇一七年九月二三日~二四日に、東京・プラザエフおいて日

#### (5) 全国支部懇談会

宮城支部からは一名が参加した。 ンドホテル」において、第三十三回全国支部懇談会が開催され、 二〇一七年一〇月一三日~一四日に、つくば市の「つくばグラ

### (6)日本山岳会支部長会議および年次晩餐会

二〇一七年一二月二日~三日に、東京・京王プラザホテルにお

部からは一名が参加した。いて日本山岳会支部長会議および年次晩餐会が開催され、宮城支

# 二〇一八年度の宮城支部以外の行事参加記録

### (1) 日本山岳会全国支部懇談会

び支部友会会員一名の計四名が参加した。十四回全国支部懇談会が開催され、宮城支部からは会員三名およ閣グランドホテル」および大雪山系の赤岳・黒岳において、第三閣グランドホテル」および大雪山系の赤岳・黒岳において、第三

### (2) 東北・北海道地区集会

四名が参加した。

の名が参加した。

## (3) 日本山岳会自然保護全国集会

市の旅館「まつさき」および白山高山植物園で開催され、宮城支二〇一八年七月八日~九日に、自然保護全国集会が石川県能美

部からは一名が参加した。

#### (4) 支部合同会議

参加した。
フ(東京都千代田区)を会場に開催され、宮城支部からは一名がフ(東京都千代田区)を会場に開催され、宮城支部からは一名が二〇一八年九月二九日~三〇日に、支部合同会議がプラザ・エ

### (5) 日本山岳会支部長会議

加した。
いて日本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは1名が参いて日本山岳会支部長会議が開催され、宮城支部からは1名が参二〇一八年一二月一日~三日に、東京・京王プラザホテルにお

# 宮城支部設立六〇周年記念事業編

# 六○周年記念海外登山「玉山」(ユイシャン)

報告者 草野 洋一

台湾·玉山(三九五二m)

山

日 時 二〇一八年一〇月九日(火)~一五日(月)

・参加者 冨塚和衛(リーダー)、遠藤銀朗(サブリーダ

―)、千石信夫(計画)、冨塚眞味子(会計)、草野洋一

〔記録者〕=以上会員、岩淵利秋、津久井宏、

=一般山田孝司、鳥田伊志=以上支部友会会員、佐藤田鶴子

りました。に西郡元支部長以下九人が登山して以来二二年ぶりとな峰「玉山」に遠征。宮城支部としては平成八年(一九九六)宮城支部六○周年記念登山として一○人で台湾の最高

一○月九日(火曜)晴。仙台空港に集合。一六時五五分、 一○月九日(火曜)晴。仙台空港に集合。一六時五五分、 一○月九日(火曜)晴。仙台空港に集合。一六時五五分、 一〇月九日(火曜)晴。仙台空港に集合。一六時五五分、 一〇月九日(火曜)晴。仙台空港に集合。一六時五五分、 一〇月九日(火曜)晴。仙台空港に集合。一六時五五分、

お孫さんの佐藤田鶴子さんが来訪したこともあって、陽明お孫さんの佐藤田鶴子さんが来訪したこともあって、陽明小四家公園内の「竹子湖蓬莱米原種田故事館」にある陽明山國家公園内の「竹子湖蓬莱米原種田故事館」にある陽明山國家公園内の「竹子湖蓬莱米原種田故事館」にある。一〇日、雪り、夕方雨。ホテルのフロントには張さんと一〇日、雪り、夕方雨。ホテルのフロントには張さんと

う名の山はないとのこと。

・同公園で一番高い山は七草山一一二○mで陽明山といいの帽子と陽明山國家公園と故事館の冊子を頂戴しまし時間余にわたり丁寧な説明を受けました。退室時には陽明山國家公園管理處の詹徳樞處長はじめ職員の方々から一山國家公園管理處の詹徳樞處長はじめ職員の方々から一

途中のレストラン「京鼎楼」で昼食。そのあとはサービス 十八時五〇分、山麓の「阿里山レストラン」で夕食。外へ 飲みながら休憩。 にチェックイン。 出ると雨が降り出した。 エリアでのトイレ休憩をはさんで一路玉山山麓へ向かう。 水が流れている所を見学して近くのカフェでコー 退室したあと國家公園内で噴気をあげている山 一帯はヤダケとカヤの原。 二〇時 「阿里山閣大飯店」 + 時 ーホテル ٠ ٢ 肌 出発。 や熱 を

換えて一○分ほどで玉山登山口の塔塔加暗部(二六一○m 用バスに乗り換える。 鉄道」のトロッコ で目が覚める。外に出てみるとホテルの裏を「阿里山森林 十一日 一だった。八時 バスをおりて歩い スポートチェックを受ける。 午前小 ○五ホテル発、 列車が走っていて、 雨のち曇り。 て國家公園塔塔加警察小隊で入山手 林務処でランチ積み込 早 途中で登山 朝、 シャトルバスに乗り 列車の走る音と警笛 ホテルの隣は 口に向かう専 九時一〇 「沼平

に。

孟祿亭 かず、 登山、 食事は夕食、 部屋は上下二段になっていてマットが敷いてある。日本の 四〇二m) 着。小屋は二階建てで二階の個室に案内される。 も設置されていた。十六時一○分、宿泊地の拝雲山荘(三 鎖などが整備されていて歩きやすい。バイオマスのトイレ 十四時三五分(休憩)。登山路は樹林帯の中を行き、木道や が雲がかかって見えなかった。 袋を使って早めに就寝する。 夕食は時間が指定されていて、 山 ○九六m)で昼食。ここから玉山が展望できる場所だった 分、前峰分岐十一時三〇分、十二時五〇分白木林展望台(三 売店はなかった。就寝前に少しお酒を飲みながら、今日 身支度と写真を撮って、林さんの先導で九時 小屋よりゆったりしている。 明日の予定について雑談。 汁物を受け取って食事。 (モンロー亭=温帯林と寒帯林の境目) 早朝食、朝食の三回で食券をもらって食べる。 登山客は多く満室のようだ。 各自お皿を持ってご飯、 大峭壁(一枚岩の大障壁) お湯は自由に補給できる。 布団はなく 山荘備品の寝 四五分出 )時四

目付近より樹林帯から岩稜帯のガレ場となり、頂上直下は二時三〇分朝食、三時ヘッドランプを装着して出発。八合十二日 午前中は曇り、午後は雨。肌寒い。二時起床、

岩場の急登になる。

辺の三〇〇〇m 光はのぞめなかったが雲間から時 て九時四〇分、雨足が強くなり合羽を着て出発。 する。圓峰分岐八時○○分、 に記念写真を撮り、林さん手配の温かいお茶を飲んで下山 の行動となった。 ○分白木林、十四時二五分塔塔加登山口着。 六時二○分、玉山山頂 級の山塊を展望できた。寒かったので早々 (三九五二m)に全員登頂。 拝雲山荘九時着、 折り太陽が顔を出し、周 十一時間半余 軽食をとっ 十一時三 ご来

には影響ありませんでした。しました。それでも三人ほどが発症しましたが軽度で登山(ダイアモックス)を処方してもらい何回かに分けて服用高山病対策としては会員である千葉正道さんに予防薬

併設されている温泉に入る。夕食は館内でとる。埔温泉「沙里仙温泉渡假村」へ。十七時三○分着。中庭に玉山國家公園ビジターセンターで昼食をとり、バスで東

され、 の銘板には Щ 時三○分、観光地である日月潭を見学。十二時○○分「牛 ·登 山 十三日 石碑には説明文が刻まれていた。 ルートとしていた登山口を見学。 曇り。 「新高登山 九時 口」(日本統治時代は新高 一〇分ホテル発、 一〇時、 一〇時四〇分~十 入り口の石積の中 山) と明記 かつて玉

> 三○分ホテルへ。 信苑会館」で登頂成功を祝っての夕食会を開いた。二○時八時二○分、張さん、林さんと共にホテル近くの「LIYUN八時二○分、張さん、林さんと共にホテル近くの「LIYUN」の、紹興酒工場「埔里酒廠」を見学。十六時三○分サービ相觸郷土餐坊」でランチ、十二時五○分出発、十三時一○

テル発。 屋に置き、徒歩で中華民國山岳協會 そのあと「龍山寺」を見学。 分から十二時まで故宮博物館に入館。 の前は行列だった。十三時、博物館内のレストランで昼食。 ムへ表敬訪問。 十 应日 八時四五分、 晴れ。 八時三五分、 忠烈祠で衛兵交代を見学、 十七時、 張さん、林さんと一 (以下山岳協會) ホテル着。 有名な「翠玉白菜\_ 九時 荷物を部 のル

れていることがわかりました。とザイルが額装されて壁面に飾ってあり、現在でも尊敬さた。山岳協會設立に尽力されたということで大歓迎してくた。山岳協會設立に尽力された平澤亀一郎氏のお孫さんの 黄楩楠理事長以下一〇余名の方々が出迎えてくれまし

**膏」が交付された。加えて山岳協會の帽子と刺繍入りTシー自己紹介のあと一人ひとりに理事長から「玉山登頂證明** 

贈呈しました。た。支部からは宮城の日本酒、ウイスキー、鳴子こけしをと。支部からは宮城の日本酒、ウイスキー、鳴子こけしを翠で中華民國(台湾)をかたどった額入りの玉をいただいャツのプレゼントがあり、さらに同協會から宮城支部に翡

れました。山岳会の旗にサインして贈呈。さっそくルームに掲げてく山岳会の旗にサインして贈呈。さっそくルームに掲げてくして両国の会員と共に記念写真を撮りあった。我々は日本パイナップルケーキ、バナナ、お茶の接待をうけて歓談

で楽しい会でした。二一時三〇分、名残惜しくも終宴。しい料理を堪能して、時間のたつのが忘れるほどにぎやかは各円卓で和気あいあいと話が弾み、台湾の高級酒とおい皆と歩いて会場のレストラン「欣葉本店」へ移動。晩餐会歓談したあと山岳協會主催の晩餐会に招待されました。

国 空港まで同行して見送ってくれました。おかげで無事に登 問と滞在中ずっと同行してくれたガイドの林さんが を惜しんだ。十一時発ピーチ航空MM七七六便、十四時三 ることができたお礼を言って、またの再会を約束して別れ 十五日 (日本時 同異口 月 同音に「楽しかったね」と言って解散しまし 間 晴。 十五時三〇分) 七時四〇分ホテル 仙台空港着、 発帰国 全員元気に帰 [の途 ~ ° 桃園 張 顧

> ただけで大雨は下山時だけだった。 ークがついていて心配だったが、幸いにも小雨が時々あっークが到着時からこの先一週間の天気予報がずっと雨マ

などの入山申請、 がある。 致しまして協力態勢を整えています」とのメールを受けて、 変お手数をおかけしました。 抽選になる。 玉山登山では一日の登山人数が九二人に限定され、 さっそく登山 から「貴支部の玉山登山においては交流復交の重要事項と などに大変お世話になりました。四月にはいって山岳協 「外国人登山規定」に従って外国人枠は二四人などの制限 今回の玉山登山 登山申請は四カ月前から受け付け、 国家公國管理處等に提出する登山者名、 計画、メンバー、航空券等の準備にはいった。 登山指導員の手配などで山岳協會には大 では山岳協會には各種手続 多数の場合は き、 登山 さらに 期間 申

ジにわたり掲載されていました。

竹子湖故事館参観の様子がそれぞれ記事と写真で三ペー

文部全員の登頂写真、山岳協會ルームでの交流会の模様、

支部が台湾を訪問したことが紹介されていて、玉山頂上で

支部が支部に送られてきました。その中に日本山岳会宮城

二○一九年三月に山岳協會の会報誌「中華山岳二六九号」

九八六年(昭和六一年)六月逝去。享年九六歳

間に奥地の高砂族などに温帯野菜、果樹の育成指導にあた 内の「竹子湖蓬莱米原種田故事館」に詳細にその開発過程 が紹介されています。また昭和七年より十四年まで いうべき「蓬莱米」の育苗、 配育種に力を注ぎ、 にわたり台湾の殖産振興に携わりました。特に台湾米の交 二三年) 大学農学部 (大正六年) 十二月、台湾総督府殖産局へ赴任して三○年 平澤亀 地元民の生活安定に大いに貢献されています。 仙台で出 郎氏 生。 H 竹子湖の原種田で台湾米のル 本山岳会名誉会員。一 現北海道大学)入学。一 開発に尽力。 (明治) 四四 陽明山 八九〇年 年 東北帝[ 九一七年 國家公園 ーツとも の 七年

月に 意もあって中華民國山岳協會の設立に多大な役割を果た きましたが、後年、焼失されてしまったとの報告。その後、 Щ しました。日本に帰る際、多数の登山記録を現地に残して その間、 有 々に登攀し、 恒氏の強い勧めもあって記憶を頼りに一九八一年九 「台湾の山と私」(茗溪堂)を刊行。 玉山はじめとして台湾全土の三〇〇〇 その登山記録も多数残しています。 その熱 m 級 0

々にも足をのばしています。へ計四回の登山、国内はもとよりアルプス、ネパールの国の入植地、移住調査などにあたる。山行も精力的に台昭和二○年帰国後、宮城県海外協会常務理事として南米

Щ



記念海外登山記録写真 (玉山山頂にて)



宮城支部台湾記念山行の記事

### 六○周年記念祝賀会

### 報告者 富塚 和衛

はじめ、 頂いた元仙台フィルハーモニー管弦楽団の山本靖子氏を 雰囲気の宴席で楽しむことが出来ました。 曲を聴きながら酒を酌み交わすのも中々経験のできない 四重奏の調べを奏でてくれました。演奏曲目はハイドン作 の三名の方々にバイオリンの千葉正道会員が加わり、 ブル演奏で会場を盛り上げてくれました。 奏に遠藤副支部長のクラリネット 0 祝賀会では音楽好きの会員が趣向を凝らしたアンサン 演奏が終わると盛大な拍手喝さいが起こり会場は大い 「弦楽四重奏作品三の第五」 の「クラリネット五重奏」 中島祐氏、 中島幸子氏には感謝申し上げます。 第二楽章が演奏されまし 第一楽章。 が加わりモーツァル クラシックの名 演奏に参加して 続いて弦楽四 弦楽 ح

に盛り上がりました。

唱しました。この熱唱で会場は一つになった感がありまし追いながら参加者全員が心の底から大きな声を出して熱「花は咲く」と文部省唱歌「故郷」を配られた歌詞を目でそして、松田照夫会員の合唱リードによる五重奏の伴で

らの祝賀会は「素晴らしい」の声も聴かれるなど大いに満 辞を頂いたある支部長からは、管弦楽器の奏でを聞きなが 足していただいた祝賀会となりました。 頂いた大島静岡元支部長からスピーチを頂きました。 西山(北海道)、 (福島)支部長等からご祝辞を頂き、 暫し歓談後、 中村(青森)、 招待させていただいた東北・北海道地 鈴木(秋田)、 更には、 中 屋(岩手)、 遠路参加 して X

皆様に感謝申し上げます者にとっても心に残る饗宴となりました。参加いただいた生演奏によるクラシックを聴きながらの祝賀会は参加よる「蔵王」の歌が披露され祝賀会は終焉に向かいました。最後に、余興としてカルテット(支部長経験者四名)に



宮城支部設立60周年祝賀会記念写真



記念祝賀会での一コマ (参加者全員での合唱・合奏)

## 六○周年記念祝賀登山「太白山」

### 報告者 佐藤 昭次郎

- 実施日:平成三○年一一月一八日(日)
- ---(登路を下山)----宿泊地へ(解散) 出森八幡神社鳥居前(入山)- 八幡神社社殿----山頂--コース:宿泊地(茂庭荘)----市ガス局茂庭給油所前----生
- 参加者:(宮城支部会員十三名&友会員六名 真味子 (本部) 千石信夫 宇都宮昭義 中屋重直(岩手支部) 正 支部代表者他七名 静岡支部) 千田早苗 佐藤富士子 山田孝司 西山泰正(北海道支部) 渡邊雄二(栃木支部・招待) 髙橋二義 津久井宏 計二六名) 富塚和衛 岩渕利秋 佐藤一夫(福島支部) 草野洋一 千葉正道 佐藤昭次郎 多田孝徳 中村 勉(青森支部) 松田照夫 横山 遠藤銀朗 大島康弘 中山茂樹 蔭山美緒 本部及び 富塚 太田

日参加されました。

山を選定しました。下見をして祝賀登山に備えました。記念登山の山域として宮城仙台のランドマーク的な太白宮城支部役員会において会員構成や時期などを検討し、

時とし、 津久井さんが追いつき、記念山行だけは参加したいと、当 しながら生出森八幡神社の鳥居前に着(一○時五五分)。 ました、途中予定の休憩を入れ、 班を佐藤昭次郎が担当し、これより素晴らしいお天気は無 山行計画を短時間に紹介、参加者総数から二班に分けて行 いだろうと思われるなかA班・B班の順で宿泊地を出発し いました。 当日 最後尾で登っていましたが急斜面岩場で支部友会員の は、祝賀会の翌朝という事で出発時間を茂庭荘 っくりとした出発としました。 A班リーダーを遠藤副支部長が担当し続くB 晩秋の残った紅葉を散策 玄関前で今日 0

ること等に宮城支部は貢献することを誓いました。(船形連邦、蔵王連峰、泉ケ岳、七ツ森など)と牡鹿半島、(船形連邦、蔵王連峰、泉ケ岳、七ツ森など)と牡鹿半島、(船形連邦、蔵王連峰、泉ケ岳、七ツ森など)と牡鹿半島、し、昼食休憩としました。晩秋の好天の下にある周辺山地し、昼食休憩としました。晩秋の好天の下にある周辺山地し、昼食休憩としました。晩秋の好天の下にある周辺山地

した。その後解散式を行い、記念講演会から始まった一連山を開始し、十四時十五分に全員の茂庭荘帰着を確認しま全員による記念撮影の後十二時三○分にA班先頭に下





太白山全景

太白山山頂での60周年祝賀登山記念写真

#### 日本山岳会宮城支部設立60周年記念『太白山宣言』

日本山岳会宮城支部は設立60周年を迎えるにあたり、支部におけるこれまでの山岳活動で享受してきた宮城をはじめとする多くの山々の恩恵に感謝するとともに、これからも山に親しみ山の自然に触れ続けるために次の四つのことを宣言します。

- 一、 日本山岳会宮城支部は、支部設立以来これまでの60年間に亘る 貴重な山岳会活動を誇りに思い、先人達が残した活動の足跡を後世 に伝えることに努めます。
- 一、 日本山岳会宮城支部は、これからも宮城の山々を中心とする健 全な山行を通じて、山岳に関する知識と文化の発展に貢献すること に努めます。
- 一、 日本山岳会宮城支部は、これからも山岳活動を通じて自然愛護 の精神を高揚させるとともに、その精神の普及に努めます。
- 一、 日本山岳会宮城支部は、次世代に山の恩恵を継承するとともに、 次世代が山に親しむ機会を提供することに努めます。

2018年11月18日 仙台市太白区太白山山頂にて宣言します。

### 六○周年記念講演会

### 報告者 遠藤 銀朗

・実施日:平成三〇年一一月一七日(土)

• 開催場所:仙台市太白区人来田 「茂庭荘」会議室

演がなされた。講演者及び講演題目は以下の通り。 その後二名の講演者によりそれぞれ約一時間ずつの講

### **聘演者** 大江洋文氏

五十四次及び第五十八次南極越冬隊員)山の会会員、東北大学医学部ワンデルング会OB、第(医師(外科学会専門医)、認定国際山岳医、仙台一高

演題「寒さと人体 ― 山での遭難を避けるために ―」

### 講演者 渡邉雄二氏

友好登山隊) 所所長、一九七五年マカルー登山隊、一九八八年三国(公益社団法人日本山岳会栃木支部長、前国立登山研修

# 演題 「登山活動の安全管理の基礎~山岳会の指導者と

して」

大江洋文氏は、冬山登山活動と南極越冬隊員としての経験をもとに、低温下での人体の生理的機能(体温調節)と成体温症による山岳遭難の事例について説明された。寒冷感としてふるえによる熱産生と非ふるえ熱産生、交感神経、甲状腺ホルモン、副腎ホルモンなどの異常により、ふるえ中状腺ホルモン、副腎ホルモンなどの異常により、ふるえから歩行困難、意識混濁、昏睡状態までいくつかの経過を辿り遭難死に至ることがあることが紹介された。寒冷低体温症にならないための予防対策として、低体温症にならないための予防対策として、低体温症にならないための予防対策として、

(1) 放射(輻射)の防止:外界温度が体温より低いときに生じ、

(2) 伝導の防止:直接他の物体に体温を奪われる。→ 金属に

(4) 蒸発(蒸散)の防止:発汗と不感蒸泄(ふかんじょうせつ) (5) 対流:空気の流れによる体温の放散。→風を防ぐ

どが示された。 の二種類がある。→乾燥した衣類の着用やマスクの着用な

めの退避行動、などが必要であると話された。そして、水分をこまめに取る、適切な防寒着の着用、早

ることを紹介された。ど)を用いた湯たんぽ加温、栄養補給、脱水補正などがあ温症ラッピングや、プラスチックボトル(ペットボトルな低体温症になってしまった人の緊急対応としては、低体

時間以内に病院での治療が必要であることをお話しされた。凍傷の原因や体質的要素などが説明され、原傷は予防が大切でまた予防可能であることが強調された。現場でのが大切でまた予防可能であることが強調された。現場でのが大切でまた予防可能であることが強調され、凍傷は予防た。、低温環境下における凍傷についての講演がなされ

崩事故遭難を防止するための方法について説明された。雪次に、冬山での雪崩事故による遭難とその対応策及び雪

練の重要性を指摘なされた。
に装備の携行、危険察知と回避知識の習得、安全講習・訓こと、雪崩に遭遇した際の自助的対応方法の習得、雪崩対崩では、外傷、埋没による窒息、低体温症が死亡に繋がる崩では、外傷、埋没による窒息、低体温症が死亡に繋がる

された。
のできない南極越冬隊の活動の様子や生活の様子が説明像子が、ビデオ記録を交えて紹介され、なかなか知ること様子が、ビデオ記録を交えて紹介され、なかなか知ること記念講演の最後に大江氏から、南極の自然と南極観測の

上げたい。教えられることの多い記念講演であったことに感謝申しの登山事故を避けるかについて、聴講者一同にとって大変大江氏の全ての講演に亘って、いかにして低温条件下で

れた。登山における安全管理はどうあるべきかについて講演さ修所所長としての経験を踏まえて、山岳会の組織としての修所所長としての経験を踏まえて、山岳会の組織としての 渡邉雄二氏はこれまでの海外登山の経験と前国立登山研

はじめに、講演者ご自身の登山活動の経験が紹介された。

1

や生時代の山岳部での活動、社会人になってからの登山活学生時代の山岳部での活動、社会人になってからの登山、一九九○年のコンロン山脈の一六年のエクアドルのチンボラソ峰登頂、一九八八年のエ四年のインド・ヒマラヤCB三一峰登頂、一九八八年のエの一六年のエクアドルのチンボラソ峰登頂、一九八八年のエの一六年のエクアドルのチンボラソ峰登頂などが紹介された。

が増えている実態があることを指摘された。な性登山者や高齢登山者の増加など、登山人口が増加してな性登山者や高齢登山者の増加など、登山人口が増加してれた。その上で、近年変わりつつある登山事情を紹介され、られるものは何か、についてご自分の体験からお話をなさ渡邉氏は、山登りの面白さとは何か、山登りを通して得渡邉氏は、山登りの面白さとは何か、山登りを通して得

る安全管理、②登山行動中の安全管理、③危険状態下でのければならないことを説明された。①登山計画策定におけ安全管理が益々重要になってきていると話された。登山における安全管理は、以下の三つの段階のすべてでなされな安全管理が益々重要になってきていると話された。登山にこのような登山実情の変化に伴い、山岳遭難事故も最近

た適切な判断が重要であること。 静の把握、天候・登山道の状態の把握、またそれらに応じ② 登山中の安全管理は、主にリーダーがメンバーの状態・動

② 危険状態下での安全管理は、道迷い、危険箇所の通過、天

などを話された。

いては、次の五点を紹介された。で請演され、山岳事故裁判の判例、過失の基準、リーダーの責任につて講演され、山岳事故裁判の判例、過失の基準、リーダーの表に渡邉氏は、登山事故が発生した際の法的責任につい

② 参加者へは事前に登山の内容について十分な説明を行い、故を回避し、グループを安全に引率する責任を負うこと。① リーダーは、登山の始めから終わりまで、危険を予見し事

注意事項や参考資料等を配布すること。 (説明責任)

- 対応すること。 
  ④ 事故が起こった場合、正しい判断のもとに行動し、真摯に
- (賃責任保険) への加入など) 計画時からの記録の保管、保険(旅行保険、遭難保険、賠⑤ その他の責任事項(参加者の力量把握、健康状態の把握、

を保険への加入の三点であった。
①危険性の説明義務、②責任範囲の明確化、③損害賠償責ラブルを避けるための重要な点を指摘された。それらは、か紹介され、各判例における過失認定の基準と法律上のト刑事事件としての判例と民事事件としての判例をいくつ以上のような講演の後で、渡邉氏はいくつかの山岳事故の以上のような講演の後で、渡邉氏はいくつかの山岳事故の

会が主催する登山教室における旅行業法上の留意点と観率教員一名が死亡、四〇人が負傷)を取り上げられ、山岳主催「春山安全登山講習会」那須雪崩事故(生徒七名、引最後に渡邉氏は、二〇一七年三月に栃木県高体連登山部

れた。となどを指摘されて講演を締めくくら教育を徹底することなどを指摘されて講演を締めくくら泉であること、危険を回避するための基本的技術に習熟し泉であること、危険を回避するための基本的技術に習熟しまでからの通達を紹介された。そして登山リーダー(指導

ことに感謝申し上げたい。理にとって大変教えられることの多い記念講演であった理にとって大変教えられることの多い記念講演であった渡邉氏の講演内容も、登山事故防止という登山の安全管

### 併設南極観測展示会

と寒さを理解する貴重な機会を得た。と寒さを理解する貴重な機会を得た。等)、パンフレット「南極観測」、および南極の氷等の資料等)、パンフレット「南極観測」、および南極の氷等の資料等)、パンフレット「南極観測」、および南極の氷等の資料を展示し、講演会の前後の時間及び休憩時間に南極の自然を展示し、講演会の前後の時間及び休憩時間に南極の自然を展示している。

・**講演会参加者** 宮城支部会員及び支部友会会員が三六名、

計五八名。



講演会場に併設された南極観測展



冨塚支部長の開会挨拶



講演中の渡邉雄二氏



講演中の大江洋文氏

#### 随筆編

# −この一○年 思い出の山・

## 思い出のできごとー

# 玉山と仙台カゴをつなぐ平澤家

昨年の宮城支部設立六○周年事業で、台湾の玉山(三九五年の宮城支部設立六○周年事業で、台湾の玉山(三九五年の宮城支部設立六○周年事業で、台湾の玉山(三九五年年の宮城支部設立六○周年事業で、台湾の玉山(三九五

私は以前にも支部行事で訪台の機会はあったが参加できずに民国山岳協会(当時台湾山岳会)との深いつながりがあった。宮城支部では平澤亀一郎名誉会員が設立にかかわった中華

びとこまを偲んで見ようと思う。 その参加者には平澤亀一郎氏のご令孫にあたる佐藤田鶴子 青重な記録を「台湾の山と私」として残されている。私はそ の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその の本をきっかけに改めて平澤さんのルーツに興味を持ちその

昨年は戊辰一五〇年の年で「西郷どん」で話題を呼んだが、下に目を向けてみると興味深い。

都に赴いたことは、当時これが最速だったのだろうか。 うな逸話があった。まさに死を賭けての旅、 町の仙台邸に到着したのである。宗亮氏の講演記録にそのよ の情景を知るうえでとても興味を持って読んだ。 わずか九日で京

は、 田鶴子さんも参加されていた。実に二〇数年ぶりの対面とな 氏のレリーフを仙台カゴ南面に設置し除幕式を行ったときに 址や御廟そして茶室などが残されており、そのような歴史あ 山元町坂元に開邑元和二年から四○○年を超える大條家の城 った。いろいろそのようなご縁を感じて二〇一八年は平澤亀 いるからである。一九九四年一○月に宮城支部で平澤亀一郎 る大條家のことが平澤亀一郎氏を通じてとても身近に感じて 郎氏の面影を偲ぶ年ともなった。 大條孫三郎宗亮について話題にしたのは、私の住んでいる 平澤家のご家族として、平澤亀一郎氏のお孫さんの佐藤



仙台カゴの岩峰



仙台カゴの岩場に設置した 平澤亀一郎氏顕彰碑

### おもいで―震災前後の山

三宅

れもあの三・一一大震災前後の山となった。 「五○周年」後の一○年間でとくに印象に残った山は、いず

☆甲斐駒ケ岳―たっぷりと賞味した山(二○一○年七月一

七~一九日)

甲斐路、甲府をとりまく私の初めての山は瑞牆(みずがき)

岳と続いてきた。間ノ岳、雲取山、仙丈岳、そして鳳凰三山の地蔵、観音、薬師間ノ岳、雲取山、仙丈岳、そして鳳凰三山の地蔵、観音、薬師山だった。その後、金峰山、国師岳、甲武信岳、八ヶ岳、北岳、

高度感に圧倒されそうだったのも覚えている。線の電車の窓から、小海線から間近に見上げたときは、そのろう。周辺の山の頂きから、中央道の車の中、あるいは中央とに気付かれたに違いない。甲斐駒ケ岳である。それまで、とて、上記の山のなかに、一つの超、名山が入っていないこさて、上記の山のなかに、一つの超、名山が入っていないこ

たいと思っていたのだ。噛みしめて食べたように、この山はあとでたっぷりと賞味し自分の好きなおかずを残しておいて、最後にじっくりと味を当然、この山には登ることにはなっていた、が、幼いころ、

意災の前年夏七月、ついにこの山を賞味する日がやってき 意災の前年夏七月、ついにこの山を賞味する日がやってき 意と過ごしたことだった。見える、見える、南、中央、北アの 前し、翌日未明出発。途中、夜明けの空に富士山を眺めて念 前し、翌日未明出発。途中、夜明けの空に富士山を眺めて念 がある。 ではいたでは私の永年の山友、山梨、聖峰山岳会 とを過ごしたことだった。

> (?)があった! りと賞味した名山、甲斐駒ケ岳。最後まで残しておいた甲斐山を心ゆくまで眺めることができた。デザート付きでたっぷ山を心ゆくまで眺めることができた。デザート付きでたっぷっとの見える山」の竜ヶ岳 (一四八五m)に登り、眼前の富士さらに翌日、メンバーの案内で本栖湖から「ダイヤモンド

☆**蔵王山―やあ、よく来たね!!**(二○一一年九月一八日)☆**蔵王山―やあ、よく来たね!!**(二○一一年九月一八日) 六ヶ月後のこと。 一次で実家が甚大な被害を受けたことによる。 一方で 京気消沈、悶々 はたったの三座。 この激減ぶりは、まさにあの「三・一一」大 はたったの三座。 この激減ぶりは、まさにあの「三・一一」大 はたったの三座。 この激減ぶりは、まさにあの「三・一一」大 はたったの三座。 この激減ぶりは、まさにあの「三・一一」大

「あったー」と千石さん。「え?」どこ・・・?」と、目を皿に

してみると、

「俺ッチ、ここにいるよー!」

が出るほど嬉しかった。と、小さな体で懸命に手を振っていそうな山を見つけた。涙

気をもらったあの日のことを、私は今も忘れない。身近な山でありながら平凡過ぎていた蔵王山に、これほど元下山後は峩々温泉でとっぷりと湯に浸かったことを思いだす。かもしか温泉に下る途中はリンドウの花々にいやされながら、かもに熊野岳では咲き残った一輪のコマクサを見つけ、旧

# ☆オボコンベー二つの意外な発見!(二○一二年一一月二

四日)

員と藪こぎ覚悟で出かけたときのこと。つ東側の尾根をたどって山頂に登ってみようと、高橋(功会)震災の年の翌年、オボコンベに至る尾根コースの、もう一

点からよりも見事なほど尖っていた。根の上に出た。目指すオボコンベが、今まで見てきたどの地根の上に出た。目指すオボコンベが、今まで見てきたどの地イ字形の沢から急斜面を登っていくと、石の散らばった尾

さて、ここで意外な発見である。功会員が「そこにオボコが

と言ってその場をあとにした。

いる」という。見ると、背丈二〇㎝ほどの、こけし(オボコ)いる」という。見ると、背丈二〇㎝ほどの、こけし(オボコ)いる」という。見ると、背丈二〇㎝ほどの、こけし(オボコ)いる」という。見ると、背丈二〇㎝ほどの、こけし(オボコ)

その現場からさらに一時間ほど藪をかき分け、四七三付近と、その場をソッと後にした。と、その場をソッと後にした。なぜ、この場所に……「ウーン、謎だね」がボコンベの見える尾根、その尾根に立ち並ぶ石仏群、い

ま落葉していなかった。これは一体?……ここでも"ウーン"さてさて、ここでも功会員の知的好奇心から、興味深い一つの現象を体験することができた。重なった岩と岩、岩と地つの現象を体験することができた。重なった岩と岩、岩と地つの現象を体験することができた。重なった岩と岩、岩と地に出た。小雪がちらついてくる。

うなっているだろう。に到着した。ところで、あの石仏群跡と温風の現場は、今、どを伝わってオボコンベ東面にとりつき、一一時三○分、山頂まもなく着いた五八九地点からゾッとするような痩せ尾根

#### 平成を辿る

#### 木皿 謙

まいます。

りも平成の方が長いことに気付きました。ら正確なところは解りませんが、私のJACの歴史は昭和よら正確なところは解りませんが、私のJACの歴史は昭和よるが明和五○年頃?残念なが

時代のうねりを感じながら平成を懐かしんでみます。月一日の平成から令和への改元が近づいてくるという大きな天皇陛下のご退位 皇太子さまの即位 それに伴う今年の五

思い出されます。日く、九州長崎普賢岳の噴火、地下鉄サリ平成のイメージを改めて考えてみるに何故か事件・災害が

感覚が普通なので、こう思うのかもしれません。事故etc・・世の中、平和で順調であって当たり前と言うン事件、神戸・淡路の大地震、熊本地震、東日本大震災・原発

期のお花見とか言われると、感慨を通り越して吹き出してしの鐘・入社式・などはなんとか納得できるとしても、平成最なった気がします。曰く《平成最期の忘年会・新年会・除夜作年末頃からやたらと、平成最期の・・・と言う言葉が多く派は半々くらいだそうです。

かったのかなと思います。成最期を言っていることを考えると、平成初の・・・も多分多初の・・・の記憶があまりありません。これだけメディアで平古いことなので忘れてしまったのかも知れないけど、平成

会館・仙台市公会堂などでよく開催され、胸を時めかせた思恵或いは山行紀行記録の十六ミリフィルムでの上映会が市民学生の頃「夏山の夕べ」「冬山の夕べ」などといった山岳映学生の頃「夏山の夕べ」「冬山の夕べ」などといった山岳映で上の、子供のころから淡い夢と憧れだったヨーロッパアルここで改めて平成の歴史を私に置き換えてみると、平成元

い出がありましたが

した。
したが、それでも私にとってそれはそれは大きな出来事でームの時期にうまく乗っかることが出来ただけの事ではありームの時期にうまく乗っかることが出来ただけの事ではありるれが実現した時の感動は忘れられません。世界的な旅行ブー

重複致します) 重複致します) 重複致します) でくれました。(この件は本誌佐々木郁男さん追悼記事と若干いがら五年ほどして彼のライフワーク(と言えるでしょう)ヒから五年ほどして彼のライフワーク(と言えるでしょう)ヒから五年ほどして彼のライフワーク(と言えるでしょう)ヒスのツアー、今は亡き刎頸の友佐々木郁男氏と一緒の旅で、

た。タベ」などで胸を時めかせたその場所で滑ることが出来ましのスキーツアーに行く機会に恵まれ、若かりし頃の「冬山のその頃、私はスキーの仲間たちとのヨーロッパアルプスで

いのコースがざらにあることとか、何故かいつまでも心に残布を貸してくれる事、また滑降コースが長く一本五キロくらそのころの映画の話、長い時間リフトに乗り続けるので毛

っていた事象がその通りだったりして、まさに幸せにどっぷっ

り浸った至福の時期でした。

ます。それが平成元年の事でした。

さいた真さんが行かれた頃とは比較にならない、らくます。その昔、槙有恒さんが行かれた頃とは比較にならない、らくます。その昔、槙有恒さんが行かれた頃とは比較にならない、らく

たのも平成の記憶です。の記念ツアーで再び同じ地を踏む機会があり感動を新たにしてれから二○年を経て、平成二○年宮城支部創設五○周年

実感して、本稿を終えることにします。平成は楽しかった!!なく、素晴らしい思い出イッパイの歴史だったことを改めてこう考えると、書き出しの平成はマイナスなイメージでは

# 北アルプス・雲ノ平、高天ヶ原

#### 草野 洋一

途中、サービスエリアで車中泊した。という、立山から太郎平〜黒部五郎岳〜三俣蓮華岳〜双六岳〜笠ケ岳〜槍見温泉〜焼岳〜上高地のコースを縦走した。その計画が二〇一一年九月に実現した。高速道路を東北道〜磐の計画が二〇一一年九月に実現した。高速道路を東北道〜磐にはいって北アルプス最深部の雲ノ平へ行こうと思った。その計画が二〇一年九月に実現した。高速道路を東北道〜磐の計画が二〇一年九月に実現した。高速道路を東北道〜磐の計画が二〇一年九月に実現した。

折立の駐車場に車を入れて七時半に出発。太郎平には太郎平小屋があり、薬師岳や黒部五郎からのルートで一休みするのにちょうどよい休憩地となっている。太郎平から黒部川へでいいほどの水量だ。合流する出合に建っているのが薬が目的の登山者もいた。三○センチほどのイワナを見せてもが目的の登山者もいた。三○センチほどのイワナを見せてもが目的の登山者もいた。三○センチほどのイワナを見せてもが目的の登山者もいた。三○センチほどのイワナを見せてもが目的の登山者もいた。三○センチほどのイワナを見せてもが目的の登山者もいた。三○センチほどのイワナを見せてもがにある。太郎平には太郎をいる。

薬師沢小屋から雲ノ平山荘へ。雲ノ平はガイドブックの通

り日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のような広大な丘陵地。周辺の山並みを見ながらり日本庭園のよりには、いつ出てきてもおかしくない状況である。

蓮華岳、 トにいれてあるけど実現していない。 とにした。 れに。 強雨の中を折立に下山した。 流沿いにルートをとり、 だが天気は連日雨の予報なのであきらめて下山することにし ていたが甘かった。予定ではこのあと水晶岳、鷲羽岳、三俣 € √ た。雨中で景色が見えない中を歩きたくなかった。黒部川本 たのでそこへ行く。 翌日は朝から雨。 ということで不満足な山行となり、 下山時に登山者からゲート近くに温泉旅館があると聞 黒部五郎岳を周回して太郎平へ戻るつもりだった。 お風呂にはいって生き返った。 予報通り台風が接近中だが、まだ先とみ 部屋が空いているとのことで泊まるこ 薬師沢小屋を通って太郎平へ出る。 駐車場についた時は全身ずぶぬ 再度挑戦したいリス ビールがうまかっ

たためだ。ETCゲートを利用する車はみられなかった。

渋滞していた。高速道が無料になる罹災証明書を使用してい 仙台宮城のインタチェンジでは一般車ゲートが一キロ以上

### 山は素晴しい!!

眞味子

### " 百名山初めての山 燧ヶ岳:

後ろから追い抜いて行く登山者から聞いて、この道は燧ヶ岳 花を目当てにした二泊三日の小旅行だったと思う。一日目は の頂に向かう道であることを知った。其のときは、この山が 七○歳前後のご夫婦が仲良く歩いている。途中でご夫婦が右 沼山峠から大江湿原に出て尾瀬沼を散策する。雷鳴が轟く中、 就職したての頃に職場の人達と栗駒山に登って以来の山が燧 くところが何処かも知らずに、ご夫婦の後を只々追いかけた。 を付いて行く。此れが間違いの元であった。この道の行き着 尾瀬沼を周遊する。 夫婦で尾瀬を訪れた。ニッコウキスゲなどの尾瀬湿原に咲く ヶ岳だった。登った動機が呆れ果てる。お盆休みを利用して に歩みを進めた。何気なく、私達も右に歩を進めご夫婦の後 泊。二日目、山荘を六時頃に出発し尾瀬ヶ原へと向かう。 もう二五年ほど前になるだろうか。燧ヶ岳に登ったのは。 大江湿原の木道を横切りオオシラビソの森へと進む。前を 予約しておいた尾瀬沼の畔に建つ山荘に



平山荘を望む



完全天然露天風呂で至福の筆者

りに登った山が東北一の山とは、無謀にも程がある。東北一の山であることは知らなかった。栗駒山以来、久しぶ

出来事だった。 くれた。本当に申し訳ないと思った。忘れられない頂上でのてかわいそうに思ったのかペットボトルの貴重な水を分けてがわいそうに思ったのかペットボトルの貴重な水を分けてがループの皆が怪訝な顔をした。しかし、私達の様子を見

婦の山登りは此れが始まりであった。 は、は、は、いっちの素晴しさ。疲れを癒してくれる路傍の花々。そんがノラマの素晴しさ。疲れを癒してくれる路傍の花々。そんなさ。山を愛する者の心の広さ・優しさを実感。頂上での大きさ。山を愛する者の心の広さ・優しさを実感。頂上での大きないのかながら急坂をやっとの思いで登ったときの達成感がありまっとした段差にも足が上がらず主人にお尻を押

### 思い出を胸に:

む。 をとり浅湖湿原から長英新道を燧ヶ岳山頂へと向かう。 湿原だ。 目目 てハイマツが現れる。 シラビソの大木が鬱蒼と林立する森を縫うように登山道を進 辺に建つ長蔵小屋の手前のベンチで朝食を取る。民宿で用意 湿原でもある。 は緩やかな下りだ。 の山頂付近から顔を出し始めた朝日を車窓から拝む。 所までシャトルバスで移動する。 岳登山の玄関口である御池に車を駐車。 ンが疲れを癒してくれる。 してくれたお握りを頬張る。 トする。 天気は申し分ない。バスを降りてすぐ沼山峠休憩所をスター んで、民宿に泊まる。二日目、 `る裸地化したミノブ岳に出る。 思い出の地"尾瀬" 勾配がきつくなると次第にダケカンバの林になり、 登って見たいと思っていた田代山と帝釈山の頂きを踏 四季折々、 沼山峠までの緩やかな登りを過ぎると大江湿原まで 大江湿原の木道を尾瀬沼へと向かう。 色んな変化に富んだ風景を見せてくれる 大江湿原は尾瀬沼の周囲では最も大きな ハイマツの枝に摑まり急勾配を登りつ を再び訪れたのは一〇年ほど前。 此処からは尾瀬沼・尾瀬ヶ原、 腹ごしらえしたところで右に道 日の出前に行動を起こす。燧ケ 途中、 石を積み上げた大きなケル 此処から沼山峠休憩 昨日登った、 沼の岸 帝釈山 今日も そ

来きた。千載一遇の好機に遭遇できた感じだ。とが出望できる。なんとこの日は富士山も視界に捕らえることが出飯豊連峰そして吾妻連峰まで東北・関東を代表する山々が一後の岩場を越えると頂上に着く。頂上からは三六〇度のパノ後の岩場を越えると頂上に着く。頂上からは三六〇度のパノは一分に登仏山を南の方向に望める。ミノブ岳から双耳峰の一つして至仏山を南の方向に望める。ミノブ岳から双耳峰の一つ

を切らしながらに手を振ってくれていた。 直接向かうコースを選んだ。北斜面の急勾配を慎重に降りる。 がよりながら慎重に登ってくる。ガレ場を過ぎると熊沢田 だある。一歩一歩確実に歩みを進める。すれ違う登山者も息 がし場で足場も悪く危険極まりない。挙句の果てに残雪がま がと御池の駐車場へと出る。振り返れば緑に被い包まれた燧 な木道を下る。広沢田代・御池田代を通り過ぎ岩隗の間を進 な木道を下る。広沢田代・御池田代を通り過ぎ岩隗の間を進 な木道を下る。広沢田代・御池田代を通り過ぎ岩隗の間を進 な木道を下る。広沢田代・御池田代を通り過ぎ岩隗の間を進 な木道を下る。広沢田代・御池田代を通り過ぎ岩隗の間を進 な木道を下る。広沢田代・御池の急勾配を慎重に降りる。

### 百名山最後の山

いで二人一緒に登り切ったその達成感。そして満足感。山の「主人に荷物まで背負ってもらい、力を合わせてやっとの思

代えがたい夫婦二人の共通の宝物を得た気がした。

これから

過ごした。体調が回復しないまま次の日水晶小屋に向かう。 した。 幸せなことかもしれない。 登山だった。 持つ幾つもの魅力を教えてくれたのが燧ヶ岳 真を撮る。 を経由して野口五郎小屋に泊まった。悪天候の為、 倉山荘に宿泊し、 えてくれていることは間違いがない。二人でコツコツ歩いた まった気がする。 子供が作ってくれた「百名山達成」の贈り物を掲げて記念写 に、深田久弥の「日本百名山」全山の頂を踏むことが出来た。 反して岩がごろつく狭い山頂に着いたのは十二時三五分。遂 主人が一人で登った経緯あり)を往復する。愈々、最後の山 此処から私がまだ登っていなかった鷲羽岳(私が体調を崩し 八番目の山、 した。 最後の山水晶岳(黒岳) には裏銀座コースで登った。 九 い。二人で登るとどちらかが不調の時もしばしばあった。 「日本百名山」も水晶岳を最後に平成二六年九月六日に完登 「水晶岳=黒岳」だ。岩場をクネクネと登って行く。予想に 〈帰仙後胆管炎が判明入院治療〉な山登りだったかもしれな 長い月日と経費を要した百名山の山旅だったが、 主人は体調がすこぶる悪いらしく食事も摂らずに一日 思えば、最後の山も体調的には主人にとって無謀 塩見岳を登り、 振り返れば私達の「夫婦登山」はこの日から始 高瀬ダムからブナ立尾根を登り烏帽子小屋 今も「夫婦登山」を続けていられることは 山が私達の生活に潤いと活力を与 残る二座を登るために大町の七 の思い出に残る 一日滞留 何物にも

山の魅力を味わい続けて行きたいものだ。夫婦二人で。も山に畏敬の念を持ちつつ、足が前に進む限り山に躰を運び



# この一○年 私の思い出の山

#### 鳥田 笑羊

ご準備いただきました皆様に感謝いたします。一○年一昔取り行っていただき、楽しく参加させていただきました。昨年一○月、宮城支部設立六○周年記念の行事を盛大に

できました。支部設立五○周年記念の屋久島、そして翌年のスイス・アルプストレッキング。山の会でなければ、マッターホルンのヘルンリ小屋まで登ることもなく、観光旅で済ませたでしょう。
「「いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いますが、平成が終わる今、おおよそふた昔前に思いと言いますが、平成が終わる今、おおよそふた書前に思いた。

思い出は、夏の剣岳です。
も山の思い出はいろいろありますが、私にとっての一番ので歩いてきたことに忘れられない感動を覚えました。他に鳥海山も下山後に山頂を見上げた時には、自分の二本の足外田の太平山も山の深さを感じ、思い出に残りました。

っての最高の夜となりました。夕方のオレンジ色の空、そ さり剣御前小屋泊となりました。その剣御前小屋が私にと私のために太田正さんと中條俊一さんとが付き添ってくだ私のために太田正さんと中條俊一さんとが付き添ってくだ睡眠不足が続き体調を整える間も無いままに無理を承知

ングも思い出の多い旅になりますことを今から楽しみにしちなみに、六〇周年記念のチロル・アルプスのトレッキ

ております。

# この一○年 私の山との付き合い

降の一○年間は、私にとって山との付き合いが大きく変わっ日本山岳会宮城支部が設立五○周年を迎えた二○○八年以

この一○年のうちの最初の三年ほどは、これまでの人生の

た時期でした。

中でいちばん仕事に追われた期間であったように思います。 その一〇年以上前から日本山岳会の会員になっていたものの、 その一〇年以上前から日本山岳会の会員になっていたものの、 宮城支部の山行に参加できたのは年に一回あるかないかとい 宮城支部の山行に参加できたのは年に一回あるかないかとい った状況でした。そのようなことで、体力的にも気力的にも 山登りは難しいと感じるような、ある意味での悪循環に陥っ ていた時期でもあったように思います。

八年前に大きな震災がありこの震災に関わる仕事が加わりましたが、一方では職場の組織運営の仕事からようやく解放ましたが、一方では職場の組織運営の仕事からようやく解放ましたが、一方では職場の組織運営の仕事からようやく解放ましたが、一方では職場の組織運営の仕事が出てきました。ようということにしました。ともかく富士山に登っていないと思い、ともかく富士山に一度登ってみようということにしました。

したが、以前日本に来た時に一度富士山に登ったことがあっ究員として留学していた研究室の教授は生粋のアメリカ人で会れには一つ理由があります。かつてアメリカの大学に研

日本人」になろうと決心したのでした。日本人」になろうと決心したのでした。と自慢していました。これにはいつも悔しい思いをさせ士山に登ったことがある私(その教授)こそ、本当の日本人に、「富士山に登ったことのない日本人は本当の日本人ではなて、「富士山に登ったことのない日本人は本当の日本人ではな

登りに対する自信が持てたように思います。 本統治時代には「新高山」と呼ばれていました。)に登る機会がありました。富士山にも登ったことがないのにそれよりもがありました。富士山にも登ったことがないのにそれよりもしかし、その玉山になんとか登頂することがないのにそれよりもしかし、その玉山になんとか登頂することがないのにそれよりもしかし、その玉山になんとか登頂することがないのにそれよりもがありました。)に登る機会というでは、とあることで台湾の玉山(かつての日

時も素晴らしい天候に恵まれ、最高の御来光だけではなく雲てその後富士山に登ることができ、頂上で御来光を見たときた時間でした。その後、玉山登山に誘ってくれた台湾の友人た瞬間でした。そしてそれが私が「本当の日本人」になれた場間でした。そしてそれが私が「本当の日本人」になれたりにその自信のおかげもあっ

海に浮かぶ影富士まで見ることができ、再び感動しました。海に浮かぶ影富士まで見ることができ、再び感動しました。この先生は現在の私の研究の土台を作ってくれた本当の恩師ですので、このような悪口を言うとバチが当たることは間違いないのですが。ただ、その時初めて富士山に登った台湾の友人たちは真に感激していました。今でも台湾に行くとスマホに保存してあるその時の写真を周りの台湾人に見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のに見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のは見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のは見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のは見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のは見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のは見せびらかせては、「他の皆も富士山に登らなければ一生のは見せています。

きました。 たのかと、 登山への参加など、ああ登山ということはこういうことだっ した。 のいくつかの山に親しむことができました。また、支部公益 台カゴ、 うになりました。まずは宮城県内や近隣県の山から始め、 定年退職し、 行事である登山教室と親子登山教室の実施にも関わってきま さて、この一○年間の後半です。三年ほど前に常勤の職 そして、 雁戸山、 特に印象深かったのは、 山に登る意味を知る機会をいくつか得ることがで ようやく山岳会の会員らしい山登りができるよ 支部共益行事の日本アルプスなどの夏山遠征 仙台神室、栗駒山、 立山連峰の縦走でした。 船形山、 葉山、 月山など 仙

した。 宙やその外にある大宇宙に包まれて、そして途方もない宇宙 絶妙なコントラストの中を、富士ノ折立から別山へと続く長 ない青い空と深緑のハイマツ群落そしてむき出しの山肌との それは最高の天候に恵まれた所為でもありました。雲ひとつ いなく存在する生命体が自分なのだと実感させられる体験で の大きさに比べると本当に小さな小さな、しかしながら間違 の「一の越」の山小屋で満天の星空を見たことは、 て、その縦走の前日に、浄土山から下りてきて泊まった立山 い尾根伝いに進んだ爽快感は忘れることができません。 銀河系宇 そし

ているのですが、どうすればそれが可能かを現在模索中です。 ぞれ一○歳を超えた頃になったなら一緒に富士山に登りたい 足腰と心肺能力の衰えをできるだけ小さくしなければと考え 手伝いができたならいいなと思うからです。それまで自分の と思っています。今度はその孫達を「本当の日本人」にする の娘にそれぞれ男の子が生まれ、上の孫は今年小学校に入学 こぼれ山岳会会員のままでいます。それでも、結婚した二人 言っても、まだまだ一人ではまともな山歩きもできない落ち し、下の孫は昨年生まれたばかりですが、その子たちがそれ 以上が、概ねこの一○年の私の山との付き合いです。とは

> うまい方法があるものなのか。誰かその術を知っている人が 冬の季節を除く月一回程度の山行でそれが可能なのか、 るならば是非教えていただけないものかと思っています。 他に

61

#### 槇 有恒と仙台 (訂正版)

#### 千葉 正道

年であり、その足跡をたどってみた。 してマナスル(八一六三m)に初登頂して六○周年の記念の 二〇一六年は、仙台市出身の槇有恒さんが日本隊の隊長と

ヨーロッパで過ごす。最初は兄智雄のいたロンドンに行き、 会を結成している。一九一七年、慶應義塾大学法学部を卒業 城県師範学校付属小学校、仙台第二中学校(現、宮城県仙台 Ļ する。一九一四年に日本山岳会に入会し、翌年慶應義塾山岳 第二高等学校)を経て一九一一年、慶應義塾大学予科に進学 槇有恒さんは、一八九四年(明治二七年)仙台市生まれ、宮 米国コロンビア大学に留学する。一九一九年から二年間

台市名誉市民に推戴され、文化功労者にも選ばれた。 ウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスもあり、スイス、グリンデルバウェエストン師のアドバイスも思いた。

うに述べている。(植さんは、仙台とのつながりについて、彼の著書で次のよ)

そのころは家もまばらに、 鼻の間であった。 独り残って、附属小学校から第二中学校へと進んだ。 なった。兄は脚気を患ったため間もなく両親の許に帰り、 親の考えから、兄と私は仙台の叔父の家に預けられることに の小川にはフナもいたし、 (原文のまま)。 学校を余り転々するのはよくないとの両 仙台市の西北隅の山に近い場末にあって、学校も目と 近所の寺の森には狐がいて、 今は道も舗装された住宅街に変わったが、 畑や林の多い土地であった。 道の両側は春には野バラの花盛 冬の夜などにはよ 叔父の 家の 私

> 美しい所でした。 鳥のうた、 した、 ないが、林あり、川あり、原ありと変化に富み、その奥は次第 場は仙台の西と北に連なる丘陵地帯で、 然にめぐまれた都市でした。 れた仙台は、有名な詩人、土井晩翠先生の詩そのままの、 大な自然の遊び場は今から思えば贅沢なものであった。 に山が大きくなって奥羽山脈にまで続く山波である。 か台ノ原とかいわれ、 くその声を聞いた。 そのころの仙台は、 仲間との遊び場は自然に近くの野山であった。この遊び 木が多く、 秋の夕べの虫の声など、春夏秋冬、いつも自然の 美しい広瀬川が流れ、 私の日常は町の繁華なところとは縁もな 標高二○○メートル前後のものに過ぎ 森の都といわれ、大変美しい都会で 森や林も、 あたりを山にかこま そのときどきの、 北山とか伊勢堂山 この広 自

新で第二中学校の校歌にも歌われている。 ずの山ではあるが、 じに立って仙台平野を見おろしている。 見える。 った。 レクリエーションの山となって青少年の登山やスキーで賑わ この山は仙台の西北方にそびえる市内のどこからでも 仙台での山歩きの思い出に残る一つは泉ヶ岳登山 奥羽山脈、 おおらかな裾を引いて立つ姿はいつも清 船形山から東南に派生した山脈の一番は 標高一二〇〇m 今日では、 仙台の 足ら 「であ

なかった。"っているが、その頃は登る人もなく、また登ってみて路さえ

先生を中心に、私たち三、四人の友人が集まって山岳会をつ 学に学びました。ここにおられた鹿子木員信先生は、 に入会しました。 子木先生に教えこまれたものです。やがて、 も、・まいった!;といわないこの山岳会の強い精神も、 プスに隊をくんでのぼったものでした。どんなことがあって 日本および日本人。という雑誌に発表された人です。 るいてこられ、そのときのことを,アルペン行,と題して, エナ大学に留学された人ですが、スイスのアルプスの山をあ てられたのです。 ってわすれられない先生でした。 "とにかく、 熱心に山について語りあったり、夏休みには日本アル Ш 中学校をおわった私は、 にいくたのしみを、 鹿子木先生は、ドイツのイ 私は仙台でしっかり育 東京の慶應義塾大 私は日本山岳会 私にと 鹿子木 鹿

登山を楽しんでいます。

査研究により最近判明した。会の東隣りだということが、宮城支部の三宅会員の長年の調会の東隣りだということが、宮城支部の三宅会員の長年の調値さんの生誕地は、仙台市北七番丁(現 柏木)で現在は教

立記念日に、マナスル初登頂の記録映画(マナスルに立つ)筆者は中学時代から山に親しんでいるが、高校のときの創

の山にも足をのばし、ヒマラヤ、アルプスのトレッキング、城支部に入会しました。六○歳ころから、仕事の合間に海外見つけて登山を楽しんでいました。少し余裕のできた五○歳ます。高校時代に泉ヶ岳、蔵王に登っているがその後も暇をを鑑賞し、山頂で隊員が日の丸を振っていたことを憶えてい

無事帰還した時の写真が掲げられていました。

「○一四年七月、古稀記念登山のためスイス、グリンデルバルトの博物館に行きましたが、若き日のの際、グリンデルバルトの博物館に行きましたが、若き日のの際、グリンデルバルトの博物館に行きましたが、若き日のの際、グリンデルがルトに滞在し、山岳ガイドのサポートでメンヒに登頂しまが、カーのでの写真が掲げられていました。

関、巌流島を望む風光明媚な場所でした。昭和三二年一○月、唯一あるということで、二○一五年五月学会の帰りに寄るこ唯一あるということで、二○一五年五月学会の帰りに寄るこ権していた日本山岳会北九州支援が、北九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が、大九州市に記念碑が

に登り墨跡を残されました。 慎さんがマナスル登山の報告会のため九州に来た際、この山

槇有恒"を知りし、山人たちの、力によるものなり、昭和三二年十月を知りし、山人たちの、力によるものなり、昭和三二年十月、"この頂きに立つ、幸福の輝きは、これをとらふる、術

台に顕彰碑建立すべく模索しているところです。らに並んでいました。宮城支部も遅ればせながら、生地の仙この歌碑があり、更に平成二六年に建立された略歴碑も傍



北九州市の槇有恒の記念碑と略歴碑



ベルナーオーバーラントの三山(左から アイガー、メンヒ、ユングフラウ)

#### 考文献

三宅 槇 千葉正道著 山森欣一著 有恒著 有恒著 泰著 大登山家への小さな旅 グリンデルバルトと槇有恒 顕彰碑にみる人物登山史 ピッケルの思い出 わたしの山旅 たずねてー (私信) (岩波新書) (学習研究社) ―槇有恒の生誕地を (日本山岳文化学会) (仙台市医師会報)



若き日の槇 有恒 (左から2番目)

# 熊野古道を行く ~伊勢路と峠越え~

#### 和衛

が熊野三山へと続いている。その一つ、伊勢路を四月下旬に 路・伊勢路・大辺路・中辺路・小辺路・大峰奥駆道の六つの道 いる。 は伊勢神宮内宮、終点は熊野三山の一つ熊野速玉大社。 山地の霊場と参詣道」と言うそうだ。この参詣道、実は、 熊野三山へと通じる参詣道の総称。熊野参詣道ともよばれて で十二番目に登録された世界遺産。正しい 登録名は、 ○日程かけて歩いて見た。全長約一七○㎞の道程だ。 熊野古道」・・響きの良いネーミングだ。熊野古道は、 「熊野古道」は二〇〇四年 (平成十六) 七月七日、 起点 日本

めて三日目になり最初に現れるのが、 の峠には往時の石畳が多く残る趣のある路でもある。 ったが天候悪化のため中止し宿へと車で直行する。 二〇m程の「女鬼峠」。足慣らしには良い切通の峠だ。 伊勢路は難所の峠越えが幾つもある事で知られている。そ 一日目は、 標高約三二〇mの三瀬坂峠を通り過ごす予定だ 荷車の轍が残る標高一 歩き始

地でもある。

五mの馬越峠。

距離的には一・六㎞程度の峠だ。今日三つ目の峠は標高三二

距離は二・二㎞程だ。種蒔き権兵衛ゆかりの

六日目、標高一一三m、距離にして一・八㎞の三浦峠を越え 続いて伊勢路でも景勝の地として知られる始神峠越え。

る。

えて一日が終わる。

い石畳や積石が今に残る。

紀伊長島の街を過ぎ、一石峠を越

高三五七mの峠道は、地元の人達によって掘り起こされた古

次の峠が約一・六㎞の伊勢と紀州の国境でもあっ 名前の由来は九十九折の急坂からだとか。

たツヅラト峠。 五日目、



女鬼峠の切通



き、将に、世界遺産に相応しい古道だ。
・一の八鬼山越だ。海岸部から始まる峠道は「石畳の道」が続いる。上曲りを始めとする急登が連続する峠だ。往時の「行いを出して、・三の八鬼山越だ。海岸部から始まる峠道は距離にして六・三七日目は、熊野古道伊勢路最大の難所とされる標高六四七



鎌倉時代の石畳古道



二木島峠の石積階段

った。この日は、更に、三木峠、羽後峠、曽根次郎坂太郎坂を考慮せずに距離だけで時間を計算してしまったのがいけなか時間以上もオーバーしてしまった。尤も、計画自体が標高をこの山越えには苦労した。足が上がらず計画した時間を一

坂太郎坂の間に宿を取るのが賢明のようだった。で時間を潰す結果になった。この区間は、羽後峠と曽根次郎先までの移動手段を考慮して、電車を利用することにし駅舎越える計画を立てていたが、頓挫してしまった。結局、宿泊

敷石の大きさに特徴がある。

・は熊野古道で最も古風な鎌倉時代の石敷道が約八○m続く。山とは雲泥の差だ。続いて現れるのが、波田須の道。この道・・問はなだらかな山道だ。距離も三・○㎞程で、昨日の八鬼八日目、先ずは、連続する二木島峠と逢神坂峠を越える。

松本峠。距離は〇・七㎞と至って短い。林が続く楽ちんな山道だ。伊勢路最後の峠が標高一三五mの液田須の道の一部に大吹峠がある。一・四㎞程の峠道で竹

べものにならない程、伊勢路は厳しく感じた。ながら計画のミスや天候の影響もあり越えることは叶わなかながら計画のミスや天候の影響もあり越えることは叶わなか熊野古道伊勢路には、十五の峠があった。うち、四峠は残念

の道として歩いた伊勢路が代表的だ。辺路含む)と東国の庶民がお伊勢参りと併せて熊野詣で巡礼熊野に入る道は、京都の上皇や皇后が行幸した紀伊路(中

平安時代の「梁塵秘抄」の一首に次の歌がある。

大慈悲の道なれば、紀路も伊勢路も遠からず》《熊野に参るには、紀路と伊勢路のどれ近し、どれ遠し、広

の小辺路だ。私には、「何れの道も甚だ遠き道」だった。次は高野山から

支部友会会員 鳥田 伊志この十年の思い出の山と出来事

かありませんでした。その為 山の行程・山の名前・ 頃の運動不足を補うための有酸素運動のつもりでしただ誘われれば、ついていくだけの自分でした。日 ただ誘われれば、ついていくだけの自分でした。日 ただ誘われれば、ついていくだけの自分でした。日 ただ誘われれば、ついていくだけの自分でした。日 ただ誘われれば、ついていくだけの自分でした。 りができたことについて、山の仲間たちに感謝する りができたことについて、山の仲間たちに感謝する

> 山野草の名前など聞いてもすぐに忘れてしまいます。 今は一年前に仕事を退職し、毎日が日曜日ではありませんが、多少余裕が出て来てきましたので、社会に で、趣味が多いのですが、これといった得意なもの で、趣味が多いのですが、これといった得意なもの はありません。所属している会も多く、役員はすべ はありません。所属している会も多く、役員はすべ はありません。所属している会も多く、役員はすべ はありますのことができるのです。人の利己的な遺 に子なのでしょうか。

を再認識したものです。
との変わりように恐ろしさを知り、山は甘くないことい中、汗をだらだらかきながら、避難小屋までたどい中、汗をだらだらかきながら、避難小屋までたどい中、汗をだらだらかきながら、避難小屋までたどの変わりように恐ろしさを知り、出ま山です。七月の暑かりように恐ろしさを知り、出ました。

山ですが、ふもとからの登山です。その日の午後に腹までで上り、そこからの登山ですが、この山は低初めて道に迷い遭難しそうになった山です。山は中初めて道に迷い遭難しそうになった山です。山は中

低い山と侮り、 ハイキング気分で登ってしまいました。 家内と軽装備で水も食料も持たず、

ない道を降りてしまいました。何とかなるだろうと、 上を目指すことを決断いたしました。元居た頂上に 道に迷ったのですから、まだ明るい内にもう一度頂 このまま下りれば、何とかなるかもしれませんが、 けもの道を下りましたが、登山道が見つかりません。 上から降りるときに、どこで間違えたか、来た道で ついて初めて下山道を間違えたことに気が付きまし おもむろに頂上に着くと祠があり、 海外登山では、日本山岳会の五○周年の時にスイ 低い山でも決して甘いものではありません。 ようやく下山した時には、日が暮れかかってお 日の暮れぬうちと、下山を目指しましたが、 山の景色を眺 頂

> 世話になりました同行者の皆様並びに段取りして頂 いた関係者に感謝申し上げます。

管理は、 こと。 来事があります。 らせ示すこと。 員・他の参加者に責を負わないこと。 任において全て処理するものとし、会及び幹事・会 までが登山です。いろいろなリスクがあります。 山岳協会共済会の保険または同等の保険に加入する 行の行事に参加して、 また、 最後に堅苦しい話になりますが、 が生じた場合には当該事故に関し、各個人の責 また車提供者は安全運転に努め、 個人の責任において負うことを家族にも知 山行等の行事に参加するものは、 ゲスト参加者も含む事と考えます。 山登りは家を出てから、 万が一事故等 不快な事故の出 (交通事故も含 全てのリスク 搭乗者保険 各自日本 家に帰る 山

の加入を確認すべき事と考えます。

との交流できましたことなど楽しい思い出です。お

い会食ができましたこと。

中華民国山岳協会の皆様

年台湾の玉山に初登頂致しましたこと。皆様と楽し

の頂上手前のヘルンリ小屋まで登ったこと。

高山病にも罹らず、好天にめぐまれマッターホルン ス・トレッキングに同行させて頂き、心配していた

### 槍ヶ岳の思い出

### 支部友会会員 津田 久美子

と三人で山行しました。と思っていた槍ヶ岳に村上せつ子さんの案内で川嶋郁子さんと思っていた槍ヶ岳に村上せつ子さんの案内で川嶋郁子さん二○一五年八月一日~五日の日程で、一度は行って見たい

て本格的登山です。天気は雲ひとつ無い晴天。う詰めの槍沢ロッジ泊、八月三日、いよいよ槍ヶ岳をめざし八月一日、仙台を出発して明神館泊、八月二日、ぎゅうぎゅ

日のうちに山頂まで登ろうという事になりました。やっと十三時過ぎ槍ヶ岳山荘に到着。明日の下山を考えて今ります。槍ヶ岳が見えてから結構長い時間かかりましたが、ンポウゲ・イワギキョウ等たくさんの花々を楽しみながら登

る北アルプスは何処?
みたら何も見えません。なんと雲の中。あの三六○度見渡せばい?やっとの思いで頂上到達!やったー!と周りの山々をして梯子を登っている頃遠くで雷?の音。いや気のせい?やも登りの中間位まで登った頃、急に雲が出てきました。そ

四、五歩あるくとパチパチという音が聞こえるような気が

を降りるはめになってしまいました。といさな火花が?「これ火花じゃない?」と話していると、ら小さな火花が?「これ火花じゃない?」と話していると、ら小さな火花が?「これ火花じゃない?」と話していると、んですか?と聞いたりしているうち足元を見ると私の足元かんですか?と聞いたりしているうち足元を見ると私の足元か

たと慰め合った槍ヶ岳登山でした。ただけでも良かった。雷に打たれず無事に下山できて良かっただけでも良かった。雷に打たれず無事に下山できて良かっ奥穂高に続いて何も見えなかった槍ヶ岳山頂。まあ、登れ

帰仙してから写真をみるとみんなの髪が逆立っていました。



直ぐ側でお湯を沸かしている男性にパチパチってな

# 支部友会会員 川嶋 郁l山ガール日記 –雑談編–

山行きをどうしようと話をする。 女三人、姦しく 食べつ、飲みつ、喋りつ・・・今年の

・白馬に行きたいけど無理かなー。あの景色、二人に見せ

たいなー。

して白馬・・と。 蕃山、・・、六月 栗駒、七月 早池峰、八月 月山 そ・とりあえず白馬に標準を合わせて、三月 鹿狼山、四月

は毎日蕃山ね!とにかく訓練をしておかないと登れないよ。川嶋ちゃん

かしちゃう。「手巻姫のお花畑へいざ行かむ」・・でもね・でもネー。三月に入ったら少しずつ。なんて自分を甘や・ウヘーッ、毎日なんてムリ、ムリ。なんぼ目の前が蕃山

女三人、いつも会えばこうした話になる。

やっぱり無理かなー!

立山にしよっか。

っている木がいくつか見られること。海まで見えて気持ちいい。残念なのは楢枯れや松枯れにな咲かない。裸木なので太白山も、落合の街並みも、遠くの三月の蕃山に行ってみる。イワウチワもマンサクもまだ

「春風の「髪を撫でゆき「尾根の道」

かに蘇りゆく姿を見守りたいなー。蕃山・・、毎日は無理でも週一くらいは行って、また健や

### 追悼編

# **-忘れえぬ山の仲間**

## 佐々木郁男さんの海外登山

#### 柴崎 徹

ていたからである。 酒の席で、「柴ちゃんなあ、 日、享年七九歳であった。郁男さんの告別式で私は弔辞を読ませていただいた。というのも、晩年よく音楽会に誘われたあとの 佐々木郁男さんが亡くなられて今年で七年になる。ご命日は奇しくも三月一一日、東日本大震災からちょうど一年目に当たる 俺に何かあった時は、あんだ何か喋ってけんだっちゃなあ」といわれ、 いつの間にか約束させられ

のだろうが、この当時の海外登山では、メンバーの中に日本山岳会会員が含まれることが何かと役に立ったのである。板橋さん 県からの最初の海外登山、一九六六年のヒンズークシュのコー・イ・バンダコール、六八四三mに結実していく。コー・イ・バ この頃厳冬期の蔵王全山縦走や日高山脈の縦走など、当時としてはかなり先駆的な登山を成功させていたが、それがやがて宮城 拝見したりしていたので、 た。この前年の一九六五年一一月、 が昨年二月、 頂して以来、 ンダコールは、アフガニスタンが解禁したヒンズークシュの数少ない地域のひとつにある主峰で、一九六〇年に西独逸隊が初登 郁男さんは私より七つほど先輩であったが、私が高校山岳部の頃、土樋の東北学院大学の山岳部室に何度かお邪魔して資料を 沢山の登山隊が集中した山だが、東北学院隊は日本隊としては初めての登頂を果たすことになった。この隊の隊長 九二歳の天寿を全うされて亡くなられた板橋元一さんで、 厳冬期の日高山脈縦走など郁男さんの活躍ぶりはすでによく知っていた。東北学院大学の山岳部は、 お二人は揃って日本山岳会に入会された。もちろん会員になるのは本人の強い希望であった 副隊長がまだ若いOBであった佐々木郁男さんであっ

が会員番号六○一八、郁男さんが六○一五であった。

この山の選定には私も携わったが、 拱山登山であろう。羊拱山(五二七三m)は四川省黒水河の上流、三打古河の源頭山域の最高峰であるとともに未踏峰であった。 佐々木郁男さんが文字通りリーダーとなって推進した海外登山は、 確か二〇座を越す候補山岳の中から絞り込まれた山であった。 何といっても一九九一年の日本山岳会宮城支部による羊

早苗さんもその実年であった。そして、隊員の年齢構成が少々高くとも、どんな地域のどんな山を選ぶのか、 どのような山登りをするのかによって、 「実年登山隊未踏峰に登頂」と書かれたほどで、 この登山は、一○名の隊員中、中里政信さんと佐々木豊喜さん以外は五○歳以上というメンバーで行われた。 未踏の山に登れることを証明した点で画期的であった。 山頂に立った中里さん外の西郡光昭さん、遠藤昭治さん、庄司駒男さん、千田 高所順応も含めて 当時の新聞にも

海外登山が一覧表になって展示紹介されたが、その中に「宮城支部―中国四川省羊拱山初登頂 情勢から振り返ると、まさに時と人とに恵まれた登山だったと言える。二○一八年の年次晩餐会では、これまでの各支部による 学留学中、ずっと高砂の佐々木家の知遇を受け、学位を取得して清華大学に戻られた方で、のちに私も九疑山に特別の許可をい ただいて赴いたとき、大いにお世話になった。羊拱山はチベット圏(阿埧蔵族自治州)にあって、入山が制限されている今日の この時、 宮城支部を代表する登山であったことを改めて知らされたのであった。 中国側スタッフの通訳兼リエゾンとして終始活躍していただいたのが清華大学の張尭学さんである。張さんは東北大 (佐々木郁男隊長)―」を見い出

霊を傾けて取り組んだのがその後の七回にわたるネパールヒマラヤ行であった。 きたのっしゃ」とおっしゃっていた、 その後しばらく海外登山から遠ざかっていた郁男さんが再び猛然と登り出すのは、ご自身が「三途の川の畔まで行って帰って 胆石の手術後の還暦を過ぎた時期のことであった。 病後の身に鞭打つかのごとく、全身全

- 一九九五年ポスト ランタンヒマール 四名
- 一九九七年プレ トロンパス(五四一二m)一九九六年プレ クーンブヒマール 四名

2

3

4 一九九八年プレ カンラピーク(五三二二m)及びマルシャンディ

三名

五名

5 一九九九年ポスト パルチャモ(五○三○m) 三名

6 二○○○年ポスト カリガンダキ 二名

7 二〇〇三年プレ ミルケダンダ 五名

そのほか数名の気心の知れた方たちであった。これらの山行の都度、郁男さんは「余命いくばくもないわが命にとっては、ある は裏腹に、 いはこれが死出の旅路になるのではないかとの、 これらのヒマラヤ行は、 郁男さんには登山家としての若い血潮がほとんど衰えることなくみなぎっていたように思う。 いずれも三週間前後、 大げさな不安が束の間よぎることもありました」と書いているが、体の状態と パーティを組んだのは熊谷正志さん、佐々木あさ子さん、相沢長松さんなど、

終わっていくだけなのだ」と書いている。 ないか」と述べ、さらに続けて、「人はみな、喜怒哀楽に包まれた苦という重い荷を背中にし、そしてただ黙して寂漠を抱いて 行動と思考の場だったのだと思う。 しずめる。しかしカンチェンジュンガはいまだその片鱗さえも見えない。愚痴るまい、こうしているだけで幸せというものでは ダンダでは、「体調の老化不良の身なれど、やっとの思いで頂上らしき所に届き、長年にわたって酷使してきたむくろを草叢に しかし、七○歳近くなった頃には、さすがに高所での長丁場の歩行が負担になったようで、最後のヒマラヤ行となったミルケ 七回のヒマラヤ行は、郁男さんにとって、まぎれもなく自分の生と死を見つめ直す、

これらのひとつひとつの山行は、 一冊に編集 ご自身の手製になるA四版の六冊の報告書にすべてが詳細にまとめられている。(一回と二

私の序文が入っているのは、 説つきで半日がかりで眺めた。また、報告書の原稿ができるとすぐに持ってきて校正を依頼されて帰った。六冊の報告書の扉に 郁男さんはネパールから帰る度にすぐにたくさんの写真を持参して我が家を訪ねてきた。私と父は、それらの写真を本人の解 当時、 支部長だったこともあるが、そのような理由からである。

段階でも郁男さん独特の個性と思想がものの見事に貫かれていることであった。いつも何人かのご友人と一緒だったにせよ、ヒ これらの報告書を繰り返し読んで私が感じたことは、 ひとつひとつのヒマラヤ行が、発案、 計画、 実施、

れる。 書の中には、 マラヤ行は郁男さんその人の思考と行動の記録であり、郁男さんという巡礼者そのものの姿といってよい。残された六冊の報告 ヒマラヤという大自然の中を歩いて行くひとりの人間の どの場面でも感動的であり、その感動は、 斜面をつつむ樹木や足元の小さな草花にまで及んでいることを知らさ 「悟り」の境地が垣間見られる。 ヒマラヤの峰々と郁男さ

眺め楽しそうに歩き回っていたのを想いだす。 庭の一角を占めるほどに繁っている。 花の花芽がすでにもっこりと膨らんでいた。震災のあとの六月に亡くなった父が一五年ほど前に郁男さんからいただいた株で、 郁男さんは、石楠花に深い思いを寄せてきた。震災から一周年を迎えた朝、 この石楠花の花が咲く頃になると、決まって郁男さんがやって来て、 庭に出てみると、 連日の寒さにもかかわらず石楠 父と庭のあちこちを

ならぬことを知るのであった。 たが、その頃から郁男さんは、 た。高砂のご自宅の庭に溢れんばかりに植えられた石楠花やバラやキウイなどの植物を見ていると、 っしゃ」は、 てきたばかりの音楽と山のことを肴にして二人の飲み会へと続いた。「俺は植木いじりをしながら音楽を聞くのが一番好きなの ンドオーケストラ、ポールモーリヤ、ペレスプラード、そしてイ・ムジチ合奏団などのクラシックも観賞した。そしていま聞い 山に行けなくなった頃、 郁男さんの口ぐせで、 健康保持のためと言って七北田川の堤防を蒲生の海岸や岩切まで歩いたりするのを日課にされてい 私をよく音楽会に誘ってくれた。アルゼンチンタンゴが特に好きだったようだが、カラベルグラ お酒を飲みながら歌を口づさむ郁男さんの姿は、 まるで神棚の戎さまのようだと思ったりし 如何にもそのご趣味の並々

に思うのは私だけではあるまい。 験されてきたが由の、機知に富んだ軽妙な言葉が、止まることなく続くのであった。これは郁男さんの天性のものであった。 郁男さんが亡くなられて、すでに七年の歳月が過ぎたが、一向に遠くに逝ったという実感がない。 郁男さんとは、 とにかくたくさんの山をご一緒させていただいた。郁男さんが居られた登山は、 (二〇一九年三月三一 日 記す) どういう訳かい いつも近くにおられるよう



佐々木郁男さんが残されたネパールヒマラヤ山行報告書六冊

### 佐々木郁男さんの想い出

#### 木皿 謙

佐々木郁男さん(六〇一五番) 享年七八歳 東日本大震災の翌年同月同日同時刻の二〇一二年 (平成二十四) 三月一一日午後二時四五分

上げます。 先輩からも後輩からも勿論同輩からも「イクオちゃん」と呼ばれ皆から親しまれてきた佐々木郁男さんのご冥福をお祈り申

がらの山登り、大学の山岳部の監督やコーチを務めながら後輩たちの指導にも熱血漢ぶりを発揮されました。会合の時など、彼 が現れると会の雰囲気が明るく変わる不思議なキャラクターの持ち主でもありました。 佐々木郁男さんと私とは東北学院大学山岳部時代からの六十年を超える長いお付き合いでした。 家業の板ガラス業を営みな

せんでした。そのうち日もとっぷり暮れ降ったりやんだりの空をにらみながら、懐中電灯を点けては沢の水位と睨めっこ。まん り戦意喪失した二人は仲吊り尾根に逃げることにしました。その時の藪漕ぎのすさまじさにすっかり参ってしまい、精根尽き果 じりともせずに朝を迎えましたが、何時か雨も収まっていました。黒俣沢のY字雪渓まではまだまだありそうでしたが、すっか す。朝日鉱泉を朝早く出発して、色々語らいながら夏空の青さと白い雲の流れを眺めては沢の水に浸りながら夏山の沢登りを楽 てた状態で朝日鉱泉に戻った山行の想い出は、二人で酒を飲んだ時など決まって出る話題でした。 しんでいましたが、昼過ぎ頃急に空模様が怪しくなり、凄い雨粒が降り注いできました。近くに手ごろな岩室を見つけ取り敢え 私がイクオちゃんとの山行で真っ先に思い浮かぶものは、 天気の回復を待ちましたがそうはいかずだんだん沢の水位が上がってきて、どうしようと二人生きた心地もありま 昭和三三年のお盆休みに二人で行った大朝日岳の黒俣沢の遡行で

まり他人のお膳立てした計画は好まなかったようでした。いつも、ふっくらニコニコ総てを包み込む雰囲気のイクオちゃん、ど ありましたが、 今、振り返ってみるに学生時代の山行、 イクオちゃんは何をするにも自身の意見を押し通す強情さを持ち、 卒業してからの仕事の合間を見ながらの山行、 山行はいつも自分で計画を立て実行する、 偶に夜の巷に繰り出しての飲み会等々

こにあの情熱が秘められていたのか不思議に思われます。

五三○○メートルの銀嶺に立ったと喜んでいました。まさにビックリです。彼がヒマラヤ行きを実行はじめる少し前、 ボードを叩きながらと、謙遜はしていたけど挿絵と言い写真と言い、中々立派なものです。このヒマラヤ紀行シリーズでは高度 す。そのネパールから戻ってくると、いつも几帳面に自作のレポートを作成して届けてくれましたが、それとてワープロ (四〇三〇m) でしたが、 七回に亘るヒマラヤ紀行は彼の山登り人生を通しての生きた証です。 (平成元年)二人でヨーロッパアルプスのトレッキングに行きました。その時はマッターホルンの隣の山?ブライトホルン 一度のペースでのネパール行きは、私も何度となく誘われましたがとても行ける状態ではなく今思うと残念で あの時彼はネパールのトレッキング紀行の夢を膨らませていたらしいのです。 家業の板ガラス業も大変だったとは思いますが還 一九八九

ようにと声をかけてくれました。 彼は石楠花の研究でも一家言を持ち、 ネパールトレッキングの寄稿文にも珍しい石楠花に出会った話が散見されました。 驚くほど詳しかったです。季節になるといつも自宅に見事な石楠花を咲かせ、

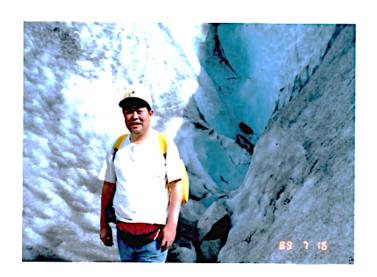
れて一緒に聴きに行きました。帰りは決まって、 又イクオちゃんはコンチネンタルタンゴが大好きで、且つまた石楠花みたいに詳しく、タンゴのコンサートがあると良く誘わ いつもの日本酒ではなくテキーラなんかを傾けたものです。

一斗缶に金網・炭・焼き肉の材料などを仕込んで出かけるのが楽しみになってきました。 その前後、五月の連休は決まって普段そんなに行けない、三泊四日くらいで計画をして山に出かけました。何時のころからか、 上州の武尊岳など色んな所に散らばしました。 ビール・酒を飲みながら色んな談議に花を咲かせました。 あの焼き肉の匂いは、 登り終えた帰途、 月山の夏山スキー場、 足場の良さそうな処

取らなかったようで、よく言っていた言葉「俺は誰をも恨むことはないんだ。自業自得なんだから」と達観した考えでいたみた 生懸命人口透析を受け付けてくれる病院を探し出して透析を続けたそうです。 いでした。大震災の時は てきました。それでも「人生出来る限り楽しく生きるのがこの世に生を受けた者の取る道」とあまり医者の忠告も真剣には受け そうこうしているうち何時しか持病の糖尿病が悪化、 一日おきの人口透析のさなか、 多くの病院が停電で透析を行えなかったそうですが、彼の息子たちが一 血糖値がだんだん高くなりそのような楽しみもままならぬ情勢になっ

今思うと、もっと強く忠告したほうが良かったのかとも思いましたが、いずれ定められた運命と考えるのみです。六十年の歳

イクオちゃんの御霊安かれと祈るのみです。月はあまりに永く、想い出話も留まるところを知りません。



在りし日の佐々木郁男さん---スイスアルプスにて---

耐え、享年七八歳でありました。 会員番号九七六六番の後藤さんが亡くなられたのは、二〇一四年の三月二三日の早朝のことでした。長いこと施設での生活に

朝食前に登山をして自宅に戻り、食事を済ませて出勤するという活動で、 地元山岳会は話しております。私も彼から「今、早朝登山をやっているんだ」と聞きました。それは朝起きると直ぐに家を出て、 山の早朝登山を数年にわたり実施したのです。彼の意志の強さに感服した次第でもあります。 それでも当初一時間半ほどかかっていた登山が一時間を切るようになり、回数も四○回を超えるくらいでした。後藤会員は薬萊 り返していたようでした。この話に啓発されて、 彼は高校に入ってから故郷の山として翁峠山と薬萊山をこよなく愛して登り続け、薬萊山は一千回に迫る回数を登り続けたと 私も青麻山の早朝登山を実施しましたが、二ヶ月ほどしか続きませんでした。 時間がある土曜日や日曜日には複数回の往復登山を繰

が全国放映されたことなど、 つ人でもありました。 また、彼は、三年をかけて魚取沼の鉄魚の産卵時期を調査してNHKの取材班を案内し確か二日違いで撮影を成功させ、これ まず、 物事に徹底した事前調査を展開し、 地元山岳会結成に大きな尽力を果たしました。 周到な準備をする人でした。 山の実績では大変多くの記録を持

に彼が中心でした。 山本知事から感謝状を授与されておりました。また、地元山岳の自然保護活動は勿論、 勝ち取ったことでも明らかであります。彼が強化委員長になった年のことでした。他に遭難対策の分野での活躍もあり、 動で宮城岳連の力を高めることに能力を発揮いたしました。それは宮城の選手がどうしても果たせなかった国体出場を初めて 九六〇年四月に宮崎山岳会を結成し猪俣会長をたてて、宮城県山岳連盟に加盟したのです。 学校登山や町民登山の企画運営なども常 その後、 岳連を通じた多くの活

を薬萊山で開いたのです。スキー着用で登山し、山頂でチェックを受け出発点まで戻る時間競技でした。体力に勝る山屋は登り 後藤さんはアイデアマンでもありました。 地元でのスキー界と登山者グループとの 体化を目指して、 初めてスキー ·登山大会

想定をくつがえして山屋さんが一位二位を占めたのです。スキー屋さんは地形判断に誤りがあり、まとまって滑り降って負けた のです。いつもゲレンデスキーのためか、 に有利ですが、滑降技術に長けているスキー屋さんは下りに強いので、当然スキー屋グループが勝利すると予測されましたが、 地形読みに差がついた結果でした。

じております。 他に二〇〇二年にも飯豊本山の日帰り登山を実施しております。記録は他に多数ありますが、本当に惜しい方を失ったと強く感 た。というものでした。これは長靴ばきの登山で、この後、 さらに彼の記録山行の一つでもある新庄神室全山縦走日帰り登山があります。早朝に自宅を発ち、夕方を少し過ぎて帰ってき 「登山は長靴で」と力強く言うようになったと記憶しております。

た友がいなくなるということは本当にさびしくて残念なことです。庭の朴の木と永く付き合い、大切にしていきたいと考えてお 木陰を作ってクーラーいらずの生活です。今年は特段にその香りが強く感じるように思われてなりません。親しくお付き合いし 指よりやや太めの木を祝いとして植えていきました。三三年過ぎた今は毎年多くの花を咲かせ素晴らしい香りを享受し、涼しい の話で飲み過ごしたこともありました。 私の彼との出会いは、 (二〇一四年三月二三日永眠) 岳連での指導員研修会でした。共に酒が好きで話が合い、またある時は自宅に泊めてもらい、 私が家を建てた時、 彼は一本の朴の木を持参して「俺の庭にもあったから」と言って小 夜通し山

# 山の先達 吉野禎造さん

### 米崎 徹

火葬場の都合から急遽前倒しに変更になって奉読が止むなく割愛になった。 た。この折、私たちの日本山岳会宮城支部を代表して千田早苗さんが弔辞を奉読する次第であったが、大震災後の混乱の最中、 は、二〇一四年(平成二六)一二月一四日に逝去された。享年八九歳であった。葬儀は十二月十八日ご自宅近くの斎場で行われ 日本山岳会宮城支部の長老のお一人として、つねに私たちの活動を見守っていてくれた吉野禎造さん(会員番号四五五九番)

とは現編集委員が別途人選して追悼文の執筆をしてもらうことになり、吉野さんのことは私が担当を仰せつかった。 くなられた、支部役員会の席上、 昨年 (平成三〇) 二月一四日、 お二人の労に報いるべく、『宮城山岳』誌上で追悼しようということになった。板橋さんのこ 吉野さんと同時代を生き、やはり山の先達としてご指導をいただいてきた板橋元一さんが亡

### $\triangle$

吉野さんの登山活動は、 母体となっている仙台市役所山岳会をはじめ、 宮城県山岳連盟そして日本山岳会と三者に亘ってい

戦後はあくまで仙台市役所職員中心の組織として運営されていくことになる。吉野さんが戦争から復員後仙台市役所に奉職さ った。」というようなことを、しばしば話されたが、戦争からようやく解放され、 ではないかと思う。 良吉さんは、 た三原良吉さんの案内による"大東岳及び二口峡谷"にも参加され、存分に自然の美しさと山登りの楽しさを味わわれた。三原 れたのは一九四六年(昭和二一)で、ちょうど仙台山岳会が活発な活動を再開した頃である。一九四七年(昭和二二)に催され 岳会である。一九三九年 仙台市役所山岳会は一九三三年(昭和八)七月に蔵王連峰を縦走した市職員のメンバーがつくった白樺会にはじまる老舗の 戦時中、 吉野さんは、「先輩たちに誘われて山に登っているうちに、 秋保の馬場に疎開され、二口のことを知り尽くしていた方だったから、どんなにか興味深い話をされたの (昭和一四)には仙台山岳会へと発展的改称を行い、戦時中の一時期を除いて活動が続けられたが、終 山が仕事と同じくらいに大事なものになってい 平和の中で自然や山を楽しむことのできる喜

びを噛み締めていたのだろう。このころからのちの吉野さんの登山は、 なものだったといえる。 仙台市役所のたくさんの山好きにも恵まれて、

界に伍した八〇〇〇メートル峰登頂は、 体登山,と呼ばれ。厚生文化事業の柱となって二〇一二年(平成二四)まで続いた。 と板橋さんであったことは多くの関係者が認めているところである。吉野さんは、一九六四年 と、 した。この当時、 ともなって仙台市役所山岳会の副会長に選任され、同時に仙台市文化体育会の登山部長を兼ねた。後者による登山活動は、" 文 三十三)に仙台市に革新系の島野武市長が誕生し、登山に多大な理解を示したことも、 (昭和三五)の秋には、 槇有恒さんを隊長とする日本隊がマナスルに登ったのは一九五六年 のちに宮城山岳連盟の会長になる伊達篤郎さんで、幹事には吉野禎造さんそして板橋元一さんらが名を連ねた一九六〇年 仙台市市役所山岳会の会長は島野市長、副会長はのちに日本山岳会宮城支部の初代支部長になる北川正次さん 蔵王聖山平に待ちに待った山小屋 仙台の岳人に大きな刺激を与えることになった。また、 " 駒草ヒュッテ,が竣工した。その牽引役となっ (昭和三一)のことだが、 仙台市役所山岳会の活発な活動を後押し (昭和三十九) それと同時に一九五八年 仙台ゆかりの槇さんらによる世 に北川さの退職に たのが、 吉野さん

れた。 まで続いた。 後一九七二年 新報社の一力次郎さんで一九五九年(昭和三四)まで務められ、翌年からはそれまで副会長だった伊達篤郎さんが会長を務めら 吉野さんは宮城山岳連盟においても重職を歴任された。宮城山岳連盟は一九四九年(昭和二四)結成された。初代会長は河 吉野さんは一九六四年 (昭和四十七)に副会長に就任するまで八年間理事長を務められた。その副会長の任は会長の伊達さんが退任する (昭和三九)、 昨年逝去された板橋元一さんが副会長になられた後を受けて理事長に就任し、

本山岳会会員でもある飯野信さん・遠藤昭二さん・高橋功さん・永浦忠吉さん・千田早苗さんがおられた。 会と仙台一高山の会の海外登山経験者が多数含まれていた。 ん・加藤義明さんを副委員長として、 に聳える山で、登山はネパールとの合同であった。日本側登山隊員は一五名、すべて仙台市勤務者だが、ここには東北大学山 マール(七一二六m)への遠征であろう。 吉野さんがかかわった仙台市役所山岳会における最も大きなイベントは、一九八三年 これまで市役所山岳会の活動を担ってきた壮々たる方々が名を連ねた。 ヒムルン・ヒマールは、マナスルの北西・ドウドコーラ谷を隔てたチベットとの国 また、 他方の実行委員会には板橋元一さんを委員長、 (昭和五八) のネパール、 この中には当時 ヒ ムル ン・ <u>ー</u>さ

長の全責任である」と述べられると同時に、「大きな事故もなく全員無事に帰国できましたことは、 じる難しさが重なったためであった。 地形が複雑で山が予想以上に難しかったこと、連日の降雪に見舞われて必要以上に時間を費やしたこと、 りました。」と述べている。ヒムルン・ヒマールは、その直後一九八三年 この登山隊を率いたのが吉野禎造さんで、当時五八歳であった。この登山では、惜しむらく山頂を踏むことができなかった。 吉野さんは「登頂を果たし得なかったことは、 (昭和五八)のポストモンスーン季に、 隊の持つ力を十分に引き出し得なかった隊 私のただひとつの救いであ 加えて合同登山から生 前年に次いで

を務められた。副会長の任はその後永きに亘り、 四)まで務められ、 板橋さんが副会長になられた後を受けて理事長に就任し、その後一九七二年 一方、宮城県山岳連盟は一九四九年(昭和二四) 翌年からそれまで副会長であった伊達篤さんが会長を務められた。吉野さんは一九六四年 会長が伊達さんから清野誠一さんに代わるまで続いた。 結成された。初代会長は河北新報社の一力次郎さんで、一九五九年 (昭和四七)に副会長に就任するまで八年間理事長 (昭和) 留 和三

再挑戦した弘前大学隊によって初登頂されることになった。

唱し一九六五年(昭和四〇) に課題を残したがこの時代のひとつの大きなエポックであった。 理事長時代、吉野さんはこれまで何度か計画された宮城県山岳連盟の重要課題であった県境尾根の冬季全山縦走計画を再提 に各山岳会の分担によって実施に移した。この結果は県境のいくつかの区間で未踏部分が残り、 次

眺めて帰った。 であったが、結果は残念ながらかなり届かなかった。踏査隊の方はカシュガルからカラリク湖に遊び、 隊長を務めた。この登山隊の目標としたのは、 また、一九八九年 (平成一)には、 吉野さんは山岳連盟が総力を挙げて取り組んだ日中友好カラコルム登山隊の別働踏査隊 ガッシャーブルムⅠ峰(八○六八m)を未踏の中国側ルートより登るというもの パミールや天山の山々を

総会には、 んは、 目の支部として発足した。 『宮城山岳・五〇周年記念誌』をひもといていただければよいが、そこにも吉野さんの活躍ぶりは随所に記されている。 吉野さんのもう一つの重要な活動の舞台は、 日本山岳会宮城支部の創設メンバーの御一人である。宮城支部は十五名の会員および会員予定者出席のもと、 伊達篤郎さん・常盤一雄さん・板橋元一さん・松田文人さん・加藤義明さん・大橋克也さん・瀬戸輝武さんなど、私 初代支部長は北川正次さん(会員番号四三八五番) 取りも直さず日本山岳会であった。これは私たち宮城支部のことであるから、 で、 吉野さんは常務委員に選任された。この発足 全国十四 番

の冬季登山なども掲げられていた。吉野さん三三歳の若さであった。 会や講演会の開催、 たちがのちのちまで御指導を受けることになった方達が出席されている。その支部長の北川さんを助けて例会の運営、技術講習 記念山行など、 支部運営のかなめとして活躍したのが吉野さんであった。 驚くことに活動の中には、 飯豊山

ことを憂いた吉野さんが、渡辺さんを説き伏せて一本(ピッケル番号一九五六号)を寄贈させたのである。 本の代表的ピッケル工として知られていた山内東一郎さんの仕事場が二度の火災で焼失した時の再興を支援されたのが日本山 岳会会員の渡辺徳さん(会員番号五二八四番)である。日本を代表するといっていい大町山岳博物館に「山内ピッケル」のない もう一つ忘れてならないのは、 仙台の「山内ピッケル」を長野県の大町山岳博物館に起草する仲だちをされたことである。日

紀を超えた山との付き合いになった。」と『宮城山岳』に述べられている。 き時代の山の話をたくさん伺うことができた。吉野さんの口癖は「楽しくも安全な登山」であった。ご自分のことは「長い人生 の途中に立ち寄った山という脇道ではあったが、自然の魅力にのめり込んでいるうちに本道に入ってしまった。気がつけば半世 「ねぼけ庵」でご一緒させていただいた時や「駒草ヒュッテ」、遠刈田の吉野別荘 その後いつ頃からか、宮城支部の山行や行事にしばしば奥様を伴われて参加され、 「獏庵」に泊めていただいた時には、古きよ 私たちを羨ましがらせた。 仙台の飲み屋

ある。 故郷の山に感謝するように私におっしゃっていたのが印象的であった。 宮城支部の後輩になる会員の多くは、その半世紀に亘る時間を吉野さんと共に過ごし、その間多くのご指導をいただいたので やがてよき指導者としての道を全うされた山岳人、それが吉野さんであった。 ある会の打ち上げの席で、「柴ちゃん、おらほ(仙台や宮城のこと)の山は一番たのしいよね。」と永いこと親しんできた 戦後に迎えた登山の隆盛期、 そのよき時代に山にあっ

### <>参考<><>

『宮城山岳』各号、 同 五〇周年記念誌

『宮城県山岳連盟誌』三○周年記念号、 同 四○周年記念号:

**声野禎造著『蛇足』** 

吉野禎造著『ヒムルン・ヒマールへの道!

### 木皿 謙

た翌日に静かにご召天されました。 一九二六年(大正一五)二月十三日生まれの板橋さんは、二〇一八年(平成三〇)二月一四 E 満九二歳の誕生日を迎えられ

日芝草平~屛風方面を動き回ってテント泊りの行程でしたが、 までお迎えに出ました。しばらく登った時ガスの彼方からヤッホーの声がしたと思うと、 話なんかあるはずもなく事前に打ち合わせた時間と場所だけが頼りの、 にある一番大きな綿の夏テント(入り口が三角)を背負って意気揚々雪山蔵王に出かけた時のことです。我々のメンバーは確か のほか燃え上がる習性 頂きました。 クで制動をかけながら下ってくるのにピッタリ遭遇し、出会いを喜んでテント迄転がり込んだ思い出が忘れられません。その翌 二年部員が二人、一年部員が三人の五名でしたが、期間中に板橋さんが二日位遅れて来てくれました。もちろん当時は、 私が東北学院大学に入学し山岳部に入部それから山と親しむ人生が始まったのでしたが、それ以来の長い長いお付き合い 昭和二九年三月私が 板橋さんの追悼文をまとめるにはあまりに偲ばれる場面が多く、 (昔は) 一年部員の時の春山合宿が、 がムラムラと沸き上がりました。経験も装備も全く未知の一団で、こともあろうに当時の山 蔵王の刈田峠に雪中テントを張って行うとのことで、 初体験と言うにはあまりに強烈な経験でした。 今思うと本当に心細い状態でしたが我々は刈田岳方面 何から書き始めたらよいのか戸惑いを感じます。 板橋さんが太めのトンキン竹のストッ この未知の体験にこと 携帯電

が立たなかったり、 吹き込み、朝起きるとシュラフの上に雪が積もっていたり、持参のチョコレートが氷点をはるかに下回る寒さで堅くなり全く歯 段の無い状態で我々現役学生の合宿に協力するために板橋さんに来ていただいた。 (せずに帰ってこられたものと今は思います。 板橋さんはテントに一泊したか二泊したかは今となっては記憶が定かではあり 青根温泉でバスを降りた後、 素晴らしい精神力と言うべきと思い本稿を認めながら改めて感動した次第です。なにせ三角テントの入り口から夜中に雪が マットも今のようではなくスミスゴ 報々温泉を経て大黒天から刈田岳そして刈田峠へと、<br /> (炭俵) を広げただけの代物、 今思うとまさに命がけの行動をとられたこ あの雪の中を一人で携帯電話も何も連絡手 帰るころは体温でぐしょぐしょ。

リングに括り付けて帰宅いたしました。それは今から六○年以上も前のこと、勿論エコーラインも宮城蔵王澄川スキー場も未だ ありませんでした。 合宿を続けて我々学生たちは帰途に着きましたが、いつものコースで峩々温泉に一泊し、雪と氷で固まったままのテントはキス その時は無事に帰宅されたのかさえ全く分かりませんでした。当然無事に帰られた事と信じ、 また刈田岳の中腹までお送りした後はお一人で下山されました。板橋さんの帰途は勿論来るときの逆コースでした 一片の疑いも抱かずその後の

頂いて蔵王山中に建設が実現、 と言って、浮かれた気分を引き締めて下さったあの一言も、忘れられない板橋先輩の良き想い出です。 小屋が完成して間もなく、我々部員たちが喜びに浸っている時「小屋の生活が山登りの総てではない、 ルバイト ら消えることはありません。 ると労力奉仕に参加くださり、 も出来る前のこと、麓の峩々温泉からひたすら人力或いは運搬用の馬を頼りの資材の荷揚げでした。 私の学生時代の一九五五年 翌日、夜明けと同時に活動開始、山小屋建設地まで何度かの往復、そして黄昏迫るころ仙台へと帰途につかれました。 (労力奉仕・提供) でひと夏を過ごしました。そのころの蔵王は今は普通の存在ですが、 あの時代は今と違って週休二日ではありません。毎週土曜日の午後、 勿論、 我々現役学生たちに言葉にはならない強烈な応援をして下さったこと、何十年経っても思い出か (昭和三〇) 現役学生達は蔵王山中の峩々温泉の馬小屋の二階に合宿し、 当時 現役・OB共に熱望していた山小屋TGヒュッテが大学当局の厚いご協力も 仙台を出発、 山岳観光道路のエコーライン 夏休み返上して資材運搬のア 板橋先輩には、 君ら勘違いするなよ。」 夜、 峩々温泉に 毎週末にな 山

さんと刈田峠をスキーで歩き回った板橋さんとが重複して何とも言えない不思議な気持ちで賛美歌を歌ったことが思い 体験したことは忘れ得ぬ想い出です。一生懸命賛美歌を歌って先輩を祝福したのですが、式の最中タキシードに身を固めた板橋 会での華燭の典にお招きを頂きました。 その同年の一九五五年 (昭和三〇) に、 戦後の混乱期が収まりかけた頃でしょうか、学生だった私が生まれて初めての結婚式を 板橋さんは令夫人である登美様とご結婚されました。 我々後輩たちも仙台東三番丁教 出され

また、一九四八年(昭和二三)にできた宮城県山岳連盟の結成に参加され、一九六四年(昭和三九)から一九七二年(昭和四七) 後復興と都市区画事業に従事されました。 板橋さんは、 九四五年 (昭和) 一〇)に東北学院高等商業部を卒業され、 そして、 伝統ある仙台市役所山岳会の主要メンバーとして大いに活躍なされました。 その後仙台市役所に奉職して、 一貫して仙

城支部の設立総会以降は、 まで、宮城県山岳連盟副会長の要職を務められました。そして、一九五八年(昭和三三)五月一九日に設立された日本山岳会宮 日本山岳会宮城支部の多くの活動に深く関与されてきた岳人でありました。

隊長として第五登(南西稜)を達成されました。そして、一九八三年(昭和五八)にネパール、ヒムルン・ヒマール(七一二六 m)遠征の実行委員会委員長を務められ、一九七五年(平成五○)にはアフリカ大陸最高峰のキリマンジェロ(五八九五m)に も登頂されアフリカにも足跡を残されるなど、海外の登山にも熱心に取り組まれました。 一九六六年(昭和四一)には、 東北学院大学山岳会のヒンズークシュ山系のコー・イ・バンダコール(六八三七m)登山隊の

気持ちでいっぱいです。板橋さん、本当にありがとうございました。 者として表彰をお受けになられました。そして、仙台市役所を御退職後も日本山岳会宮城支部の山行に幾度となく参加くださ 板橋さんは一九八四年(昭和五九)に仙台市役所を停年により退職されましたが、一九八六年(昭和六一)に宮城県体育功労 一板橋先輩と共に山に登る喜びを本当に長い期間享受させていただきました。これら板橋さんから頂いた多くのことに感謝の



在り日の板橋元一さん

### 

### 柴崎徹

りと記述してあげることが、彼への何よりの供養だと思えるので、 に亘って事務局長をされ、宮城支部運営を担っていただいた功労者であった。私には、 この二月二日、 :田さんは、 一九九四年日本山岳会に入られた。一九九九年より宮城支部の総務・財務委員となり、二〇〇三年より六年間 林田健治さんが亡くなった。まだ現職の五九歳、 手元にある記録をもとに、「林田さんとの山々」を記してみ あまりに早く痛ましい死であった。 林田さんと登った山々のことを、

 $\overset{\text{m}}{\sim}$ Щ がだんだん興じてきて、仕事を離れても山登りを頻繁にするようになったことである。環境保全課に在籍した職員の間には、 つの間に " 山にときどき登ろう会"ができていた。この時代には、宮城県の最北端、 た。仕事というのは、宮城県の自然にかかわるさまざまな調査を共にしたからである。 林田さんとは県庁の環境保全課で知り合ってから、 (六二一・六m)、加美、 登米・米川の蚕飼山 (四一八·一m)、 尾花沢の境、 翁峠(一○七五・○m)と吹越山 南三陸・入谷の童子山 (三二〇・五m)、 仕事でも、 仕事以外でも一緒に自然や山に出掛ける機会がたくさんあっ (六九三・○m)等に登った。 七ヶ宿と白石の境、 北緯三九度線上の笹長嶺山(五一九・九 仕事以外というのは、自然指向や山好き 風穴で知られた寒成

城山岳』の支部五○周年記念誌に「忘年登山」と題して、"年に一度の「忘年登山」だけは特別である。 て忙しい年末の時期を選んで行う山登りは、 もうかれこれ十五年ほどになる。 を選定基準に据えた。この「忘年登山」は、一九九二年を皮切りに今日まで途切れることなく続けられてきた。林田さんは、『宮 くくりとして必ず山に登ることしよう、ということになった。それが「忘年登山」のはじまりで、二人とも登ったことのない山 その後、 林田さんは県内各地を巡り、 当初は二人だけで登ることが多かったのだが、この頃は賑やかに登る機会が増えてきた。 私は伊豆沼、内沼の財団に移って、お互い多忙を極めたが、年末にだけは、 一年の締めくくりとして欠くことの出来ない年中行事である。と書いている。 この山登りは 年

回数	西歷	山岳および標高	地域区分
0 1	1992	半俵山 (602m) 三条山 (591m)	鳴子
0 2	1993	小藤葳森(767m)	白石
0 3	1993	天ヶ岡 (412.9m)	色麻
0 4	1994	長倉山(497.8m)小屋森山(386.0m)	仙台・大和
0 5	1995	石投山(456.7m)京ヶ森(281m)	女川・石巻
0 6	1996	難波森 (527.8m) 愛宕森 (370m)	大和
0 7	1997	黒鼻山 (842.9m、南面直登)	仙台
0 8	1998	小野岳(1,383.4m、李宅淳送別登山)	下郷(福島)
0 9	1999	尾ヶ岳(470.3m)胡桃ヶ岳(461.4m)	大崎・鳴子
1 0	2000	小黒ヶ崎山(244.6m)黒崎山(284.3m)	大崎・鳴子
11	2001	大鳥屋山(537.6m)	川崎・蔵王
1 2	2002	大畑山 (563.5m)	大和・若畑
1 3	2003	コゴミ沢山 (509.3m)	仙台・棒目木
1 4	2004	高崎山(474.8m)天狗森(470m)夜盗森(480m)	仙台・夜盗沢
15	2005	桧倉山 (673m)	仙台・作並
16	2006	高畑山(490.4m)	仙台・大倉
17	2007	神行堂山(459m)惣内山(379.5m)	南三陸・入谷
18	2008	大岳 (348.0m) 高金山 (334.4m)	気仙沼・本吉
19	2009	大神宮山(504.3m)愛宕山(621m)	気仙沼・本吉
2 0	2010	物見石山(444m)弥勒山(306.1m)	南三陸・戸倉
2 1	2011	君ヶ鼻山(653m)塚沢山(681.8m)	気仙沼・室根
2 2	2012	高塒山 (313.8m)	登米・米川
2 3	2013	ソロミ山 (331.6m) 黒森山 (382.5m)	石巻・北上
2 4	2014	大塚山(406.9m)大伽藍山(401.2m)	南三陸・羽沢峠
2 5	2015	一本杉山(353m)釣瓶山(472m)	南三陸・戸倉
2 6	2016	大仏山(70m、残存峰)鰯山(32m)	東松島・野蒜
2 7	2017	大師三山···大森山(285m)天狗岩(268m)高頭方山(270m)	岩沼・志賀

小野岳は、 このうち、 李宅淳さんの送別登山を兼ねたが、 一九九三年には小藤蔵森に登ったあと、もう一度天ヶ岡に登って忘年登山を二度することになった。一九九八年の この時ばかりは膝を越す新雪で登れなかった。

田さんも書いているように、悪天に見舞われたり降り積もる新雪によってなかなか厳しいが、全天候行動を原則として幸い んどで、いわゆる名山が含まれていないこと、登った山は多くが道のない藪山で藪こぎを少しも厭わずに、 目標とした山岳を何とか登り切ってきたこと、 いて登ることを是としていたこと、標高が低い小さな山でも、個性的な山を大事にしてきたこと、 「忘年登山」を一覧して改めて感じることは、 などである。 奥羽脊梁山脈の手前に連なっている山地帯の山や北上山 この年末の時期の登山は、林 一地の目立たぬ むしろ道なき道を歩

はないかと思う。 だ山への飽くなき執着と未知の領域に立ち入ることの魅力を誰よりも知っていた。それが「忘年登山」の結果に表れているので 林田さんには、 抜群の行動力と判断力が備わっていた。地形の読みや読図力にも秀れていた。 そして自分たちの登ろうと選ん

山と対象山岳が広がってゆくのだから、これはまさに山から山への連鎖反応でもあった。一つの登山は、果てしない地上空間へ の旅立ちであったともいえる。 に新しい山を発見して、それが次の「忘年登山」の山に加わっていったのである。たった一座の山から三座の 「忘年登山」では、 登る山を決定するまでの試行錯誤の段階が大切で楽しくもあった。 そのような新たな発見の旅が林田さんとの「忘年登山」には貫かれていた。 登山の都度、 周囲に広がる山 Щ そして十座の 並みの

さんの死によって遙か遠い存在になってしまったのである。 林田さんの死であった。林田さんがお元気なら、どれだけたくさんの新たな登山が展開されたであろうか。 かったのは十一月下旬のことだった。それからわずか二ヵ月半の闘病生活ののち、亡くなられたのである。「あっ」という間の 登れるはずであった。何より本人がそれを楽しみにしていた。体調を損ねて入院を余儀なくされ、 林田さんは、 あと一年ばかりで定年を迎えようとしていた。これから記憶の中にしまっておいたたくさんの山々に好きなだけ 急性の白血病であることがわ それらの山々が林田

永いお付き合いをいただいたことに心の底から感謝し、林田さんのご冥福を切にお祈り申し上げる次第である。 しかしながら、 何せ二人にとってどの山も初めての山であったのだから、 そうであっても林田さんとの登山の憶い出は尽きない。どの山登りも重みがあってしかも楽しか それらの山にご一緒できたこと、 加えて三○年に亘るこれまでの

らの各氏に林田さんに代って御礼申し上げる次第である。 の山で中里政信さん、須藤幸蔵さん、鈴木晃三さん、細川光一さん、佐藤昭次郎さん、三宅 泰さんにご一緒いただいた。これ ん、飯塚とみ子さん、そして佐々木まさ子さん、お三方ともその頃はバリバリの現役であった。さらに宮城支部からはいくつか 加わっていただくことになった。のちに常連となった高橋 「忘年登山」が始まった頃は、当然ながら林田さんと私との二人のパーティが続いた。しかし後半になるとたくさんの方々に 功さん、千田早苗さん、そして高橋智宏君、女性陣では菅原秀子さ

(二〇一九年三月二二日、林田さんの四九日に記す)



在りし日の林田健治さん

# 登山の知識と技術シリーズⅡ

## 登山の知識 2

# 山岳地形の呼称と登山設備」

### 佐藤 昭次郎

山をより安全に歩くためには、山域の地で出会う山の地形と、登山のための登山道の特徴を知っておくことによって、自然をより深く堪能できたり、自然の中に潜んでより深く堪能できたり、自然の中に潜んでいる危険を事前に予知したりすることがでの特徴を知っておくことによって、自然をで出会う山の地形と、登山のための登山道で出会う山の地形と、登山のためには、山域の地に設けられている設備などにかには、山域の地に設けられている設備などにかには、山域の地に設けられている設備などにかいる。

# ・だらだら坂(平坦道)

登山は最初から急な坂道を歩くことになります。でような道を「だらだら坂」または「平坦な歩道のような道を歩くことになります。また、登山口についてからもしばらくはほび平坦な登山道が続くことがあります。のような道を「だらだら坂」または、平坦な車道や京山は最初から急な坂道を歩くことになりような道を「だらだら坂」または「平坦なります。

### 急坂

備が設けられているのも多くは急坂です。の多い場所になります。さまざまな登山設山では、急坂が一番疲れやすくそして危険ことです。道面の傾斜角度が十五度を超えことです。道面の傾斜角度が十五度を超え

### ・岩場

は、規模の大きい岩場があるようなコース「岩場」と言います。山歩きに慣れるまで登山コースが岩になっているところを

岩場を通ることはよくあります。初心者用の普通の登山コースでも小規模なは一般的には避けたいところです。しかし、

### 木段と木道

急坂や段差に設けられた木組みの階段を「木段」と言います。木段は登山を助けるための階段として設けられることがありますが、登山道の侵食防止や植生保護というあったとしても、木段をはずれずに歩くことが大事です。

# ・クサリ場/ロープ場

どの登山補助設備が設置されていることが登山コースの急坂や岩場には、クサリな

場を「クサリ場(鎖場)」と言います。登山 坂などは「ロープ場」と言います。 補助設備としてロープがかけられている急 あります。鉄クサリがかけてある急坂や岩

ます。

### ・ハシゴ場

と言います。 設けられている登山道の区域を「ハシゴ場」 岩場に鉄製のハシゴがほぼ垂直に近い形で もっとも急で、手がかりや足場の少ない

### ・ガレ場

沢の源頭に多く見られます。崩れた岩のか 場」と呼ぶこともあります。 けらが人の頭より大きい場合には 所を「ガレ場」と言います。高山の稜線や 岩のかけらがガラガラと積み重なった場 「ゴーロ

れている場所を「ザレ場」と言います。ザ 石かやや大粒の砂のようなものとして撒か ガレ場よりも岩のかけらが細かくなり小

> 花崗岩などが露出している山でよく見られ レ場は火山の火口周辺や、火成岩の一つの

### ・尾根

す。また、谷と谷の間の突出部が連続して の峰が連続した地形を「尾根」と言いま いる地形も尾根と言うことがあります。 「おねすじ」と呼ぶこともあります。 山頂と麓または山頂と山頂をつなぐ、

### ヤセ尾根

て幅の狭い尾根を「ヤセ尾根」と言います。 両側が切り立った急峻な斜面になってい

### 稜線

尾根の主脈のことを「稜線」と言います。 大きな山頂と山頂をつなぐいくつかある

### · 谷

り標高の低い箇所が細長く溝状に伸びてい 山や丘、 尾根、 山脈に挟まれた、周囲よ

る地形を「谷」と言います。

### · 沢

間の低地を辿って流れる川を指します。源 ては、 険地域に急変することもあります。 などは大量の水が流れることがあって、 頭部が湧水のこともあります。また豪雨時 「沢」と呼びますが、山岳地形の用語とし したがって流量の少ない尾根と尾根の 般に水量が少なく短い川のことを 山頂などの源頭部からの距離が短 危

### ・右岸・左岸

側を右岸、左側を左岸といいます。沢に沿 と右・左が逆になるので注意しましょう。 進行方向右側が左岸、進行方向左側が右岸 って上流へ登っていく場合(沢登)では、 沢(谷、川)の上流から下流を見て、右

### 沢の出合と頭

「出合」と言います。また、沢の源頭部に 支流となっている沢が本流に注ぐ地点を

も使われることがあります。
(の)」と言います。「出合」と言う用語は、ら)」と言います。「出合」と言う用語は、

### 洪洪地場

ることはしばしばあります。行するような場合には小さな流れを渡渉す言います。普通の登山道でも、沢伝いに歩を歩いて横切る場所のことを「渡渉場」と、沢や川に橋がなく、飛び石伝いや沢の流

### ・雪渓

### ・巻き道

根上の小さなピークがあっても、そのピー通過が困難で危険な地形を迂回したり、尾急峻な岩場や谷にかかる滝や雪渓などの

で今一度復習をしてみてください。

二二号の「登山の知識と技術シリーズI」

クには登らず斜面を横切って通過するための道を「巻き道」といいます。『岩場を巻く』『小ピークを巻く』などと表現します。岩場や滝などの難所の通過では、危険を避けるために巻き道を選ぶことが必要になります。これらの危険の多い箇所を巻く場合には、道を見失わないように一旦地図で確認することが必要です。

# 地図に画かれている山の地形

地図に画かれた等高線の間隔や密度から出の地形を知ることができます。急傾斜地か、緩傾斜地か、どの方角に傾斜した地形かなどがわかります。ただし、等高線の概略からだけ判断してその地形が谷であるか峰であるかを見間違えると言うこともありますので、地形図を見ることに慣れている必要があります。地図記号から、崖や沢の存在や、植生を知ることもできます。

### 登山の技術 2

## 山を歩く基本技術

### 孫 膝銀朗

登山では、さまざまに変化する地形を重りてい荷物を背負って長く歩くことになります。い荷物を背負って長く歩くことが必要です。登山口での準備の仕方、傾斜に合わせて体の重心を考えた歩き方、さまざまな地形を重かされる、さまざまに変化する地形を重歩き方の基礎を知っておきましょう。

## 登山口での出発準備

届)を登山届用のポストに投函しておきま登山のコースを確認し、登山計画書(登山ものを中止します。次に、地図や案内板でこの時点ですでに問題があれば、登山その報そして自分の体調について判断します。報として自分の体調について判断します。

す。

ておくことが必要です。
また、靴ひもの締め加減やザックのパッまた、靴ひもの締め加減やザックのパッまた、靴ひもの締め加減やザックのパッまた、靴ひもの締め加減やザックのパッ

## 二 山の歩行の基本

山では体力の消耗を抑えるようにゆっく り歩くことが基本です。足の運び方や置き 方も、平地歩きと山歩きとでは違います。 主な違いは、山歩きでは着地時に靴底全体 で地面をとらえることができるように、靴 全体がフラットに着地するように足を下ろ 全体がフラットに着地するように足を下ろ を体がフラットに着地するようにとで下る なっとです。以下に、登山道の傾斜に応じ

(前足と後足の中間)の直上にあるようカトから着地し、体の重心が歩幅の中間整地された道、平坦な登山道では、カーがりがあるが、東地では、平坦な登山道では、カーが、東京が、東田道)の歩き方

に歩きます。やや前かがみの姿勢でよいに歩きます。やや前かがみの姿勢でよいのですが、上体を前後左右にあまり動かのですが、上体を前後左右にあまり動かのがすが、上体を前後左右にあまり動からな歩行のりズムに合わせて呼吸を一たの効率的な歩速は時速三・六㎞程度だい。

# ② 傾斜地を登る際の歩き方

整地されていない登山道を登る際には、靴底全体で地面をとらえるフラットな着地が基本です。踏み出した前足に向な着地が基本です。踏み出した前足に向かって静かに重心を移しながら、すり足から最初の三〇分程度は、体を慣らすため、特にゆっくり歩くことが大事です。め、特にゆっくり歩くことが大事です。が、特にゆっくり歩くことが大事です。が、特にゆっくり歩くことが大事です。から最初では、が登り歩くというない。

# ③ 傾斜地を下る際の歩き方

登山で最も事故が多く脚腰を疲れさせるのは山を下るときです。登りよりも下る時の方が体のバランスを崩しがちで、かつ登りで足腰の疲労が溜まっていることが、事故の原因になりがちです。下りも靴裏全体で着地することが基本です。よく、平坦道を歩く時と同様に踵から着地してしまうことがありますが、これを連続していると膝やふくらはぎに負担が蓄積して、膝関節痛や脚の筋肉疲労を引き起こすことがあります。歩りるようなイメージで膝のクッションを効かせながら進みます。

# 使い方 (トレッキングポール) の

持や歩行のリズムを作るのに有効です。ポール)の使用は、急傾斜でのバランス保ー解式の登山用ストック(トレッキング

歩行前にストックのグリップを握り先端 (石突)を垂直に地面を当てて、ヒジが直 角かまたは九○度よりわずか大きくなる長 さに調節します。伸縮式ですので、登りで じて長さを調節します。左右両手に一本ず つストックを持って歩行の推進手段に使う か、一本だけを使ってバランス保持に役立 て、片方の手を自由にしておく使い方もあ ります。

る労りが必要です。
ストックを使用するときは山の自然に対すにダメージを与えることがありますので、突くことによって登山道周辺の植生や地形

### 四 休憩の取り方

の時間です。それ以降は五○分程度ごとに、そこまでは体を慣らすウォーミングアップ発してから三○分ほどで休憩を入れます。ことが大事です。まず最初は、登山口を出ことが大事では、体調を見ながら休憩をとる

地として選びます。
雪崩などのないような安全な場所を休憩適通行の邪魔にならない場所で、かつ落石や一般的な休憩の取り方です。他の登山者の一般的な休憩の取り方です。

況などを記録しておけば後で役立ちます。 たのコースを確認します。その地点に到着 ます。また、地図を開き現在の位置やその はを休ませ、水分やエネルギー源を補給し はで戻すことも必要です。そして疲れた した時刻、天候や休憩地までのコースの状 がかっていた。 した時刻、大候や休憩地までのコースの状 はないがでいる。 として疲れた

## 五 急坂の登り下り

がきくようになります。
急坂を登るときに息が苦しくなることがあります。その場合には、少し立ち止まがあります。その場合には、少し立ち止まがあります。その場合には、少し立ち止まがきくようになります。

ると、ひざや腰に負担が大きくかかります。急坂の下りでは、惰性にまかせて着地す

ゆっくりと進みます。歩幅も特に小さくしてで斜面を捉えます。歩幅も特に小さくして下るときには体を横向きにして、靴裏全体で斜面を捉えるようにします。特に急な斜面を下るときには体を横向きにして、靴裏全体で斜面を捉えます。歩幅も特に小さくしと速度と歩幅をセーブし、静かな重心移動と

# **六 段差のある場所の通過**

刻むと足に負担がかかりにくくなります。 をくなるようにし、なおかつ歩幅を小さく をに上げ下げして、一歩一歩の高低差が小 連続するときは、正面向きではなく足を斜 をに上げ下げして、一歩一歩の高低差が小 をいとき、段差が長く を対して、一歩一歩の高低差が小 をいとさ、段差が長く

### 七 岩場の通過

まず落ち着いて、手がかりと足がかりにな「三点確保(三点支持)」です。岩場では、岩場を安全に登り下りする基本技術は

左右に少しずつ移動するようにします。とおの突起や割れ目を見定めます。前後地方向にどれか一点だけを動かすようにして登ります。遠くにある手掛かりや足離して登ります。遠くにある手掛かりや足場をとらえて無理に登るのではなく、前後場をとられて無理に登るのではなく、前後場をとられて無理に登るのではなく、前後をとられて無理に登るのではなく、前後をとられて無理に登るのではなく、前後をとられている状態があるようにします。

見つけながら、ゆっくり慎重に下ります。足場が良く見えるように足場と手がかりをに密着させずに浮かした状態で、特に次の登りよりも下りの方が危険です。体を岩場前面を岩場に向けて後ろ向きで下ります。

# 八 クサリ場 (鎖場)、ロープ場の通過

ープに揺さ振られて危険なことがあります。 クサリやロープを両手でつかんで全体す。 クサリやロープを両手でつかんで全体サリやロープに頼りすぎないことも必要で確保 (三点支持)」が基本です。しかし、クープに揺さ振られて危険なことがあります。

ロープを握るようにします。があります。必ず手袋をした手でクサリやまた、クサリやロープで手を傷つける恐れ

### ハシゴ場の通過

九

基本的なハシゴ場の通過方法は、岩場と します。手はハシゴの横棒を確実ににぎ いこ三点を確保します。ハシゴ場で到達したら いきません。まず、ハシゴ場に到達したら できません。まず、ハシゴ場に到達したら が交差したり追い越したりすることは が方向からくる登山者がいないかどうか確 に声をかけあってどちらかが待機して相手 に進路を譲ります。

# - ガレ場、ザレ場の通過

険があるのでできるだけ休憩せずに通過すことが大事です。また、ガレ場は落石の危を探しながら、確実に登山コース上を進む定になることがあります。登山道のマークガレ場はコース外では極端に足場が不安

るようにします。

保しながら通過することが必要です。とられて滑って転倒する危険があります。健斜のあるザレ場では、小石や砂に足を

# 十一 ヤセ尾根の通過

普通の尾根や稜線は、登山道がついていでの尾根や稜線は、登山道がついていたが必要です。登山者が交差するだけのとが必要です。登山者が交差するだけのとが必要です。登山者が交差するだけのとが必要です。登山者が交差するだけのに変快な登山コースになります。しかし、は爽快な登山コースになります。しかし、おし、がでは、それを通過するでは変けるでは、それを通過するでは変けるでは、

### 十二 沢の渡渉

谷筋に登山道がついている場合には、水

が流れている沢を何度か渡ることがあります。沢では水量が少なくても、流速が予想以上に大きく徒渉が可能なのは靴に水がかかる程度までが限界です。水深が足首以上の深さになると危険ですし、膝まであれば渡渉できません。これらの場合には。飛び石を置いて渡るか、丸木橋などを架けて十分に注意して渡ることになりますが、雨天後などでは増水していることがあるので特に注意する必要があります。状況によっては、沢の渡渉を断念することが必要になります。

### 十三 雪渓の通過

冬山の登山は別にしても、一般的な登山を山の登山は別にしても、一般的な登山をは、クレバス(亀裂)に落ちる危険があって水が高いとなるような地形の上を歩くことは、クレバス(亀裂)に落ちる危険があります。大きな雪渓の谷底となるような地形の上を歩くことは、クレバス(亀裂)に落ちる危険がありません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に避けなければなりません。まるので、特に強いなりません。まるのではなりません。まるのではなりないないは、

# 十四 水分とエネルギー源の補給

で栄養価の高いものを行動食として持参し言います。個人の好みもありますが、軽量あります。そのための食料を登山行動食とルギー源を補給して体力を維持する必要がまた、登山では通常の食事以外にもエネまた、登山では通常の食事以外にもエネ

# -五 山歩きのその他の大事な注意

登山歩行中ではトイレが問題になります。 自然の中でも生理現象を我慢すること はとてもできませんし、それを避けるため に水分補充を我慢することは登山では大き に水分補充を我慢することは野山では大き はとてもできませんし、それを避けるため はとてもらう必要があります。

技術シリーズI」を読んでみてください。地図を読むこととコンパスを使うことは必ず合わせて必要なことです。山行計画を立て合うえでも実際に山を歩くうえでも、コンパスを使って「地形図」を読み山の地形ととコンパスを使いてなることはできるようになることはとコンパスを使いこなす方法については、「宮城山岳」第二十二号の「登山の知識としている。単図を読むことができるようになることとコンパスを使いこなす方法については、「宮城山岳」第二十二号の「登山の知識としている。地図を読むことができるようになることとは、山歩きにはとている。

# 登山指導者の育成法 1

# 私の登山技術指導法」

### 橘二義

山に登るには、正しく理解しなければい山に登るには、正しく理解しなければいと認識してはいないでしょうかれなかったと認識してはいないでしょうかったと認識してはいないでしょうかったと認識してはいないでしょうかったとは着えらをが出にくいと考えています。一番登山行動の難易度を技術的な視点で分け、

登山行動の難易度を技術的な視点で分けるよ、①歩くだけで目的を達成できる山、②時々手を使う必要のある山、③手足を使つないと登れない山、④手足と共に時々道のまない山、⑤道具を積極的に使わないと登れない山、⑤がは、④・受力ない山、⑥がは、④・受力ない山、⑥がは、○・できる山、○・できるいり、○・できるいり、○・

るのは、歩くことだけで登れる山から、時な手を使って登る事が出来る山、そして手たと共に時々道具を使わないと登れない山たられた環境で歩くのではありませんから注が必要なのです。不整地環境での歩きは活前が必要です。足の運び方、着地点の選択等です。細かい事を云えば、着地点とはた時には、瞬時に別の足に体重を移す事した時には、瞬時に別の足に体重を移す事と捻挫や転倒を回避出来ることが多くなるのです。

のです。

のです。

のです。

のです。

はどうか?滑落時の伸び具合はどうか?使う立場で物を見る事が大切です。重量

れが出来ない事が特に女性には多いのです面に食い込ませることを練習しますが、こ

緩斜面で練習し、交互にかかとを水平に雪

のです。こんな時に小生は次のように指導 時に、靴の底を水平にしてかかとで鉛直に します。最初から急斜面を使わない事で、 もなかなかうまく行動に移すことが難しい 体重を掛けるように降りる、と説明されて ば雪上の斜面を下ることを覚えようとする を重ねて身につける必要が有ります。例え 実技の指導を受けることに加え、自ら訓練 どうか?また、手袋を使用しての操作性は 問題なく操作が出来るということは重要 時には、しっかりした使用目的を持つこと 着きはこれが大切ですので、購入を考える るのです。カラビナも同様です。どんなと など、使用する側の目で確認する必要があ 熱に対する変化はどうか?水に対しては ですし、自ら馴れておくことも大事です。 が大切なことです。そして手袋を使っても ころに使用するのかや操作性、特に安全環 技術については座学だけではだめです。

らこのようにするんだとデモンストレーシ 動を分割して少しずつ身体で覚えてもらう 習する。これが出来るようになったら次に 縄跳びの要領です。次に、一緒に着雪面を 着雪することをしてもらいます。 要するに すが、まず、両足一緒に飛び上がり一緒に 発展させることが理解を速め、 ョンしても、自分の身体でもうまく使いこ 手法をとっております。出来る方が最初か ていくのです。このように、覚えるべき行 を入れる指導して緩斜面で出来るようにな れが出来たなら、同じ要領で片足着地を練 と忘れにくいのです。 なせない事が多いのですから分けて教えて ってから、徐々に斜度を変え急斜面に移し れが出来たら、少し前に進めるように歩幅 交互に着地することを練習する。 さらにこ 水平に着くことを意識してもらいます。こ これを解決するのに少し時間が掛かりま 一度覚える

消落停止は、最終体位の停まった形を覚えまず、ピッケルの持ち方から入りますが、ピッケルを使った滑落停止も同様です。

勢をとる練習です。最終的には荷物を背負 腹ばいになる練習を繰り返しながら、 気よく練習します。 これがうまく出来たな とピッケルに体重を掛けられるように、根 が、脇腹の開きが無くなるまで、しっかり なことは、落ちながら停止動作を続けます 度を早くして練習するのです。ここで大切 刺して停止することを体験します。これの 形が出来るようになると、ずり落ちるくら ケルの刺し方を練習し、 てもらいます。停まった状態で何度かピッ って風にとばされ逆さまになった姿勢を想 ばいになる事や、 に斜度をきつく取り落ちながら腹ばいにな ら、また下に戻り、背中又はお尻で滑り、 次には、腹ばい滑落の斜度をあげて滑落速 いの斜面を使い、 た状態から手繰り寄せて持ち直し、停止姿 その後は多々ある転落時の体位から腹 そして停止体制になることを練習しま ピッケルが身体から離れ 腹ばいで滑りピッケルを 脇の下が開かない 徐々

> 表えると云うことは双方の信頼関係が大 物えると云うことは双方の信頼関係が大 切ですし、説明したことを理解してもらう ことが重要です。この関係が無いと成果は 上がりません。そして出来ない時に、教え る側が短気を起こしたのでは相手は伸びま せん。教える側が出来ない事の理由を分析 して更に細かく指導する事が大切です。教 えられる側も共に考える事が大切です。教 たられる側も共に考える事が大切です。教 で大いに歓迎すべきなのです。

特に失敗は大切です。多くの危険体験と共 で山を見ております。通年登山を実践す るには、季節毎の環境変化を認識し、その 行動の安全を持続するために多くの知識と で山を見ております。通年登山を実践す

失敗や事故の防止に繋がると考えておるのを大切にし、仲間内で共有することが同じに、事故防止に必要な経験となるので失敗

です。

# 日本山岳会宮城支部資料編

# 公益社団法人日本山岳会 宮城支部規約

平成二四年四月一日制定 平成三一年四月二一日一日部改正 平成二九年四月八日一日部改正 平成二八年四月二四日一日部改正 平成二六年四月五日一日部改正

第一章 総則

第一条 う)と称する。 の支部を置き、この支部を日本山岳会宮城支部(以下本支部とい 宮城県に公益社団法人日本山岳会(以下「本会」と言う)

(事務所及び支部地域)

第二条 本支部は、事務所を宮城県内に置く。

2 本支部の支部地域は、主として宮城県とする。

第二章 (目的) 目的及び事業

第三条 定款第3条に定める活動を本会と一体として行うことを目的と 本支部は、本会の定款及び支部に関する規定に基づき、

(事業)

第四条 る事業を行う。 本支部は、 前条の目的を達成するため、次の各号に掲げ

- (1) 国内登山の企画及び実施
- (2) 山岳に関する研究会、講習会、 展覧会等の開催
- (3)登山施設の改善に関する活動
- $\widehat{4}$ 自然保護活動の推進
- 5 海外登山の企画及び実施
- 6 機関誌「宮城山岳・宮城山岳通信」の発行
- 7 目的を同じくする他団体との連携及び情報交換
- (8)その他本支部の目的を達成するために必要な事業

第三章 会員等

(支部会員及び準会員)

第五条 本支部の会員(以下「支部会員」という。)は、本会の会 2 員であって、本支部の目的に賛同する個人又は団体とする。 本支部の準会員(以下「支部準会員」という。)は、本会の

- 3 となることを希望する者は、その旨、支部長に届け出て役員 準会員であって、本支部の目的に賛同する個人とする。 本会の会員又準会員にして新たに支部会員又は支部準会員
- 3 なければならない。 本支部を退会しようとする者は、退会届を支部長に提出し

会の承認を得るものとする。

には、支部長は総会の決議により本支部からの退会を勧告す 本支部の体面を汚したり、本支部の事業に協力しない会員

ることが出来る。

(支部名誉会員)

第六条 本支部に対して特に功労のあった者のうちから、役員会 が推薦し、総会で承認された者を支部名誉会員とする。

第四章 役員

(役員)

第七条 本支部に次の役員を置く。

(1)役員一○名以上二○名以内(うち一名を支部長、一名以上 を副支部長、一名以上を会計担当とする。

(2) 会計監事二名以内

(役員の職務)

第八条 本支部に役員会の了承を得て顧問を置くことができる。

部長を補佐し支部長から委託された会務を分担執行する。役 員は本支部の会務を分掌する。会計監事は会計を監査する。 支部長は本支部を代表し業務を総括する。副支部長は支

(役員の選任)

2 役員のうち支部長については、選任後、本会理事会の承認 役員は支部会員の中から総会において選任する。

を求めなければならない。

事については他の役員との重任は出来ない。 役員の任期は2年とし、重任を妨げない。但し会計監

2 は、原則として再任終了後、少なくとも一任期以上の期間を 役員は再任を妨げない。但し支部長における再再任の場合

経過した後でなければならない。

第五章

第十二条 総会は全ての本支部会員をもって構成し、招集通知を二 週間前までに発信しなければならない。

(2)総会は、過半数の本支部会員の出席で成立する。ただし、

- 3 告、事業計画及び予算の承認を得なければならない。また、 支部長は毎年一回以上総会を招集し、事業報告、会計報 あらかじめ書面で意思を表示した者は出席者とみなす。
- 4 総会の議長は支部長とする。

任期に基づき役員の改選を行わなければならない。

- 5 総会の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同 数の時は議長の決するところとする。
- 6 長に報告しなければならない。 支部長は、第三項の内容を総会終了後、速やかに本会会
- 支部総会における議決権は支部会員のみが持つ。

(役員会等)

2

第十三条 本支部の運営を円滑に行うために本支部に全役員を構 成員とする役員会を置く。

- 2 役員会は本支部の運営に必要な事項を審議する。
- 3 役員会は、支部長がこれを収集する。
- 4 く。委員長及び委員は、役員会の承認を得て支部長が任命す る。但し、委員長は役員の中から選任するものとする。 第四条の事業を円滑に行うために本支部に各種委員会を置
- 5 各種委員会の名称は次の各号に定めるとおりとする。

- 総務・財務委員会
- 一山行集会委員会
- 一 会報・編集出版委員会
- 海外・高所登山・医療委員会
- 五 自然保護・科学委員会
- 指導・遭難対策・岳連委員会
- 女性懇談委員会

メディア委員会

- 必要に応じ、役員会の特別委員会を設置することができ
- 1

第六章 会計

- 事参加費は、役員会の議を経て別に定める。 本支部の会員及び準会員ならびに支部友会の会員の山行行
- 会会長に報告しなければならない。 支部長は、前項の内容を毎会計年度終了後1月以内に、本

(会計年度

三月三一日に終わる。 第十五条 本支部の会計年度は、毎年四月一日から始まり、翌年

第七章 事務局

(事務局)

務局には事務局長及び職員を置くことができる。第十六条 本支部の事務を処理するため、事務局を設置する。事

2 事務局長は役員会の承認を得て支部長が任免する。

(備付書類

- うつこする。 第十七条 - 本支部の事務所には、次に掲げる書類等を備えて置く

- (1)本支部規約、支部友会(第 20 条に規定)ものとする。
- (2)本支部会員・準会員・支部友会会員名簿
- (3) 総会及び役員会の議事録
- (4)その他、本支部の運営に必要と認められる書類等
- 2 本支部の事業報告書及び決算書

第八章 解散

(任意解散)

より解散することが出来る。第 1 十八条 本支部は、支部会員現在数の 3 分の 2 以上の同意に

(本会理事の審査による解散)

より解散する場合がある。第十九条(本支部は、本会の支部に関する規程第15条の規定に

第九章 支部友会

(支部友会)

支部友会会員とする組織を置き、名称を「公益法人日本山岳会 2を希望する山岳愛好家(日本山岳会会員、準会員を除く。)を第二十条 本支部は、本支部の目的に賛同し山行等の事業への参加

宮城支部・支部友会(以下、支部友会と言う。」と称する。)

2 支部友会に参加を希望する者は、別に定める一定の条件を 満たすことが役員会で承認され、かつ、所定の入会金及び年 会費を納入する事により支部友会に加入することが出来る。

## 3 支部友会に関する会則は別に定める。

(規約の改廃)

規約の改廃

第二十一条 この規約は、総会における支部会員現数の二分の一 以上の決議によって改廃することが出来る。

### (重要事項の変更)

第二十二条 本支部の名称及び支部地域の変更等重要事項の変更 については、本会理事会の承認を得なければならない。

## 第二十三条 この規約の施行に関し必要な事項は、 を得て支部長が別に定めることが出来る。 役員会の承認

2

- 1 この規約は、 平成二四年四月一日より施行する。 平成二六年四月五日一日より施行する。
- 3 この規約は、 この規約は、 平成二八年四月二四日より施行する。
- この規約は、 平成二九年四月八日より施行する。
- 5 この規約は、 平成三一年四月二一日より施行する。

# 公益社団法人日本山岳会 宮城支部内規

制定 追加 平成三一年四月二一日 平成二八年四月二四日

### (趣旨)

と言う。) 規約第 23 条の規定に基づき、 宮城支部の運営に関する細 目について定めるものである。 本内規は、公益社団法人日本山岳会宮城支部(以下「宮城支部」

# 第一 本部・他支部等行事参加者への費用助成

- (1)国各支部催事行事を含む。)に参加する会員の代表者に対し して費用助成する。 支部長が必要と認める公益社団法人日本山岳会催事行事(全
- (2)費用助成する額は、役員会の審議を経て支部長が予算範囲内 で決定する。
- 費用助成の申請手続きについては別に定める。
- (4)(3)費用助成を受けた者は、参加した行事の概要について支部長 に報告しなければならない。

# 第二 山行行事参加費(平成三一年四月二一日追加

(1)る。 宮城支部規約第14条第2項(平成三一年四月二一日改正) 会員及び準会員並びに支部友会の会員から、参加費を徴収す に基づき、支部長は宮城支部が実施する山行行事に参加した

- (2)参加費は、当面の間、 して徴収する。 五〇〇円とし、支部長が領収書を発行
- (3)徴収した参加費は、宮城支部の会計に繰り入れる。

# 公益社団法人日本山岳会 宮城支部友会会則

第一条 本会は、公益社団法人日本山岳会宮城支部友会と称する。

愛好家が、 公益社団法人日本山岳会宮城支部(以下、「宮城支 上に努めることを目的とする。 城支部会員との交流を行いながら、登山に関する知識と技術の向 部」と言う。)が実施する山行等の事業に参加することを通じて宮 育、文化及び自然保護の精神の高揚を図ること」に賛同する登山 会員相互の連絡懇親をはかるとともに、登山を通じてあまねく 体 究並びに知識の普及及び健全な登山指導、奨励をなし、あわせて 第二条 本会は、公益社団法人日本山岳会の目的とする「山の研

第三条 本会の管理・運営は宮城支部の事務局が行う。

第四条 同し、次条に定める入会金及び年会費を納める個人とする。 本会会員(以下、「支部友」と言う。)は、本会の目的に賛

## (入会金及び年会費)

第五条 入会金は一〇〇〇円とする。

2 年会費は三〇〇〇円とする。

3 入会金の納入先及び年会費の納入方法は、 別に定め

### 入会

第六条 本会に入会を希望する者は、宮城支部の会員・準 会員の紹介により、所定の入会申込書を提出し、宮城支部役員会

前項の入会申込書は随時提出てできるものとする。

3 入会承認の通知を受他時は、二週間以内に入会金及び当該年

の承認を受けなければならない。

(支部友の権利)

度の年会費を納付するものとする。

第七条 支部友は、次の各号の権利を有する。

宮城支部が実施する山行及び各種集会への参加

(2)宮城支部が発行する機関誌「宮城山岳通信」の各号及び「宮城 山岳」の記念誌(特別号)の配付

第八条 支部友は、次の各号のいずれかに該当する場合その資格を

退会届が提出されたとき

平成三一年四月 二二日から改正施行する。 この会則は、宮城支部の平成三一年度通常総会の日の翌日

(4) 除名されたとき(2) 二ヶ年以上会費を

死亡又は失踪宣告が確認されたとき二ヶ年以上会費を滞納したとき

### (任意退会)

届を提出しなければならない。 第九条 支部友が、本会から任意に退会しようとするときは、退会

### ( ) ( )

宮城支部役員会の決議を経て、これを除名することができる。第十条 支部友が、日本山岳会又は本会の名誉を傷つけたときは、

### (事業年度)

三一日に終わる。 第十一」条 本会の事業年度は、毎年四月一日に始まり、翌年三月

### (事業及び会計)

本会の会計は宮城支部会計と一体的に行うものとする。第十二条 本会の事業は宮城支部事業と一体的に実施するとともに、

### (会則の改廃)

ことができる。 第十三条 この会則は、宮城支部の役員会の決議によって改廃する

### | ||

# 日本山岳会宮城支部登山計画書に関する取扱い基準

二〇一八年一〇月二四日 一部改正二〇一八年三月二一日 制定

### 目的

この基準は、公益社団法人日本山岳会宮城支部(以下「宮城支部」この基準は、公益社団法人日本山岳会宮城支部」この基準は、公益社団法人日本山岳会宮城支部」この基準は、公益社団法人日本山岳会宮城支部」この基準は、公益社団法人日本山岳会宮城支部・

### 適用範囲

及び活動とする。 対象となる山行は、会員等が山域、山岳地域等で行う全ての山行

### 山行区分

山行区分は次のとおりとする。

① 月例山行、公募山行などの宮城支部が管轄、主催する支

部山行

133

- ② 会員等が、個人又はグループで企画、実施する個人山行

## ・登山計画書の書式

のについては可能とする。様式での提出でも登山計画書及びメンバー表が具備されているもに必要な事項を記載して提出するものとする。警察などの登山届出に必要な事項を記載して提出するものとする。警察などの登山届出

# 5 登山計画書の受理、検討機関

書を受理し、検討するための機関に当てるものとする。導・遭難対策委員会(以下「委員会」と言う。)をもって登山計画宮城支部は、公益社団法人日本山岳会宮城支部規約に定める指

- の再考を促す。 見直し等の必要があると認める場合には助言し、登山計画書① 委員会は、提出された登山計画書について、検討を行い、
- 理する。
  ② 最終的に受理した登山計画は、委員会にお置いて適切に管

# 6 支部山行、個人山行の登山計画書の本部への提出方法

する。 支部山行及び個人山行の登山計画書の提出方法は次のとおりと

- ① 支部山行及び個人山行のリーダーは、山行予定日の二週間
- 局へ報告する。 の登山計画書を、山行予定日の一週間前までに宮城支部事務の登山計画書を、山行予定日の一週間前までに宮城支部事務の委員会は、5の規定により確定した支部山行及び個人山行

- 第三順位 三宅泰第一順位(山行・集会委員長)、第二順位(副支部長)、絡者名を残し、第二順位、第三順位の順に連絡する。紹守本部担当者は次のとおりとする。不在時には留守電に連

### 下山後の報告

7

- ① 登山計画書を提出した者は、下山後速やかに留守本部担当者
- 対策委員長及び事務局長に報告するものとする。 愛 報告を受けた留守本部担当者は、遅滞なくその旨指導・遭難

# 遭難事故発生時の連絡

に関して委員会及び本部遭難対策委員会に連絡する。留守本部担当者は、次の状況を認識したときは、遭難事故の情報

- ① 事故者の救助のため、警察、消防、山小屋、その他の公的
- ② 予定下山日時を過ぎても連絡がなく、遭難救助活動を開始

# 二〇一九年四月現在 宮城支部所属者名簿

役員会構成・委員会構成

宮城支部所属会員名簿

# 宮城支部所属準会員名簿

### 会員番号 氏名 会員番号 氏名 8075 阿部郁夫 14613 富塚眞味子 10155 石井幸一郎 11840 鳥田笑美 13678 宇都宮義明 13755 鳥山文蔵 12986 遠藤銀朗 10048 中里政信 11476 太田 正 12908 中塩一夫 16356 加藤知宏 15883 永浜洋光 8813 木皿 謙 7354 西郡光昭 9021 14162 草野洋一 細川光一 13847 熊谷美奈子 14563 松田照夫 11830 佐藤昭次郎 11383 三上勝宣 7018 柴崎 徹 14968 三上マリモ 4817 庄司駒男 10060 三宅 泰 16028 10005 鈴木晃三 森山日出男 7618 千石信夫 12717 八島 寛 7565 髙橋 功 14448 山内武巳 7885 9597 山口正人 髙橋二義 14480 田代 侃 13002 横山 哲 7211 千田早苗 4781 東北大学山岳部 12948 千葉正道 9823 東北大学山の会 14612 富塚和衛

# 宮城支部友会会員名簿

準会員番号	氏名
A 0018	守田靖志
A 0059	遠藤幸寿
A0063	山田ふき子
A 0058	新井田裕司
A0057	榧野光永

### 氏名 氏名 津田久美子 岩渕利秋 菅原幸寿 鳥田伊志 針生紀子 土海隆義 蔭山美緒子 山口千賀子 白田昭一 多田孝徳 村上敏郎 佐藤富士子 川島郁子 植松恵美

山田孝司

村上せつ子

津久井 宏

# 宮城支部各種委員会構成

役職	2019-2020委員
総務・財務委員	
長	富塚和衛
委員	富塚眞味子
山行集会委員長	佐藤昭次郎
委員	鈴木晃三
委員	千石信夫
委員	遠藤銀朗
委員	太田 止
委員	三宅 泰
委員	富塚和衛
委員	草野洋一
委員	加藤知宏
会報・編集出版 委員長	遠藤銀朗
委員	富塚和衛
委員	三宅 泰
委員	千石信夫
委員	細川光一
海外・高所登 山・医療委員長	千葉正道
自然保護・科学 委員長	柴崎徹
委員	高橋二義
委員	宇都宮昭義
指導・遭難対策 委員長	高橋二義
委員 (遭難対 策本部長担当)	富塚和衛
委員	他役員全員
女性懇談委員長	鳥田笑美
委員	富塚眞味子
メディア委員長	富塚和衛
委員	加藤知宏

役職	任期2019 -2020年度
支部長	富塚和衛
副支部長	遠藤銀朗
事務局長	富塚和衛
会計	富塚真味子
会計監事	木皿 謙
会計監事	草野洋→
役員 (順不同)	佐藤昭次郎
役員	三宅 泰
役員	千石信夫
役員	鈴木晃三
役員	柴崎 徹
役員	鳥田笑美
役員	高橋二義
役員	千葉正道
役員	横山 哲

### 桃里公司

日本山岳会宮城支部設立六○周年記念誌(「宮城山岳」第二十三号)を、予定通り無事に発行することができました。これり無事に発行することができました。これまに、宮城支部に所属する会員そして支にに、宮城支部にの絶大なご支援をいます。

この記念誌では、支部設立五○周年を迎えた年以降の一○年間の記録をできるだされている方々の現在の思いを後世に残されている方々の現在の思いを後世に残け克明に記録することと、宮城支部に関係し、多少記録が曖昧なために、たいへん失し、多少記録が曖昧なために、たいへん失さがあるかもしれないと危惧しております。 本で容赦いただければありがたく思います。 この記念誌では、支部設立五○周年を迎 されている方々の現在の思いを後世に残 されている方々の現在の思いを後世に残 されている方々の現在の思いを後世に残 されている方々の現在の思いを後世に残 されている方々の現在の思いを後世に残 されている方々の現在の思いを後世に残 は、方部設立五○周年を迎

宮城支部の山岳活動を担ってこられた先白山宣言」にも記載してありますように、業記録編の「宮城支部設立八○周年記念太業の記録の重視は、六十周年記念祝賀事

と考えたためです。と考えたためです。と考えたためです。自然と文化の恩恵を享受することの意義で、これからの時代を担う世代に、山岳の人の足跡を後世代に伝えるためです。そし

感謝申し上げ編集後記といたします。この支部設立六○周年記念誌がそのよなことに少しでも役立つものであれば、こなことに少しで絶大なご協力に、心から深くのために、宮城支部に関係する皆様からいただきました絶大なご協力に、心から深くただきました絶大なご協力に、心から深くのようにがあります。

宮城支部設立六○周年記念誌編集部会宮城支部設立六○周年記念事業特別委員会

### 訂正記事

た 。お詫びし訂正いたします。 山隊隊長 第五登 (南西稜)」の間違いでしは、正しくは「コー・イ・バンダコール登は、正しくは「コー・イ・バンダコール登頂」「宮城山岳」第二十二号 三○ページの「追「宮城山岳」第二十二号 三○ページの「追

### 日本山岳会宮城支部60周年記念誌 (「宮城山岳」第23号)

発行日 2019年6月28日

発行者 公益社団法人日本山岳会宮城支部・支部長 富塚和衛

編集部会員 遠藤銀朗、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 983-0821仙台市宮城野区岩切畑中9-12

事務局長 富塚和衛

Tel-Fax 022-255-7398, E-mail myg@jac.or.jp

